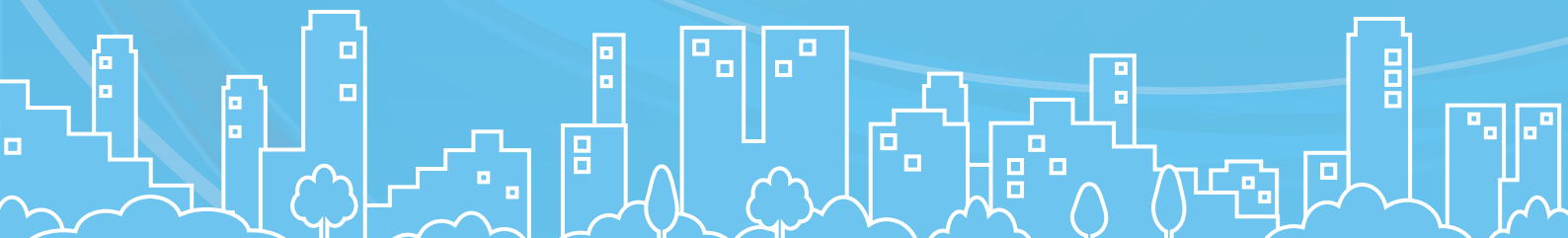
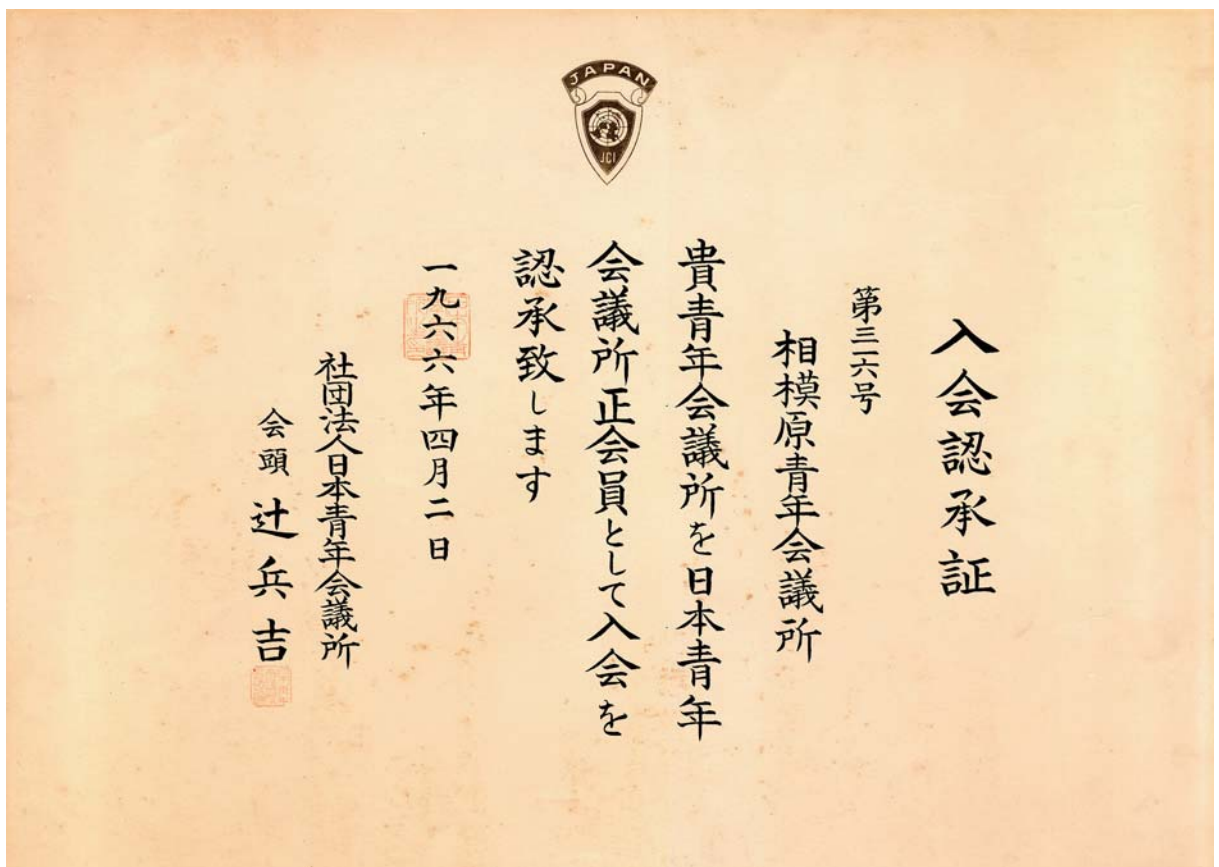




THE 50 公益社団法人相模原青年会議所 創立50周年記念誌
th ANNIVERSARY
JCI  Junior Chamber International Sagamihara





目 次

相模原青年会議所 入会認承証	1
目 次	
セレモニー	4
JCIクリード・JCI Mission・JCI Vision	
JC宣言文並びに綱領・関東地区宣言・LOM宣言	
第50代理事長 挨拶	6
シニアクラブ 会長 挨拶	7
神奈川県知事 祝辞	8
相模原市長 祝辞	9
相模原商工会議所 会頭 祝辞	
相模原市自治会連合会 会長 祝辞	10
公益社団法人日本青年会議所 会頭 祝辞	
公益社団法人日本青年会議所 関東地区協議会 会長 祝辞.....	11
公益社団法人日本青年会議所 関東地区 神奈川ブロック協議会 会長 祝辞	
一般社団法人川崎青年会議所 第65代理事長 祝辞	12
韓国釜山海雲台青年会議所 会長 祝辞	13
相模原青年会議所50年の歩み	14

目次

創立50周年記念事業

記念式典	50
記念講演	52
祝賀会	54
第43回神奈川ブロック大会 相模原大会	56
特集記事	
桜まつり.....	62
日本ボーイスカウト神奈川連盟 県央地区 相模原第7団	66
さがみはらS-1グランプリ	67
女性会員座談会(女性メンバーの声)	68
さがみ風っ子トレイルランニング.....	72
日本青年会議所出向者特別インタビュー	74
創立50年代LOM運動指針	80
正会員名簿.....	84
OB名簿	91
編集後記	98

Ceremony

JCI クリード

The Creed of Junior Chamber International
We Believe;

That faith in God gives meaning and purpose to human life;
That the brotherhood of man transcends the sovereignty of nations;

That economic justice can best be won by free men through free enterprise;

That government should be of laws rather than of men;

That earth's great treasure lies in human personality ; and

That service to humanity is the best work of life.

我々はかく信じる：

「信仰は人生に意義と目的を与え人類の同胞愛は国家の主権を超越し

正しい経済の発展は自由経済社会を通じて最もよく達成され

政治は人によって左右されず法によって運営されるべきものであり

人間の個性はこの世の至宝であり人類への奉仕が人生最善の仕事である」

JCI Mission

To provide development opportunities
that empower young people to create positive change.

より良い変化をもたらす力を青年に与えるために発展・成長の機会を提供すること。

JCI Vision

To be the leading global network of young active citizens

若き能動的市民の主導的なグローバル・ネットワークになること。

J C 宣言

日本の青年会議所は
混沌という未知の可能性を切り拓き
個人の自立性と社会の公共性が
生き生きと協和する確かな時代を築くために
率先して行動することを宣言する

綱 領

われわれ JAYCEE は
社会的・国家的・国際的な責任を自覚し
志を同じうする者、相集い、力を合わせ
青年としての英知と勇気と情熱をもって
明るい豊かな社会を築き上げよう

関東地区宣言

われわれは 国づくりの先駆者^{さきがけ}として
責任と誇りをもち 愛する地域のため
個を確立し 同じ価値観のもと
共創しあい 関東地区は
日本の礎となる事を誓う

L O M 宣言

私達は
全ての世代の架け橋として
愛するこのまちの輝きを
共に「知り」 共に「育み」
選ばれるまち さがみはらを
「創造」します

私達青年会議所メンバーは
市民・諸団体・行政・企業・地域・隣人に至るまで手を取り合い
地域のリーダーとして
さがみはらのまちの宝(風土・歴史・文化・産業・人)を
共に知り 共に育て 発展させ 地域に活力と成長を生み出し
さがみはらの魅力を広く発信することにより
人が集まり 産業が集積し 選ばれ続ける
「明るい豊かなまち さがみはら」の実現に向けて行動します



公益社団法人相模原青年会議所は、東京オリンピックの翌年である1965年、昭和40年、当時、創立4年目であった相模原ロータリークラブの全面協力を受け、14名の有志によって設立の準備が始まりました。当時の相模原市の人口は約15万人。県下有数の内陸工業都市として成長していた相模原のまちに、青年会議所運動の灯が灯ったのは必然かもしれません。そして、川崎青年会議所様のスポンサーを受け、1965年9月18日に創立総会が行われ、翌年の1966年3月26日に甲府で開催された日本青年会議所の理事会において、4月2日付で、相模原青年会議所は晴れて35名の創立メンバーで、全国316番目のLOMとして承認を得ました。

今、私たち公益社団法人相模原青年会議所の運動があるのは、半世紀にわたり歩み続け、継承され続けた重い歴史の上にあるということを忘れてはなりません。この青年会議所の歴史は、決して同じことの繰り返しではなく、目まぐるしく変化する時代の中で、変革の能動者たらんとした先達たちが、「明るい豊かな社会」の実現を目指し、積極的な変化を創造し続けた足跡であると考えます。

創立以来、私たち公益社団法人相模原青年会議所に対して、ご支援、ご協力を頂きました行政、各種団体、多くの市民の皆様、そして同志であります各地青年会議所のご支援と厚い友情のおかげをもちまして、創立50周年を迎えることが出来たことを心より厚く御礼申し上げます。そして、これからも私たち公益社団法人相模原青年会議所は、地域の発展と共に力強く運動を展開していく所存です。これまで同様のご支援とご指導を賜りますよう切に願ひまして、理事長挨拶に代えさせていただきます。

公益社団法人相模原青年会議所

第50代理事長

佐藤 匠

創立50周年によせて



公益社団法人相模原青年会議所が創立50周年を迎えられましたことをシニアクラブを代表し心よりお慶び申し上げます。また、創立以来50年間に亘り青年会議所運動に対し、心温まるご支援を頂きました相模原市民の皆様をはじめ行政あるいは関係諸団体の方々に心より深く感謝申し上げます。

青年会議所50年の歩みは、地域の経済界・政界をはじめ様々な分野に数多の人材を輩出し、先輩後輩の多くの逸材が各界で活躍されております。人材の育成こそが青年会議所運動の真骨頂であることを実感しているところです。

私共シニアクラブは、現役にとって最も身近で、最も力強い応援団であり続けることを活動の信条にしております。50周年以降新たな歴史を紡ぐに当たり、現役は次代へ向けた運動指針を広く地域へ発信しております。私共は輝かしい将来へ向けて果敢に活動に取り組む現役を、これからも見守り続け支援してまいりたいと考えております。

創立50周年に際し、多くの青年会議所の仲間達から寄せられた、友情に満ちた激励に心より感謝申し上げます。

相模原青年会議所
シニアクラブ会長

新
倉

裕

祝 辞



公益社団法人相模原青年会議所が創立 50 周年を迎えられることを、心からお祝い申し上げます。

貴会議所は、1965 年の創立以来、多彩な事業の実施を通じて、地域社会の発展に大きく貢献してこられました。歴代の理事長をはじめとする役員の皆様、会員の皆様の長年にわたるご尽力に深く敬意を表します。

県では、相模原市を含む「さがみロボット産業特区」の推進によって、生活支援ロボットの早期実用化を通じた県民生活の安全・安心の実現、地域経済の活性化を目指しています。また、「かながわ商店街観光ツアー」など地域の魅力を発信する取り組みも積極的に行っているところです。

皆様におかれましては、引き続き地域社会の発展にご尽力いただきますとともに、県政の推進にもご理解とお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

結びに、創立 50 周年を契機とした、公益社団法人相模原青年会議所のますますのご発展と、会員の皆様のさらなるご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。

神奈川県知事
黒岩祐治

祝 辞



公益社団法人相模原青年会議所が、創立 50 周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴青年会議所は、昭和 40 年に創立以来、市民や行政と協働して地域の特性を活かした「まちづくり運動」を企画・運営されるなど、さまざまな社会貢献活動に取り組み、「地元・相模原」の発展ために熱心に活動を展開してこられました。特に、昭和 49 年に貴青年会議所が中心となって始められた「市民まつり」は、本市を代表するお祭りとして、市内外から多くの皆様にお越しいただき、親しまれております。これもひとえに、歴代理事長をはじめとする役員の皆様、会員皆様の長年にわたるご尽力の賜物であり、敬意を表するとともに厚く御礼申し上げます。

現在、本市では、リニア中央新幹線の新駅設置をはじめ、相模総合補給廠の一部返還地の活用、小田急多摩線延伸、圏央道インターチェンジ周辺の産業拠点の整備など、首都圏南西部をリードする広域交流拠点として、将来を見据えた「人や企業から選ばれる都市づくり」を進めております。

皆様におかれましては、引き続き、地域社会の活性化にご尽力いただくことによりまして、市政の発展にお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、創立 50 周年を契機とした、公益社団法人相模原青年会議所のますますの御発展と会員皆様の御健勝を心より祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

相
模
原
市
長

加
山
俊
夫



相模原商工会議所
会頭 杉岡 芳樹

相模原青年会議所の創立50周年おめでとうございます。

J Cの周年行事ということの記憶では、現役時代・故内田理事長の元で副理事長として20周年を経験したことが思い出されます。メインの記念事業として、本年姉妹締結30周年を迎える中国・無錫市そして北京への友好青年訪中団「青年の翼」を実施しました。J Cのみならず市内の青年も募り、同行しました。現在でもそのメンバーにお会いする機会があり、懐かしくその思い出を語られることがあります。J Cでなくてはできない事業であったと思います。

それから30年も経ちました。公益社団法人格も取得し、様々な地域活動においてJ Cメンバーと会う機会があります。地域においてますますJ Cがまちづくり団体としての地位を確立していることに誇りを持っています。50周年をステップとして、今後も地域の団体とも協働をして、明るいこころ豊かな相模原づくりにすすんでください。



相模原市自治会連合会
会長 田所 昌訓

創立50周年おめでとうございます。今日まで会を支え、発展させてきた会員はもとより、役員のご労苦にあらためて敬意を表させていただきます。

貴会が活動の目標の一つに掲げられている、みんなが参加しての地域づくり、人づくりは私たちの活動そのものであり、自治会に対しての心強い応援団とっております。会員の発議で開始された市民まつりは、いまでは市民が参加する相模原市の最大催事となり、こうした行動力が活動を象徴しており、このエネルギーがこれからも貴会をより強固に発展させるものと信じております。

最近自治会は会員の高齢化が進み、子育て世代がなかなか加入してもらえず、世代交代がすすんでおりません。これからも貴会との連携によりこの状況の解消を期待するとともに、貴会がこれからはますます会員を拡大して、さらに発展することを祈念し、自治会からの50周年記念の祝辞とさせていただきます。

祝 辞



公益社団法人日本青年会議所
会頭 柴田 剛 介

公益社団法人相模原青年会議所が本年度、創立五十周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。貴青年会議所のこれまでのご功績と、先輩諸兄から連綿と受け継いでこられました高い志に対して、深く敬意を表します。

本年度、日本青年会議所は、青年たちが日本の未来の先駆けとなるべく、「文化と文明が生み出す『底知れぬ力』による日本再興」を基本理念に地域と日本の再興を目指すべく活動しております。

公益社団法人相模原青年会議所におかれましても佐藤匠理事長のもと、地域と日本の再興の先駆けになるべく、今後も輝かしい活躍の歴史を積み重ねられますことを心より祈念申し上げます。

祝 辞



公益社団法人日本青年会議所
関東地区協議会会長 佐藤 友 彦

公益社団法人相模原青年会議所が創立 50 周年を迎えられましたことを、関東地区協議会を代表しまして心からお慶び申し上げます。また、日頃より関東地区協議会の運動に対しまして多大なるご支援ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

貴青年会議所は、創立されて以来、先輩諸兄の常に新しいことを追いかけてこられた先見性と、次代の担い手としての大きな責任を自覚しながら地域に根ざしたまちづくり運動を展開されてこられました。先輩諸兄が築き上げられたこれらの輝かしい運動を受け継ぐ者として、地域を愛する人々と共に、青年らしい多彩な価値観と独自性をもって、今後も地域の魅力と価値をさらに高めていく運動を続けていただきたいと思います。

結びに、佐藤理事長率いますメンバーの皆様が、「夢あふれるまち」の創造～心ふるわす行動で未来へつなぐ～スローガンのもと、次代の担い手として愛してやまない地域のために、これからも益々ご活躍をされますことを心からご祈念申し上げ、お祝いのご挨拶にかえさせていただきます。

祝 辞



公益社団法人日本青年会議所
関東地区神奈川ブロック協議会
会長

石井 紀彦

公益社団法人相模原青年会議所が創立50周年の節目を迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。50年に亘る歴史を紡ぎ、地域社会の発展にご尽力されてきた先輩諸氏と、誇り高き志を受け継ぐ現役メンバーの皆様に敬意を表します。また、永年に亘り神奈川ブロック協議会の運動にご理解とご協力をいただいていることに、改めて御礼を申し上げます。

貴青年会議所は1965年の創立以来、相模原市において強いリーダーシップを発揮しながら、様々な運動を展開され素晴らしい成果を挙げてこられました。そして、本年も佐藤匠理事長の掲げるスローガン「夢あふれるまち」の創造～心ふるわす行動で未来へつなぐ～のもと、未来を見据え地域社会を輝かせるため、ゆるぎない運動を展開されていることを喜ばしく思います。また、本年は第43回神奈川ブロック大会を主管していただきました。本大会は、神奈川県全域へ意識の変革を促す運動を伝播すると共に、相模原の魅力を発信する大きな機会になったと確信しております。

結びに、この50周年を契機に公益社団法人相模原青年会議所が今後ますます発展されることと、メンバーの皆様のご健勝とご多幸を衷心よりご祈念申し上げお祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



一般社団法人
川崎青年会議所
第65代理事長

羽山 友章

公益社団法人相模原青年会議所OB先輩諸兄の皆様、佐藤匠理事長をはじめとされます現役メンバーの皆様へ、創立50周年を衷心よりお祝い申し上げます。

リニアモーターカーの開通など様々な可能性を秘められている相模原を心ふるわす行動と事業で夢あふれるまちの創造につながられること、市民の方々お一人おひとりが、地域への誇りや愛着を持つ「郷土愛（シビックプライド）」を醸成していただけること、これからの十年先を見据えた運動の成功の積み重ねで「選ばれるまちさがみはら」へ向かわれますことを大いに期待させていただくと共に、同じ神奈川の青年会議所として共にこれからも切磋琢磨して参りましょう。

結びに、相模原市と相模原青年会議所の益々のご発展と皆様のご健勝と更なるご活躍を心よりご祈念申し上げます。スポンサーLOM理事長としてのお祝いの挨拶に代えさせていただきます。おめでとうございます。

祝 辞



韓国釜山海雲台青年會議所
會長

リ・ギョホ

私は韓国釜山海雲台 JC 会長のリ・ギョホです。
相模原 JC 創立 50 周年の行事に招待して下さった佐藤
匠理事長と会員のみなさまに感謝いたします。

まず、相模原 JC 創立 50 周年を心からお祝い申し上げ
ます。今日があるようにしてくれた先輩の方々にも敬
意を表します。

相模原 JC の創立 50 周年は非常に大きな意味を持つと考えております。

釜山海雲台 JC も相模原 JC 創立 50 周年を非常に特別に思っています。

いままで、卒業された歴代会長と OB 会員たちを代表して本日、祝賀のた
めに参加致しました。行事の御準備は大変かと思えます。しかし、今回の行
事が相模原 JC の今後の機運を高めることと確信します。

また、33 年間続いてきた海雲台 JC との友情は、今回の行事を機にさらに
強固になると確信しております。

現在、JC の理念を守って実践することが難しくなっています。しかし、韓
国 JC と姉妹 JC である相模原 JC で、より一層 JC を発展させていきましょう。

これまでの 50 年がそうであったように、今後も相模原 JC は、存在し続け
るでしょう。

そして、50 年 100 年後も海雲台 JC と共に発展することをお約束します。

尊敬する佐藤匠理事長、愛する相模原 JC の会員の皆様に改めまして、この
度の歓迎と友情に感謝致します。

また、すべての方たちの今後のご発展と幸運とご健康をお祈り申し上げます。
ありがとうございました。

안녕하십니까 저는 한국 부산 해운대 JC 회장 이규호 입니다.

JC 우정으로 사가미하라 창립 50 주년 행사에 초청해 주신 사토 타쿠미 이사장님과 회원 여러분
께 감사드립니다. 우선 사가미하라 JC 창립 50 주년을 진심으로 축하드리며 오늘이 있게 해주신
선배님들께 경의를 표합니다.

사가미하라 JC 의 창립 50 주년은 매우 큰 의미를 갖는다고 생각합니다. 저희 부산해운대 JC 도
사가미하라 JC 창립 50 주년을 매우 특별하게 생각하고 있습니다. 다수의 전역하신 역대회장님
들과 YB 회원들이 축하 드리기 위해서 참석하였습니다.

행사 준비와 많은 손님들로 힘드셨을 거라 생각합니다.

하지만 이번 행사가 사가미하라 JC 의 위상과 명예를 드 높일 것이라 확신합니다.

또한 33 년간 이어온 해운대 JC 와의 우정 또한 이번 행사를 계기로 더욱 굳건해지고 명예로워
질것이라 확신합니다.

시대적으로 JC 의 이념을 지키고 실천하기가 힘들어 지고 있는것 같습니다. 하지만 우리 JC 형
제들은 더욱 발전된 생각과 책임감으로 더욱 JC 를 발전시켜 나갈 것입니다. 이 모든것의 선두에
지난 50 년이 그러하였듯 사가미하라 JC 가 당당히 서 있을 것입니다. 그리고 그 자리의 앞으로
50 년 100 년에 해운대 JC 가 함께 할 것임을 약속합니다.

존경하는 사토 타쿠미 이사장님, 사랑하는 사가미하라 jc 회원여러분 다시 한번 환영과 우정에
감사드리며 아울러 모든 분들의 앞날에 큰 영광과 행운과 건강을 기원드립니다.
감사합니다.

相模原青年会議所50年の歩み

1965年～1970年



初代理事長
矢島 治

1965

昭和40年

創立総会の開催
認承証伝達式の挙行
(認承番号 316 号)

1966

昭和41年

学童通学路標識の寄贈
「からだの不自由な子に大きな夢を」
ドリームカード発行
JCデー特別講演会の開催



第2代理事長
土屋 定

1967

昭和42年

市議会議員を囲む会の開催
県議会議員を囲む会の開催
JCデー「交通戦争から市民を守ろう」の実施調査
神奈川ブロック、ジャガイモ大会の主管
広報紙「柴胡」第1号発刊



第3代理事長
飯田 亨

1968

昭和43年

JCデー「市教育長を囲む会」の開催
「市立青年の家」立看板寄贈
一般公開例会、交通法令講習会の開催
ジャガイモゴルフ、家族会、
ボーリング大会などの開催



第4代理事長
古藤 友昭

1969

昭和44年

神奈川ブロック協議会主管
市長を囲む会「本年度の市政について」開催
JCデー「青少年問題」市民討論会の開催
防衛問題アンケートの実施
社会協力委員会の発足



第5代理事長
宮崎 直道

1970

昭和45年

JCデー「70年代の教育について」市民集会の開催 講師—無着成恭氏
市内中、高校生作文募集、発表会開催
創立5周年記念例会の開催
「日本の安全と防衛」市民アンケート
一般公開例会「献血問題について」開催



認証番号三一六番の誕生
相模原青年会議所設立へ向けて

相模原JCは、商工会議所や先進JCの働きかけで誕生した多くのJCとやや経緯が異なり、設立にはロータリークラブが深く関わった。

相模原にJC設立機運が盛り上がった一九六五年、相模原ロータリークラブは設立四年目を迎え、地域の代表的経済人を集め、若々しく活気に満ちていた。当時相模原ロータリーの会長を務めていたのは田辺重明。副会長に橋本六郎、理事に土屋章らがいた。前年に東京オリピックが行われ、日本経済は高度成長という坂道をひたすら上り初め、相模原市でも人口の急激な膨張が始まろうとしていた。

そんな折、橋本にJC設立を熱心に説いた人物がいた。東京JCメンバーの木下治である。相模原JC設立の動きはこの木下の個人的熱意に始まり、橋本ら相模原ロータリーの全面バックアップとスポンサーを引き受けた川崎JCの努力に負うところが大きかった。



三五人の創立メンバーが集う

矢島治は、土屋定、西村幸彦とともに木下から最初に話を聞いたのを、はつきり覚えていと語る六月のことである。土屋定（土屋章の実弟）、西村は橋本の会社の部下、土屋章と矢島は同じ医師仲間という関係の中、矢島は「木下さんが熱心だね。章さんもヤレヤレとはやしたてた」と振り返る。土屋章も橋本も四十歳のJC年齢を過ぎていて、矢島に「白羽の矢」を立て、説得したのだという。

ひとたび動き出すと、まとまりは早かった。矢島は住んでいる橋本地区の飯田亨、古藤友昭らに声をかけ、相模原ロータリーでもメンバーをリストアップ。医師である矢島の社会的信用も「大いにモノを言って」（古藤談）、橋本の声で上溝両地区から一四、五人が集まり、会合を重ねた。横須賀JCの高地光雄が日本JCの地区担当理事を務めており、高地がスポンサーを川崎JCに依頼。当時の川崎の第一代理事長である斎藤文夫等、多くのメンバーが相模原に通い詰め、九月一八日の創立総会（旧三信会館）に本格的に動き始めてから三カ月ほどの早業でこぎつけた。矢島理事長のわきを土屋、西村の両副理事長が固め、総務、社会福祉、修練、会員、広報の五委員会をスタートした。「夏の暑い最中、川崎JCは実によく面倒みてくれた」と矢島は語る。翌六六年三月二六日、甲府での日本JC常任理事会において四月二日付で県下十番目、全国三一六番目のJCとなった。完成後間もない相模原市民会館で七月一七日、全国四二JC、総勢六百人を集め、式典は盛大に行われた。矢島はこの年の終わりまで理事長を務め、相模原JCでは矢島の一年四カ月を一括して「初代」と数え、以後、二代土屋、三代飯田、四代古藤と引き継がれ、草創期の足場固めが進められていったのである。

足場固めから地域に目を向けた活動の開始

草創期はLOM内部の充実をはかっていたが、一九七十年頃から「社会と人間の開発」を掲げ、地域社会に本格的に目を向ける活動が活発化しはじめた。この年目玉事業となったのが、教育問題での初の市民集会の開催である。「七十年代の教育を考えよう」という日本JCの統一事業に合わせ、全国統一内容の設問に相模原独自の七問を加え、教育問題アンケートを実施。市民一四百人を対象に八二五人から回答を得た。結果は報告書にまとめられ、市民集会はこれを基に九月五日、相模原市民会館で開催。市民約三百人が参加、無着成恭を講師とした講演会と館森静光教育長（当時）らをパネラーとした討論会の二部構成で実施し好評を得た。



相模原青年会議所50年の歩み

1971年～1975年



第6代理事長
内田 寛

1971

昭和46年

第1回チャリティーショー劇団四季「ハムレット」開催
相模原青年会議所、定款及び書式の整備
「公害」についての討論会の実施
「横浜線複線化」問題についての例会開催



第7代理事長
宮崎 昇

1972

昭和47年

日本ボーイスカウト相模原第7団、発団式の挙行
青年の船「あすの青年号」に参画及び報告会の開催
第2回チャリティーショー劇団四季「オンディーヌ」上演
市議会議長を囲む討論会の開催
一般公開「経営セミナー」の実施（講師－牛尾治朗氏）



第8代理事長
山内 大

1973

昭和48年

相模原模擬市議会の開催
JCデー早起き野球大会の実施
チャリティーボーリング、ゴルフ大会の開催
韓国親善旅行の実施
第3回チャリティーショー劇団四季「間奏曲」実施



第9代理事長
川合 貞義

1974

昭和49年

第1回市民桜まつりへの参画
交通キャンペーン、交通安全教室の実施
「柴胡」市民版発行
第4回チャリティーショー「ねむの木の詩」開催
第1回ビジネス放談会実施



第10代理事長
大貫 一男

1975

昭和50年

創立10周年記念式典の開催
第2回市民若葉まつりへの参画
JC文化講座の開催（講師－無着成恭氏・西丸震哉氏）
早起き野球大会の開催
新入会員拡大の実施



文化事業定着へ向けて
波乱で始まったチャリティーショー

第六代理事長に就任した内田寛は、相模原に文化事業をと考え、年初より劇団四季公演「ハムレット」の秋開催に向け力を入れる。しかし、意気込みにもかかわらず、内田は間もなく左足骨折で一カ月の長期入院を余儀なくされた。早々から波乱含みとなったが結局、内田の熱意が実り、チャリティーと事業資金工面を兼ねて実施の方向が決まった。しかし、入場券をさばくのがまた一苦労だった。それでもメンバーが文字通り「額に汗して走り回った」結果、一四五十枚を売り尽くし、好評のうちに無事成し遂げることができた。

チャリティーショーはこれを手始めに以後、継続事業となり、しばらくの間相模原J.Cの文化事業として定着していくこととなる。

青少年育成に向けた支援

第七代理事長宮崎昇は青少年育成の一環としてボイスカウト相模原第七団の結団、育成を手掛けた。以降育成会長はJ.Cの歴代理



事長が引き受けその伝統は今も受け継がれている。(詳しくは六六ページの特集を参照)
第八代理事長山内大は、新事業として働く青少年のための早朝野球大会を打ち出した。中小規模事業所の

若者に呼び掛け、実施することになった。相模原市教育委員会などの後援も得て、第一回大会には二十チームが参加、夏の二カ月にわたり、市長杯争奪の熱戦が繰り広げられた。



桜まつりの

誕生は意外なこと

第八代理事長山内時代に行われた相模原模擬市議会の開催は予想外の波紋を広げることになった。新装になった市議会議場で、J.Cメンバーが議員、各会派代表議員が市側との設定で行われ、市政の各分野でのJ.Cメンバーの鋭い追及に、本職の議員が返答に窮する場面もしばしばあったようだ。

これが翌年、当時の河津勝前市長から「第一回市民桜まつり」への協力を要請されるきっかけとなった。

市長は三五万人のふるさとづくりということで、市民参加の祭りと考えており、J.Cメンバーが模擬市議会のお礼に行ったら、ぜひJ.Cでやってくれないか、とのこと。市長直々の要請にJ.Cも大ハッスル、翌七四年、第



九代理事長川合貞義のもとで四月六、七日の祭り本番に向けてJ.Cを挙げて取り組むことになる。結果述べ一九万人の市民に楽しめる催しとなった。(詳しくは六二ページの特集を参照)

翌七五年、第十代理事長大貫一男の代では創設時のメンバーが一人、二人と卒業していく中新入会員拡大に力を入れたこともあって、二五人が新しく入会すると共に社団法人格を取得。正会員六五人となり新旧交代が一段と進む中、十周年記念式典が十月二五日、相模原市民会館で華々しく開催された。

相模原青年会議所50年の歩み

1976年～1980年



第11代理事長
中村 宣勝

1976

昭和51年

社団法人資格の取得記念例会の開催
JC文化講座「君は君、僕は僕、でも仲良く」（講師－茅誠司氏）
JCルームの設置
第3回市民桜まつりへの参画
JC市民寄席の開催 出演－玉川勝太郎、松平容子、ダーク夏美、鈴々舎馬風、他
ごみ問題アンケートの実施と編集、配布
早起き野球大会の実施 閉会式（講師－カイザー田中氏）
LDセミナー「自己を動かす力」（講師－大野勝恵氏）
「若い人のこころ」（講師－石井儀氏）
「企業人とJCメンバーとの対話集会」
「アイデアと権利」（講師－西村豊親氏）



第12代理事長
久保田 栄一

1977

昭和52年

市民総合意識アンケートの実施
第4回市民桜まつりへの参画（仮装パレード、特設ステージ）
第5回早起き野球大会の実施
第6回チャリティーショー「ねむの木の詩が聞こえる」開催
例会「40万人の連帯」パネルディスカッションの開催
例会「あなたもすぐれたリーダーになれる」（講師－横山君、藤岡JC）
例会「人前での話し方」（講師－早瀬市郎氏）
例会「JCに期待する」（講師－相模原市長）
例会「SUN計画と実践指導力」（講師－鈴木安之君、逗子JC）
例会「地方自治と人生」（講師－河津前市長）
例会「200海里」（講師－杉山茂雄氏）
例会「世論調査とは」（講師－杉山主任研究員、NHK）
「ふるさと意識調査プリテスト」の実施



第13代理事長
水谷 好佐

1978

昭和53年

公開例会「ふるさとづくりを考える」パネル討論会
第5回市民桜まつりへの参画（仮装パレード）
桜まつりポスター展の開催
対話集会「僕と私と桜まつり」
同伴例会「私と音楽」（講師－中村八大氏）
例会「JCマンの健康管理」（講師－河野友治氏）
例会「JCと人づくり」（講師－洞外文隆氏）
例会「模擬結婚披露宴」開催
例会「相信の歩みと経営戦略」（講師－篠崎隆氏）
例会「アイワルドの歩みと経営戦略」（講師－五十嵐由人氏）
例会「SUN計画について」（講師－水島君、平塚JC）
JCチャリティー映画会「君はいま光の中で」開催
早起き野球大会の実施「野球を通じての人づくり」（講師－砂押氏）



第14代理事長
菅沼 山一

1979

昭和54年

新設LOM「大和青年会議所」拡大
関東地区協「社会開発優秀賞」褒章（市民桜まつり）
JCデー文化講座「親の心と子の心」（講師－高田好胤氏）
第6回市民桜まつりへの参画
例会「JCは今何を考え、何をすべきか」納涼座禅会
（社）相模原青年会議所入会手引書の作成
例会「日本JCの体験を通じて・・・今後のJCのあり方」（講師－鶴岡君）
例会「現代の中国、マスコミに報道されない中国」（講師－菅沼正久氏）
例会「今後の市政を開く」（講師－相模原市長）
例会「人間は思ったほど利孝でない」（講師－富谷竜一氏）



第15代理事長
香川 正勝

1980

昭和55年

15周年記念例会の開催
青少年健全育成相模原市民会議の開催
15周年記念経済人セミナー「80年代の経済動向を探る」（講師－竹村健一氏）
大和JC合同例会「JCマンとしての心得」（講師－洞外三浦JC O.B）
大和JC合同例会「政治と経済のかかわりについて」（講師－戸沢政方氏）
例会「トップリーダーの行動のあり方」（講師－浜田三雄氏）
例会「明るい豊かな社会づくり」（講師－館盛相模原市長）
市民会議「リーダー育成」討論会の実施
相模原、大和、座間、3LOM合同例会の開催
第7回市民桜まつりへの参画



新たな時代への旅立ち、更なる活動

七六年、新時代への旅立ちとも言う雰囲気の中、第一代理事長中村宣勝が就任した。新入会員が増えるにつれ、理事長公選規定はあったものの運用されていなかった選管を設置、ルールに従った運営が行われるようになっていった。第一代理事長久保田栄一は当時を「みんなの意識において選ぶことが重要だった」と振り返る。就任後、商工会議所に待望のJCLルームを確保し、延べ一七回に上る県庁通いの努力が実り社団法人格を取得。基盤を一段と固めた一年となった。この時点でのメンバー数は、正会員六五人と特別会員二八人となる。

この頃から相模原JCLの活動は大きく広がりを見せた。第一代理事長久保田栄一が就任した七七年は、横須賀JCLから小沢一彦が日本JCL会頭に就き、地方自治、地域の見直しを唱えた年であった。久保田は、相模原に新住民が増える中で、ふるさと意識を探るための市民総合意識調査を実施した。結果を冊子にまとめ、九月に発表会を兼ねて市民集会を開催し、やや連帯意識に欠けるものの、定住意識はかなり強いという結果を導いた。

新設JCL誕生への苦難と成功の裏側

七八年、第一代理事長水谷好佐は、市民意識調査を踏まえ、対外事業を【ふるさとづくり運動】に統一して推進。桜まつりでは様々な市民参加事業を開催した。

七九年、第一代理事長菅沼山一の年では、市制二五周年に沸く若葉まつりを更なるアイ

デアで盛り上げた。相模原JCLはこれら一連の活動で関東地区協議会開発優秀賞を受賞。しかし、この受賞にはもう一つ物語があった。七九年は、「大和で始まり、大和で終わった」と菅沼は語る。大和JCLの誕生はかなりの困難を伴ったようだ。横浜、厚木の両JCLでも過去に試みては失敗した経緯があり、大和の中心メンバーが固まるまでが「苦労」だった。

そして、もう一つ大きな問題が立ち上がったのが、当時の日本JCLのスポンサー規約だった。規定では大規模な大会を主管するか、褒章受章JCLでなくては資格がないとされていた。七八年、七九年での桜まつりの取り組みによる関東地区協議会開発優秀賞受賞によって、大和JCLの誕生が叶ったとも言える。

八十年、第一代理事長香川正勝のもとで一五周年を迎える。「これまでの事業を見直し、問題意識を持つて臨む」を方針とした香川は、青少年非行問題に初めてメスを入れた。第二次ベビーブームの影響により青少年人口比も高くなったことから社会では校内暴力など青少年非行が増加。相模原でも大きな社会問題となる中での取り組みは、九月に市民、有識者ら五百人の参加で「青少年健全育成市民会議」（労働福祉センター）という形での開催となった。そして八十年代以降行われる青少年事業時代の幕開けとも言える一年となったのである。



JCL市民寄席

浪曲 落語 漫才

出演者
 王川 藤太郎
 松子 洋子
 鈴ヶ倉 高風
 大室あきら・たかし

とき 12月11日(土)
 星の部 PM1:00より
 夜の部 PM5:00より

ところ 相模原市民会館

主催 (社)相模原青年会議所

入場券発売開始
 S席 1,500円
 A席 1,000円

お申し込みは各プレイガイド又は夕刊さがみ

☎ 0427(55)3700へ!

団体割引あり

相模原青年会議所50年の歩み

1981年～1985年



第16代理事長
秋石 圭一

1981

昭和56年

神奈川ブロック協議会会長出向
「日中友好青年の翼」の実施（社）相模原青年会議所友好訪中団
JCデー第1回「さがみはら少年の主張」の開催小冊子の作成
第8回市民桜まつりへの参画
会員拡大、100名LOMの達成
大和JC合同例会の実施（講師一麻生太郎氏、森輝彦君）
LD道場「80年代に対応する指導者理念」（講師一小沢元会頭）
少年野球教室の開催
JCデー文化講座（講師一西岡武夫代議士）
例会「あなたの企業の悩みごと」グループ討議
経営スクール「生き残るための企業経営」（講師一長谷川紀一氏）
例会「家庭教育のあり方」（講師一浜田三雄、駒子夫妻）
関東地区協議会会長公式訪問例会（100%出席）開催



第17代理事長
飯淵 雅敏

1982

昭和57年

韓国釜山海雲台JCとの姉妹JCの締結
新設LOM「津久井青年会議所」拡大
第2回「さがみはら少年の主張」の開催
第9回市民桜まつりへの参画及び桜まつり市民会議の開催
神奈川ブロックジャガイモ大会の開催
例会「JC」とシスターJC」（講師一長尾源一氏）
ソフトボール大会、クリスマス家族会の実施
例会「継承税制の問題」（講師一磯野雅一氏）
例会「先代を超える強い社長になる法」（講師一森和夫氏）
例会「相模原におけるコミュニティづくりを目指して」（講師一館盛相模原市長）
例会「コミュニティ・リーダーを目指して」（講師一古川嘉章氏）
例会「JCメンバーが取り組める地域の教育活動」



第18代理事長
根本 忠幸

1983

昭和58年

相模原、大和、津久井、3LOM合同例会の開催
教育問題市民集会「親と子の愛」開催（講師一穂積隆信氏）
韓国釜山海雲台JC、交流ソフトボール大会実施・相互公式訪問の実施
第3回さがみはら少年の主張の開催
第10回市民若葉まつりへの参画（子供遊園地、とび入りステージ）
JCチャリティー映画会「ビートルズ、ヤアヤアヤア！」開催
津久井JC合同例会「常にタイムリーな発想と実践」開催
例会「戦国武将とその時代の人々」（講師一田中澄江氏）
例会「すぐに役立つ正しい会議のすすめ方」（講師一竹前勝夫氏）
例会「企業とJCにおけるリーダーシップ」（講師一斉藤斗志二君）
LD道場「The解剖・人という動物」（講師一森田浩一郎氏）
LD道場「心」（講師一世和玄次氏）
例会「企業成長の基本原則」（講師一伊藤辰郎氏）



第19代理事長
小形 年雄

1984

昭和59年

第1回市民会議「子や孫に残そう私たちの緑」の開催
第12回神奈川ブロック会員大会の開催（記念講演会 講師一藤原弘達、竹村健一氏）
第11回市民桜まつりへの参画
例会「緑、交通、国際交流」（講師一市議会議員各派代表）
例会「21世紀をめざすさがみはらプラン」（講師一館盛相模原市長）
公式訪問例会「相模川バイパス」構想の提案（講師一緒形昭義氏）
例会「我々企業をとりまく地域経済の動向を考える」（講師一松田孝雄氏）
例会「集へ、英知ある青年たちよ！」（講師一河野洋平氏）
20周年準備会議の開催答申請「20周年の在り方」作成
韓国釜山海雲台JC7周年記念例会出席JC会館完成記念植樹
クリスマスチャリティーピアノコンサートの開催（出演一清水和音）



第20代理事長
内田 一夫

1985

昭和60年

20周年記念式典の開催（記念講演一金田正一氏）
第2回日中友好青年の翼の実施
緑の保全と育成「わんぱくパトロール」・「緑チャリティーコンサート」実施
第12回市民桜まつりへの参画
例会「相模原JC20周年をむかえて脈打つJC運動」（講師一鈴木邦夫君）
例会「青年の役割」（講師一館盛相模原市長）
OB合同例会「四ツ谷怪談」（講師一神田小山陽）
例会「信頼されるリーダーの条件」（講師一秦野章氏）
例会「都市づくりとニューメディア」（講師一大宮正氏）
例会「JC運動とLDの役割」（講師一林達夫氏）
2LOM合同公式訪問例会「地域経済の活性化」



民間外交の幕開けと
百人LOMの達成

八一年には、三一歳の若さで秋石圭一が第一六代理事長に就任。少年野球の指導者らに呼び掛ける「少年野球教室」や中学生を対象とした「少年の主張」作文発表会の開催と、青少年育成事業を展開した。また国際交流への初の取り組みとして「日中友好青年の翼」に意欲を燃やした。青年の翼は一月一日から八日までの間、秋石を団長に、上海、無錫、北京の各都市を歴訪し民間外交に花を咲かせた。また数年来の会員拡大の成果が実り、百人LOMと成長を遂げる中、第一代理事長中村宣勝は相模原JC初の神奈川ブロック協議会の会長の役を成し遂げた。



八二年、第一七代理事長飯淵雅敏のもとで具体化されたのが、韓国・釜山海雲台JCとの姉妹締結である。根本忠幸を実行委員長に据え、二月に訪韓。韓国のJCの仲間との話し合いを通じて姉妹先を模索した結果、提携に向け熱心な釜山海雲台JCとの姉妹締結を正式に合意した。七月、長尾源一元JC（国際青年会議所）会頭の立ち合いのもとで、相模原の地にて仮調印にこぎつける。その後、韓国で当時の森洋神奈川ブロック協議会会長（横須賀JC）を見届け人として本調印が執り行われた。

またこの年、二つ目となる子LOM津久井JCを誕生させた。それまで相模原JCは相模原、津久井郡四町をエリアとしていたのを、分離し独立させたのである。

姉妹JC・津久井JCの誕生
二十周年以降に向けた運動の模索



続く八三年、初の理事長選挙が行われ、第一八代理事長に根本忠幸が就任。姉妹JCとの交流を推進する一方で青少年教育は幼児期からと、「積木くずし」の著者である穂積隆信を講師とした講演会と組み合わせ、「少年の主張」など継続事業もこなした。八四年の第一九代理事長小形年雄にバトンタッチした去る六月、相模原市民会館で初の第一二回神奈川ブロック会員大会が開かれた。相模原JCが主管する初の大規模な大会で、神奈川新聞社と共催で行われた「八四神奈川県経済人会議」の舞台裏をとり仕切る一方、竹村健一、藤原弘達を講師に招き、講演会を開催し好評を得た。また、二十周年を迎える為に以降の在り方を探る「準備会議」を発足し、時代に先駆けた環境問題や家庭環境問題などの答申書をまとめた。八五年は記念すべき二十周年となり、第二十二代理事長には内田一夫が就任した。前年に作成した答申書と、他都市に先駆けて緑化に関する二つの条例を作った市の動きを背景に、青少年育成と緑の保全事業を展開した。着実に歩みを進めようとする中、日本プロ野球名球会を設立し初代会長を務めていた金田正一を招き華々しく二十周年の記念式典が行われた。



相模原青年会議所50年の歩み

1986年～1990年



第21代理事長
杉岡 芳樹

1986

昭和57年

第13回市民桜まつりへの参画
JCスクールの開催
三世代交流ゲートボールの実施（小山スポーツ広場）
三世代ふれあいキャンプの実施（野外教育センター）
緑の保全と育成「みどりチャリティーショー・アンパンマン」
2LOM合同例会「我が町を考える」
LDセミナー（一泊）（講師一志水陽光氏）
経営セミナーの開催（MIA）
例会「JCデー全国一斉100%例会」9月3日



第22代理事長
浦上 裕史

1987

昭和58年

'87青年経済人フォーラムの開催
三世代ふれあいキャンプの実施（野外教育センター）
三世代交流ゲートボールの実施
第14回市民若葉まつりへの参画
緑チャリティーショー「アラジン」劇団飛行船
例会「JCとは」田舞元副会頭
例会「JCと義理」林達夫 東京JC O.B
例会「会員全員拡大の必要性」浅利会頭
例会「一泊、PIPプログラムの実施」
海雲台JCとの絵画交流会の実施



第23代理事長
山崎 章

1988

昭和59年

1990年関東地区サミット「相模原会議」開催の決定
第15回市民桜まつりへの参画
緑化フェア「グリーンパル88」への参画
'88まちづくりフォーラムの開催
世代交流ゲートボールの開催
例会「人生のパスポートそれは感動」丸山浩路氏
例会「一泊：LATプログラム」小宮山君（甲府JC）
例会「青少年の健全育成」パネルディスカッション
例会「スポーツ交流」米国軍人
新入会員拡大の強化



第24代理事長
水野 隆弘

1989

昭和60年

みんなで相模川フェスティバル'89の開催
夢・相模川こども会議の開催
第16回市民桜まつりへの参画
MG研修「ビジネス感性トレーニング」
LD研修「魅力開発プログラム」林和代氏
例会「伸びる企業と危ない企業」早坂茂三氏
例会「JCエンジョイライフ」岩倉福会頭
例会「ふるりの川・相模川」江成常夫氏
例会「25周年の重み・・・なぜ」鎌田秀則氏
ASPAC'89ヨコハマへの参加



第25代理事長
渡辺 章

1990

昭和61年

第17回市民桜まつりへの参画
25周年記念講演会の開催（講師一舛添要一氏）
関東地区相模原コンベンション'90の開催
25周年記念式典の開催
みんなで相模川フェスティバル'90の開催



ふるさと相模原づくり先見の目を持った活動

創立二十周年の多彩な記念事業が展開された八五年。その歴史を受け継ぎ、新しい一歩を踏み出した八六年の第二代理事長、杉岡芳樹は「前年の盛り上がり沈滞させることなく、いかに次のステップにつなげていくか腐心した」という。この年、新しい事業として「三世代交流ゲートボール大会」と「三世代交流ふれあいキャンプ」を打ち出した。親子の断絶が社会の関心事になっていた時代である。特に相模原は急激な発展で新しい住民が多く、核家族化も進んでいた。「世代間の触れ合いを通じて、潤いのある地域づくりを目指した」と杉岡は語る。ふれあいキャンプは夏休みの八月下旬、一泊二日で行われた。小中学生約三百人が参加。市民を対象にした泊りがけの事業は、これが初めての経験だった。

八七年八月、相模原市の人口が五十万人を超えた。この秋、市内では数多の記念事業が繰り広げられ、五十万都市仲間入りの祝賀ムードに包まれた。「市としては、簡単なセレモニーを行うぐらいで考えていた」樋口武・都市整備部参事は明かす。しかし市民からの声が高まり急遽、各団体代表が集まって実行委員会が組織された。相模原JCは「市民桜まつり」と同様に主力部隊として加わった。この年第二代理事長、浦上裕史は「五十万の大都市といっ

もピンとこない市民が多かったと思ふ。記念事業を通じて、市内外に相模原をアピールする絶好の機会だった」と話す。

八八年、第二三代理事長の山崎章の年に桜まつりにてミスさがみはらの三人を誕生させた。募集した当初は、まったく反応がなく心配したという。締め切り間近になって応募が殺到し、百人を超えてメンバー達を驚かせた。ミス三人を東京のデパートまで連れて行き、好みを聞きながらユニホームを決めるなど、慌ただしく準備を進め、市民桜まつりのパレードで華やかにデビューした。

八九年、第二十四代理事長水野隆弘は「母なる相模川に目を向け、ふるさと意識を高める事を目的に、特に子供たちに水と緑の大切さを伝えたい」。そんな想いから相模川高田橋上流で「みんなで相模川フェスティバル・八九」を開催した。魚のつかみ捕りや、手作りのいかだに乗って歓声を上げる子供たち。植木市や野菜即売コーナーを楽しむ父母たち。特設ステージでは市内に古くから伝わる獅子舞、ぼうち唄、祭りばやしなどの民俗芸能が次々に演じられるなど、晴天の日曜日に約五千人の市民が訪れ賑わった。

九十年、第二五代理事長、渡辺章は就任直後から奔走、二五周年記念講演会には講師に舛添要一を迎え八月には記念式典を執り行った。しかし奔走の理由にはもう一つの一大事業があった。八七年から三年がかりの誘致と準備をしてきた関東地区の会員大会の開催である。



それに向け各ブロックや県内の全LOMを回り、大会のPRや参加要請に努めた。それまで関東地区の会員大会は年に一度のお祭りのな性格が強かったが、八九年の「銚子会議」から各委員会の活動発表や意見交換の場に切り替わった。相模原でも「相模の国から関東八州へ」創造・改革ネットワーク」と題して八つの分科会が設けられ、JCの活動の在り方を模索し、さまざまな問題を話し合った。「市内にホテルや大きな会議施設が乏しいことも思い知らされた」と渡辺は後に語る。

環境・家族・まちづくりと常に時代の一步先の問題点を敏感に捉え、行政が音頭を取って展開していく部分を相模原JCは中心となって補っていた。これらの活動は、行政のみならず他のLOMからも高評価を得ることとなった。



環境・家族・まちづくりと常に時代の一步先の問題点を敏感に捉え、行政が音頭を取って展開していく部分を相模原JCは中心となって補っていた。これらの活動は、行政のみならず他のLOMからも高評価を得ることとなった。

相模原青年会議所50年の歩み

1991年～1995年

1991

昭和62年



第26代理事長
梅澤 武彦

第18回市民若葉まつりへの参画
「緑ゆたかな街づくり」チャリティーショー開催
例会「90年代消費トレンドとビジネスチャンス」 福田優二氏
例会「競争社会を生き抜く為のリーダーシップ」 高橋博氏
交通シンポジウムの開催
例会「姉妹交流10周年をむかへて」 飯淵雅敏・根本忠幸先輩
例会「外国入労働者雇用問題」 尾源一氏

1992

昭和63年



第27代理事長
細谷 政幸

第19回市民桜まつりへの参画
例会、1991年度日本J.C副会頭鈴木宗幸先輩
1992年度日本J.C副会頭山本博史君
海雲台青年会議所創立15周年記念式典への出席
冷気「納涼…相模川高田橋」
例会「すてきなひとづくりセミナー」 丸山浩路氏
例会「すてきなひとづくりセミナー」 舛川洋栄氏
例会「すてきなひとづくりセミナー」 尾上達矢氏
例会「すてきなひとづくりセミナー」 マリ・クリスチーナ女史
グリーンウェーブ相模原92への参画
コンサート「KATSUMI」の開催
例会「世界の中の日本人の果たす役割」 梅沢重雄氏

1993

平成元年



第28代理事長
荒井 達雄

第20回市民桜まつりへの参画（夜桜コンサートの開催）
ふれあいキャンプの開催
野外コンサートの開催 大島章氏
J.C東京会議への参加
例会「感性豊かな人づくりセミナー」 三浦道明氏
例会「自己理解、他者理解」研修インストラクター
例会「出向、未来へJ.C運動」岡田伸浩会頭

1994

平成2年



第29代理事長
本多 宏明

第21回市民桜まつりへの参画
例会「聞いて身につく、やる気満々！」 志水陽光氏
例会「一泊、新年会及び研修会」
クリーン大作戦LOVE相模原'94の開催
相模川クリーン作戦への参画1
例会「環境問題等…」環境対策課、佐藤俊一氏
「3LOM合同例会」 町田J.C・多摩J.Cと開催
恐竜型ゴミ回収装置「美化ゴン」の譲り受け

1995

平成3年



第30代理事長
角尾 明皇

例会「新年総会及び賀詞交歓会」
例会「市長例会」
例会「感謝の気持ちを形にして、一人一人にできること」
例会「ブロック会長公式訪問、2LOM合同例会」の開催
例会「対話力と人間関係」 永田功氏
第22回市民若葉まつりへの参画
第1回わんぱくグリーンフェスティバル開催
30周年記念式典開催



ふるさと相模原づくり
先見の目を持った活動

九一年、第二六代理事長梅澤武彦が就任。この頃、市内にて交通事情の問題が多く聞かれる中、ユニークな交通シンポジウムが初めて開催された。その名も「渋滞を三倍楽しむ方法」である。国道一六号の渋滞を踏まえて変わった角度から交通問題に取り組んだ。講師の一人を務めた梅澤は、「見ていて楽しい絵をガードレールに張るとか、ミカンの木を街路樹に使うとかおもしろい意見が出された」と話す。

しかし本当の問題は、沿道には大型店の進出が続ぎ、幹線道路から溢れた車が車を呼び、子供たちの歩く脇道にまで影響を与えることだと梅澤は考え、子供たちの交通事故を危惧する事を発信した。また時代を先駆けたとも言える講師例会を多く開催し修練の場を広げた一年であった。



緑・青少年と築いた活動を
全国に向けて発信する好機

九二年、第二七代理事長細谷政幸が就任したこの頃、団塊世代が現役を退き会員の若返りが一気に進んだ。JC活動歴を見ると三年未満が四割を占める中、十月に相模原で開かれる「第九回全国都市緑化かながわフェア」に熱い思いを寄せた。県、市などが主催する、県内では今年一番のビッグイベントであった。五二日間に渡る長期の催しは、市内で過去に例がない。相模原を全国にアピールする好機の到来と細谷は考えた。協賛イベントとして、八月下旬に「KATSUMI」コンサートを開き、緑化フェアに関心が今一つ薄い若い世代にターゲットを絞り成功を収めた。

夜桜の元での演出で新たな
桜まつりの魅力発信

九三年、第二八代理事長荒井達雄が「桜まつり」に送り出した新たな企画が「夜桜コンサート」である。

桜並木にはライトアップされた桜が咲き乱れる中で音楽事業を開催。詰めかける多くのギャラリートと共に、春の夜のコンサートを堪能し新たな相模原の魅力に酔いしれることになった。



相模原JC史上最大の
寄贈品「美化ゴン」の譲受

第二九代理事長本多宏明が就任した九四年度の「桜まつり」において、相模原JC史上最大級の寄贈品を譲り受けたエピソードがある。その名も、恐竜型ゴミ回収装置と呼ばれる「美化ゴン」である。



日本最大の資産を持つ財団法人日本船舶振興会（現公益財

団法人日本財団）が一億円をかけて開発したとも言われる、河底などのゴミを回収する重機とも言うべき装置である。そんな「美化ゴン」を桜まつりのパレードに参加させるため、鋼鉄のキャタピラからゴムのキャタピラに交換する作業を降りしきる雨の中、夜を徹し行われた。その後、本来の目的である河川掃除に出勤するも、試作機ということもありその能力を発揮せず、以降メンバーの中からは「ごみゴン」と名付けられ、市役所前での展示後、市保有の置き場へと移動され、後に行政からの処分のために廃棄することとなった。

九五年、第三十代理事長角尾明皇の年初は想像しない幕開けとなった。

一月一七日に阪神大震災が発生。甚大な被害に対しメンバーの有志によって支援活動を現地で行った。多くの悲しみを払拭するかのよう、三十周年の記念事業として、タイムカプセルを十年後に成人する子供に収めてもらい、十年後の明るい未来に思いを馳せた。

相模原青年会議所50年の歩み

1996年～2000年



第31代理事長
関 英夫

1996

平成8年

例会 「日本経済の動向」三菱総研 石井健氏
 例会 「市長としてのまちづくりビジョン、現在・過去・未来」
 例会 「出会いの大切さ」1981年度JCI会頭 長尾源一氏
 「プロ意識の向上」(ディズニーランドのゲストサービス) オリエンタルランド 山下専務取締役
 第23回市民桜まつりへの参画
 例会 座間キャンプ交流会
 例会 100%例会の開催
 例会 3LOM合同「ワールドゲーム」研修
 例会 第2回わんぱくグリーンフェスティバルの実施 / 上大島キャンプ場
 例会 「草の根から地球市民運動を考える」在日カンボジア人 ペン・セタリン女史
 「相模原夢の大改造計画」
 ブロック じゃがいも大会の主管 / 相模原ゴルフクラブ



第32代理事長
永瀬 泰敏

1997

平成9年

第25回神奈川ブロック協議会会員大会の主管
 / グリーンホール相模大野・ホテルセンチュリー・ラポール千寿閣
 例会 賀詞交歓会 / ホテルラポール千寿閣
 例会 市長例会「これからの福祉問題、環境問題、地域経済の活性化、近隣都市と強調したまちづくり」
 第24回市民桜まつりへの参画
 第3回わんぱくグリーンフェスティバルの実施「やんちゃ村創造元年」 / 上大島キャンプ場
 例会 「人を動かす説得話法」話し方研究所所長 福田 健氏
 例会 大和JCへ会員大会PR
 例会 OB交流会
 例会 エコたうんに関する例会
 例会 家族会 / ホテルラポール千寿閣
 なかがわゆめ大会後夜祭への参加
 理事会デジタル化の研究
 LOMホームページの開設



第33代理事長
野崎 徹

1998

平成10年

例会 賀詞交歓会 / ホテルラポール千寿閣
 例会 市長例会「今後の産業の発展とまちづくりについて」
 例会 「出向で何かを得よう」第41代日本JC会頭 西村予史男氏
 第25回市民桜まつりへの参画
 例会 「マインド・マッピング」表現力研修会の実施
 例会 小田原会員大会への参加
 例会 3LOM合同例会「心のスタンダードプログラム」 / パルテノン多摩
 例会 第4回わんぱくグリーンフェスティバルの実施
 例会 「こんな時代だからカゲキに」志茂田景樹氏
 例会 「人前で上がらず話す方法」表現力研修会
 例会 家族会の実施 / ベルヴィ相模原
 パソコン研究会の開催



第34代理事長
斎藤 敬

1999

平成11年

例会 新年会(さがみの)
 例会 市長例会「青少年問題を語る」
 例会 「まちづくりのための会員拡大セミナー」
 例会 神奈川ブロック協議会会長公式訪問
 第26回市民若葉まつりへの参画
 例会 「障害者就労支援活動」講師竹中ナミ女史(社会福祉法人プロップ・ステーション)
 例会 3LOM合同例会
 例会 第5回わんぱくグリーンフェスティバルの実施 / 清川村立金沢キャンプ場
 例会 オープンミュージアムの実施 / 麻溝公園
 例会 「家族会」横浜ベイクルーズ / コスモワールド
 ブロック会員大会『夢・情熱ある神奈川・輝かしい未来を創造しよう』
 (社)津久井青年会議所主管への参加
 ペーパーレス会議の導入



第35代理事長
山口 章

2000

平成12年

35周年記念式典 / 産業会館 記念講演 / 「みんながっていい ビスマリオン効果でHALOを!」丸山 浩路氏
 例会 「賀詞交歓会」
 例会 「これからの青年のあり方」小泉 純一郎氏
 例会 市長例会「相模原の環境問題について考える」
 例会 「企業活性化の条件」
 例会 「企業を伸ばすリーダーの条件」新 将命氏(元ジョンソン・エンド・ジョンソン、日本フィリップ代表取締役)
 第27回市民桜まつりへの参画
 例会 「子供たちからの主張から青少年問題を考える」
 例会 「OB交流会」の実施
 例会 第6回わんぱくグリーンフェスティバルの実施 / 上大島キャンプ場
 例会 「日本をよくする経営道」板橋 清氏((社)倫理研究所)
 例会 「中核市ならびに政令指定都市について」横山 正人氏(横浜市会議員)
 例会 オープンミュージアムの実施 / 淵野辺公園
 例会 家族会 / 多摩テック



ブロック大会主管への歩みとその舞台裏

前年の三十周年事業、翌年にはブロック会員大会の主管を控えた九六年、「LOM内には疲労感が漂っていた：」この年、第三代理事長を務めた関英夫は後に語る。加えてこの年はブロックじやがいも大会の主管として、多くのメンバーが積極的な活動に取り組んでいた。PR活動等、年当初からブロック大会を主管していた厚木J.Cと連携し共に大会成功への礎となった。



ミレニアムへ向かい新たな時代への対応と改革

九八年、九六年のブロックじやがいも大会に、前年の会員大会の主管と、数年に渡る神奈川ブロック協議会への活動を相模原J.C一丸となつて展開して来たこの頃、相模原J.Cからのブロック会長職をと、第三代理事長に就任した野崎徹は真剣に考えていた。またTブームの背景をうけて、様々な分野においてデジタル化が叫ばれていた時代でもある。そんな中、相模原J.Cの理事会も大きな変化の時期を迎えていた。理事会での資料をパソコン画面上で表示、ペーパーレス会議へとシフトした。しかし、まだまだメンバーのパソコンの普及率が低い事もあり、パソコン研究の実施やペーパー資料の併用など試行錯誤を繰り返した。九九年、第三代理事長に齋藤敬が就任した年、相模原J.Cが産みの親とも言うべき「市民桜まつり」は二六年目を迎えていた。成熟しきつた桜まつりが市民主導の実行委員会へと移行していくうえで、自分達で地域から新たな文化、芸能を発掘し発展させる事を目的に「第一回オーブンミュージアム」を開催した。

ミレニアムムードに盛り上がる二千年、第三代理事長山口章は、三五周年を迎える相模原J.Cの今後の活動を青年会議所の原点に立ち戻つて考えた。この年、相模原市の人口は六十万人を突破し中核市となった。地方分権が叫ばれる中「政令指定都市をめざして」と銘打って提言書を作成。例会では、当時衆議院議員の小泉純一郎を講師に迎え、「これからの青年のあり方」をテーマに多くの市民と答えを模索した。ちなみに、翌年小泉は第八七代内閣総理大臣となった。



相模原青年会議所50年の歩み

2001年～2005年

2001

平成13年



第36代理事長
大隈 秀仁

関東地区大会の主管
例会「賀詞交歓会」
例会 拡大例会の実施
例会 市長例会「より明るい豊かな社会の実現をめざして【21世紀の相模原を考える】」
第28回市民桜まつりへの参画
例会「まちづくりに関する例会」
例会「普通の大人に出来ること DERE TO CARE ～敢えておせっかい～」講師小田啓二氏
ロバート議事法研修
例会 3LOM 合同例会 / 玉川大学 センチュリー相模大野
第7回わんぱくグリーンフェスティバルの実施 / 上大島キャンプ場
例会 オープンミュージアム in SAGAMI の実施 / 田名花と芝生の広場
例会 高齢者問題に関する例会
例会 家族会の実施 / ベルヴィ相模原
LOM 運動指針の策定
まちづくりに関する提言書の作成
高齢者に関する提言書の作成
こども達の育成に関する提言書の作成
研修資料冊子の作成
LOM 宣言の策定

2002

平成14年



第37代理事長
伊藤 信吾

例会「賀詞交歓会」
例会 市長例会「5つの提言書についての意見交換」
例会「PIPプログラム(自分を、仲間を知る)」
第29回市民桜まつりへの参画
例会「ボランティアについて考えよう」講師 コイ・パダラ氏
大人包囲網、映画「とっかえっ娘」の実施
例会「町田・相模原広域まちづくりを考える」の実施 経済産業省 松藤 保孝
3LOM 合同例会 講師 金平 敬之助氏
例会 第8回わんぱくグリーンフェスティバルの実施 / 上大島キャンプ場
例会 オープンミュージアムの実施 / 相模大野中央公園
例会「市民活動ネットワーク・フォーラム」の実施 講師 牛山久仁彦氏
ボランティア協会 西本 敬氏 境川斜面緑地を守る会 太田 浄子
例会 家族会の実施 / 千葉県安房郡富山町
LOM ミーティングの実施

2003

平成14年



第38代理事長
矢越 孝裕

例会「賀詞交歓会」
例会 市長例会「地方分権の方向性と地域主権、市民団体への期待、民会委託業務の方向性」
例会「人づくりとまちづくり」元日本JC 会頭 土屋 龍一郎君
例会 新生まちづくりフォーラムの実施 相模原市長 小川 勇夫氏
町田市市長 寺田 和雄氏 津久井町長 天野 望氏 明大助教授 牛山 久仁彦氏
コーディネーター 田原総一郎氏
例会「大海原を目指せ・蛙(カワズ)たち」～渉外活動で見つけよう!! あらたなJC～の実施
高橋 祐介君
第30回市民若葉まつりへの参画
例会 日本JC 会頭 LOM 訪問 日本JC 会頭 揚原安磨君
例会 3LOM 合同例会の実施
例会 第9回わんぱくグリーンフェスティバルの実施
例会 第4回オープンミュージアムの実施
例会「家族会」の実施 / 藤野芸術の家・五感の里

2004

平成15年



第39代理事長
柴田 正隆

例会「賀詞交歓会」
例会 市長例会「近未来の相模原」
例会「心を動かす、人を動かす」(株)モノリス代表取締役 岩井良明氏
第31回市民桜まつりへの参画「世界一の空気イスに挑戦、チャレンジ・ザ・ギネス」の実施
例会「家族会」/ 横浜中華街 華正楼
例会「子どもが夢を持つために大人が出来ることとは」講師 菅原亜樹子氏・真船貴代子氏
例会『～貢献する心～』May 愛 Help You の実施
例会 まちm u c h たんけん隊 ～みんなで遊べばお友だち～の実施 / 川尻小学校体育館
例会 パワーアップ商店街の実施
例会 津久井JC 合同例会 / 明大助教授牛山久仁彦氏 城山町長小林正樹氏
例会「助け合おう! みんなのまち! 地域のきずな!」の実施
ラジオ番組「わくわくからはじまる BEST WORK OF LIFE」の実施 点字名刺の実施 献血推進運動の実施
ホームページ研修の実施 ビジネスプレゼンの実施 相模原・津久井地域合併勉強会の実施
市町村合併に関する市民アンケートの実施 地域の先生活動の実施

2005

平成16年



第40代理事長
井口 学

例会 OB 交流会
40周年記念式典 / センチュリー相模大野
例会 相模原ロータリークラブ合同例会
津久井JC 合同例会
第32回市民さくら祭りへの参画・リベンジ・ザ・ギネス 目指せ! 2005人の空気椅子の実施
(社)相模原青年会議所『メモリアルデー』の開催
例会 大人たちのKeep On Passion! 青島健太氏
例会 You are the hiro ～君たちが主役～
現代の子供たちは今、そして私達が今やらなければいけない事は 講師:水谷 修 氏
タイムカプセル開封式
例会 相模原エココミュニティ祭り / 麻溝公園
例会 相模原から日本を変える!? 構造改革特区例会
献血推進運動の実施



JCへの認識改革と ブロック会長輩出へ向けて

〇一年、第三六代理事長に就いた大隈秀仁は、一つの思いを抱いていた。「素晴らしい事業を沢山行っているのに、世間のJCへの印象は決して良くない」大隈はJC生活の中でJCに対する批判的認識によって幾度となく悔しい思いをしていた。そのような認識を払拭すべく「まちづくり」「高齢者問題」「青少年育成」など公益性の高い提言書の作成に取り組んだ。また、内部的にはJC活動以外でのメンバーの行動にも注意を呼びかけるとともに、十年間のLOM運動指針の作成やLOM宣言の策定など様々な改革を行った。

〇二年、第三七代理事長に就任したのは伊藤信吾である。それまで長きにわたり相模原JCで構築されてきた活動を継続、展開していくとともに、前年に作成した提言書を踏まえ、市長例会では「五つの提言書についての意見交換」を開催した。しかしこの年相模原JCには一つ重大な出来事があった。次年度の理事長が選出される七月のことである。当時、後に第三八代理事長となる矢越孝裕は、理事長に立候補するべきか否か決めかねていた。しかし決断は一つの出来事で大きく固まることになる。相模原JCに神奈川ブロック協議会会長職の担いが舞い込ん



だのである。相模原JCにとっては、中村の会長輩出からまさしく二年ぶりの会長職であった。会長輩出となると、正副理事からも多くの出向者を送り出しながらの運営となり、LOMとして薄氷を履むが如し状況となる可能性もあった。「出来る事ならば輩出したい」という強い気持ちだが、矢越の理事長立候補の決定打となった。そしてその白羽の矢は、現理事長であった伊藤信吾へ向けられたのである。

伊藤自身もこの類まれなる機会に大きく悩む中、LOMでは緊急の臨時理事会が開催された。その雰囲気は非常に重苦しいものであり、賛否は半々と拮抗し、最終的に伊藤の判断に任せる形となった。最終的に伊藤は就任を決断、相模原JCから二人目のブロック協議会会長が誕生することとなった。

積極的な変化の創造へ向けた

苦難と四十周年への感謝

会長輩出LOMとしての担いを無事に終えた翌年の〇四年、第三九代理事長となった柴田正隆が示した方向性は、LOMに物議を醸すこととなった。

それは「ゼロベースから全ての事業を見直す」という方針である。長年汗水を垂らして構築された歴史と各事業には、思い入れの深いメンバーも少なくない中での決断であった。しかし、柴田はJCの根本理念である「積極的な変化の創造」を実現するために、継続事業が「時代にあっているのか」の検証が必要であると強く感じていた。多くの委員会を周り、時には声を大きくして語り合ったと柴田。この年、桜まつりにて開催された「世界一の空気椅子に挑戦、チャレンジ・ザ・ギネス」は好評を博し、その後数回に渡り継続されることとなった。

創立四十周年を迎える〇五年、四十代理事長には井口学が就きまさにメモリアルイヤーと呼ぶに

相応しい事業が展開された。LOM設立時に大きな原動力となった相模原ロータリークラブとの合同例会開催に始まり、桜まつりに合わせた「メモリアルデー」ではJCRルームに四十年の歩みを展示、市民そしてOBと現役の交流の場を演出した。記念事業では三十周年記念事業に子供達が埋設したタイムカプセルを開封し、その手紙を郵送した。

飛び地合併への反対と まちづくり団体としての矜持

また、〇四年から〇六年の相模原JCを語るのに欠かせないのが、相模原市の合併協議への参画である。平成の大合併の申請期限が迫る中、全国で駆け込み合併が急増。相模原市は津久井郡や藤野、城山を始めとする近隣市町村との合併を検討していた。しかし予定した合併は調わず協議が難航。様々な意見の飛び交う合併協議会中には、柴田や矢越の顔があった。柴田はまちづくり団体の代表たる青年会議所理事長として参画。また、市によって「相模原・津久井地域合併協議会まちづくりの将来ビジョン検討委員会」が設置、委員公募が実施されると、「参画して意見を述べるチャンス」と、理事の多くが論文を提出、応募した。矢越はその中で委員長に就任。柴田、そして引き続く井口、鈴木とともに合併協議に参画した。

井口の代においては、協議会は津久井四町との飛び地合併案に傾き、不完全な形での決着となるうかとしていた。しかし井口は一貫してこれに反対。JC内でも勉強会を実施するなどして、意見を集約した結果であった。最終的には多数決にて飛び地合併が決定となったものの、「城山や他の地域から目を逸らしてはいけない」と、井口からは意見書を作成し、提出。多くの要望は叶わなかったものの、あくまで一時的な合併であることを示す「先行」の文言の追加が行われることとなった。

2006 年は、相模原市の合併協議が終了した年度である。「反対に手を挙げる事ができたのは JC だけだった」と語るのは、第 41 代理事長、鈴木歴代。鈴木歴代は前年度、前々年度より続く最後の合併協議会に市民の意思を反映する JC の理事長として参画した。



飛び地合併をするべきか否か

自治体を広域化することによって行財政基盤を強化し、地方分権の推進に対応することなどを目的とする、平成の大合併において、相模原市は市町村合併特例新法が期限切れとなる 2010 年 3 月末に全国最後の市として申請を行った。近隣市との協議の中で飛び地合併を視野に協議会も進んでいたが、相模原 JC から合併協議会に参画した矢越歴代、井口歴代、鈴木歴代らは「意見を抑えて欲しい」という声も上がる中、「市町村合併特例債を目当てに飛び地合併をして良いものか」と最後まで強く警笛を鳴らした。

ものを言う団体であること

「40代までは戦う時代だった」と鈴木歴代。曲がっていたら、真っ直ぐに直すことを恐れないこと。それを受け継いでいかねば、という思いが鈴木歴代にはあった。「若いのに暴れないのはまずいよね、意見を言っていないということだから。どんどん突っ込んでリードしてやっていくのが青年会議所の意義でしょう」鈴木歴代が先輩から継承してきた教えである。「飛び地では一体感のないまちづくりになってしまうなら、きちんと言うこと。結果、井口歴代の先行という言葉を入れては、という意見が採用されたのも、そういう背景があつてこそ」

中華青年連合会との会合

鈴木歴代が理事長候補者となった時分に、日本 JC から日中友好に取り組む LOM を探しているとの報を受けた。「(当時メンバーであった)李さんもいたしね。進んで手をあげたら、金沢、仙台、相模原だけでね」と鈴木歴代。すぐに柴田歴代と一緒に一週間のホームステイを敢行した。翌年 4 月頃に、再び日本 JC から連絡を受ける。「中国人を 1000 人集めるから、中華青年連合会と歴史問題について話し合いをする際、鈴木さん話して下さい、って。しっかり言わなきゃいけない、という思いと同時に、二度と帰って来れないかもしれない、と思いましたがね」鈴木歴代は笑いながら振り返る。「結局、外務大臣が麻生さんになった時で、青年会議所とは揉めないように、とのお達しがあったそうで、急にやめましょうという話になった。胸を撫で下ろしましたね」そのような中、鈴木歴代の意識に根付いていたのは、「理事長は逃げちゃいけない」という一念であったという。

反省する点

「委員会予算を増やしたことが、安易に講師例会ばかりやる傾向を生み出してしまった」ことを反省していると鈴木歴代は語る。前年度拡大に成功して急に予算が上がったため、予算に余裕があったためだ。今でもまさに LOM に起こりうる問題である。



メンバーへの一言

年寄りになると、おっくうになることが多い。日本 JC に変革の能動者足らんとする、という言葉があるが、それが JC の原点。青年が引っ張ることによっていいまちができる。是非相模原市ではリーダーとなりやって欲しい。



第42代理事長
小山 昌寿

2007

事業内容

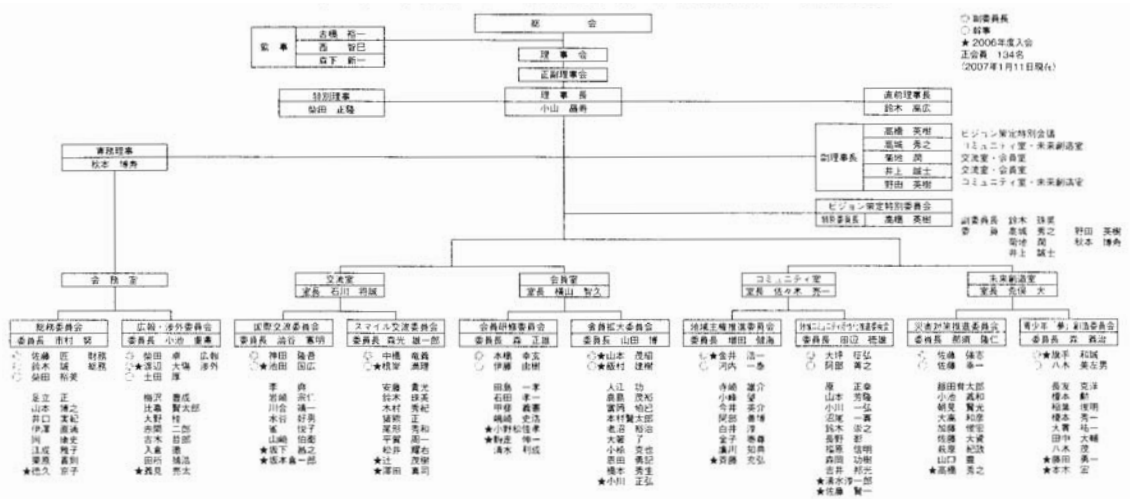
- 〈例会〉
- 1月第一例会 (通常総会)
 - 1月第二例会 (賀詞交歓会)
 - 2月第一例会 「感動力」 平野秀典氏
 - 3月第一例会 「こころをつくる、食卓環境の大切!!」
 - 4月第一例会 社団法人相模原青年会議所の未来像
 - 4月第二例会 まちを救うJCとして踏み出そう
～災害の事前対策と被災時の初期対応を知る～
 - 5月第一例会 市民さくら祭り
「フライング・ドットィ・プロジェクト」
 - 6月第一例会 理事長選挙
 - 7月第一例会 「感謝力」 杉山美奈子氏
 - 8月第一例会 「2007 学びの夏休み!!」
 - 8月第二例会 理事選挙
 - 9月第二例会 『市民討議会を勉強しよう』
 - 10月第一例会 「スポーツコミュニティ博2007」
 - 11月第一例会 (家族会)
 - 12月第一例会 (定期総会)

- 〈事業〉
- 相模原市長選挙公開討論会
 - ～ズバッとこれからの相模原 相模原市長選挙公開討論会～
 - 委員会事業「子どもと大人の災害対策の備え」
 - ～市民を救う「助さん絆さん」～
 - 地域主権推進のためのブログ事業

社会情勢

- 1月9日 防衛庁が省に昇格し、防衛省発足。同時に久間章生防衛庁長官が初代防衛大臣に就任。
- 3月11日 相模原 津久井郡藤野町、津久井郡城山町を編入合併する。旧町の各区域に地域自治区を設置。市面積が328,84km²となる。人口が合併特例の政令指定都市昇格要件70万人を超える。
- 4月29日 2005年に成立した改正祝日法により、この年よりこの日は「昭和の日」に(2007年は日曜日のため翌30日が振替休日)。
- 5月4日 2005年に成立した改正祝日法により、この年よりこの日は「みどりの日」に。
- 5月6日 米メジャーリーグ・ニューヨーク・ヤンキースの松井秀喜が日米通算2000本安打を達成。日米通算での2000本安打はシアトル・マリナーズのイチローに次いで2人目。
- 5月14日 日本国憲法改正の手続法となる国民投票法、参議院で可決成立。
- 7月16日 - 新潟県中越沖地震が発生。
- 8月17日 - 日経平均株価が874.81円安と、2000年代最大の下げ幅を記録。
- 11月1日 この日現在の75歳以上の推計人口が1276万人と、統計を取り始めて以来初めて全人口の1割を超える。
- 11月22日 ミシュランが、欧米以外で初となるミシュランガイド東京を発表。

組織図



「あえて背伸びをしなかった年ではあるが、とてもまとまっていた」とあるメンバーは印象を語る。2007 年は前年度人数が増えたこともあり、副理事長を対外担当と対内担当に分けて、特に力を入れて LOM の足元の見直しを図っている。「JC ルームが汚れていては青年会議所として恥ずかしい」と、まず JC ルームの徹底した清掃から始まり、点鐘の意味を考えることまで、兎にも角にも意識の部分から見つめなおしたのである。

正副で行った箱根合宿

候補者時に一年間どうするか、とことん話し合うために箱根合宿を敢行した。2007 年度は津久井四町との合併の翌年であり、町田 JC や津久井 JC との合併構想や日本 JC とのコミットなど、LOM の枠を考えなおす多くの機会に恵まれた年であった。そのため、ぶれることのない一年間を捉え直す意味を込めて一晩を共にすることで結束を図ったとも言えよう。

常に行動の意味を捉え直す

京都會議はバスをチャーターし、できる限り会員の負担にならないよう、費用を抑えた。また、現地に前乗りする副理事長とバス内で統率する副理事長を分けて、つぶさに理事長や正副が今この時何を行っているか、その意味を常にメンバーと共有するようにしていた。「一つ一つの青年会議所運動の意味を、メンバー一人一人と共有できるよう、いつもその意識を持つようにしていた」

LOM 運動指針の改定

LOM 運動指針の改定が行われたのも 2007 年である。理事会や LOM 内での侃々諤々の議論を経て、方向性を幾通りも検討した。詳細に未来を描くのか、それとも毅然とした進むべき道標を立てるのか。当時のメンバーは「LOM の未来を広げるような運動指針を作りたいかった」と語る。

フライング・ドットィ・プロジェクト

また 2007 年度を語るに、半ば伝説となったこの事業の話題は欠かせないであろう。巨大な鯉のぼりを製作し、市民とともに色付けをした後、相模原の青い大空へ羽ばたかせたのである。当時から在籍するメンバーは皆口を揃えて記憶に残っていると答える。事業後、鯉のぼりは金沢動物園に寄付されたとのことである。



激動の時代

2000 年代は、合併協議から政令市への以降まで、相模原市が怒涛のごとく変化する、まさに「変化の 10 年」と言えよう。

その中で骨子を固めた 2007 年の意義は非常に大きい。ここから、今私達が迎えることのできた 50 周年に繋がっているのである。



第43代理事長
古橋 裕一

2008

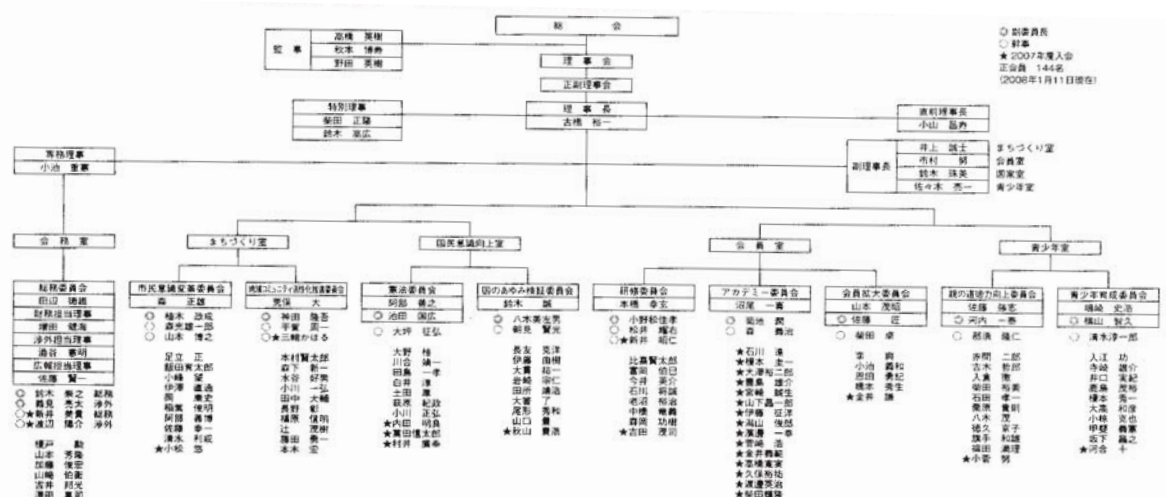
事業内容

- 〈例会〉
- 1月第一例会 (通常総会)
 - 1月第二例会 「新春記念講演会」
 - 2月第一例会 「市長例会」
 - 2月第二例会 「人と組織を熱くする！モチベーション・マネジメント」
 - 3月第一例会 「今がその時、開こう歴史の1ページ」
 - 4月第一例会 「相模原市にJリーグクラブを誕生させよう」
 - 4月第二例会 「相模原に隠された宝を探し出せ！」
 - 5月第一例会 親学講演会 「これでいいのか今の親！子育ての極意教えます！」
 - 6月第一例会 『出向者報告会』
 - 6月第二例会 理事長選挙
 - 7月第一例会 「憲法フォーラム」
 - 7月第二例会 「ファシリテーター養成講座」
 - 8月第一例会 パイレーツオブサガミアン2 巨大鬼ごっこ SHIROYAMA 理事選挙
 - 8月第二例会 (会員大会)
 - 9月第一例会 「日本人の歴史感」
 - 9月第二例会 『新入会員オリエンテーション』～卒業例会～
 - 10月第一例会 「市民討議会報告会」
 - 10月第二例会 親学講演会「長田流！子育ての極意教えます！」
 - 12月第一例会 (定期総会)
- 〈事業〉
- 3LOM 合同事業 櫻井よしこ氏
 - さがみはら市民討議会
 - 政令市移行に向けての組織進化の検証と提言 「組織進化検証のまとめの提出」

社会情勢

- 1月7日 NTTドコモがPHSサービスを終了。
- 3月13日 東京外国為替市場で、1995年11月以来12年4か月ぶりに1ドル100円を突破する円高を記録。
- 4月22日 広島高等裁判所、1999年4月に山口県光市で発生した光市母子殺害事件の差し戻し審で、犯行当時18歳の被告人に死刑判決。
- 8月8日 北京オリンピック開幕(8月24日閉会式)。
- 9月24日 麻生太郎が第92代内閣総理大臣に指名される。
- 10月1日 松下電器産業が社名を「パナソニック株式会社」に変更、国内での商標も「Panasonic」に統一。
- 10月24日 ロンドン外国為替市場で一時1ドル=90円台、1ユーロ=113円台と、1995年8月以来13年3か月ぶりとなる円高を記録。
- 10月26日 創業1864年の老舗百貨店、横浜松坂屋がこの日限りで閉店。
- 10月27日 日経平均株価、2003年4月のバブル崩壊以降最安値を更新、前週末比486円18銭(6.36%)安の7162円90銭となり、1982年10月7日以来26年ぶりの安値水準を記録。

組織図



第 44 代理事長古橋歴代が意識したことは、「理事を迷わせないこと」。古橋歴代は理事長選挙の当時からアンケートを配布し、メンバーの意見を率先して組閣に組み入れた。古橋歴代を知るメンバーは「とにかく変化を大切にする人だ」と評する。施策で言えば、音声議事録の採用など、大小含めて 20 以上行っていると言われている。

ブロック会長の輩出年度

2008 年は第 37 代理事長伊藤歴代がブロック会長として出向したわずか 5 年後、再び第 39 代理事長を務めた柴田歴代がブロック会長として出向。異例の事態とも言えた。古橋歴代は伊藤歴代がブロック会長として出向していた経験を活かし、担当を二つに分割、チーム分担制で LOM 運営に当たった。上記ブロック会長輩出に加え、例会数自体の増加もあったが、LOM の雰囲気としては逆に淡淡としていたと古橋歴代は語る。まさしく丹念な準備に裏打ちされた証左と言えよう。

価値観の移り変わり と 理事長に立候補した決意

「JC の創立期には戦後復興から始まり、日本を“国際”的に復帰させる、という流れから、徐々に“国内”を充実させる、“地域”をより良くする、と視点が変わっていき、やがて“個人”に収束、人間力にまで行き着いた時代」と古橋歴代は分析する。最終的には、日本人として、どんな人間として成長すべきか、という視点となった。古橋歴代は憲法について考えさせることが今の社会の中で必要だと考え、その最も効果的な方法は何かを考えた末、理事長に立候補した。

社会の中での JC

「理事長の役割は、社会の問題を LOM に取り入れること。言い換えれば、社会の中の JC にすること」と古橋歴代。「社会に必要とされる JC でなくてはならない」古橋歴代はその信念に従い、市の合併を受けての津久井 JC との合併協議から、地域へ還元する各種事業までを行っていったのである。



メンバーへの一言

本気で頑張れ。JCは全て会社に役立てることができる。もし役立たないのであれば、本気でやらないということ。最後に一言、企業家であれば、運営に参画しなければ意味がない。



『心の絆』

笑顔でひとのためになること



第44代理事長
井上 誠士

2009

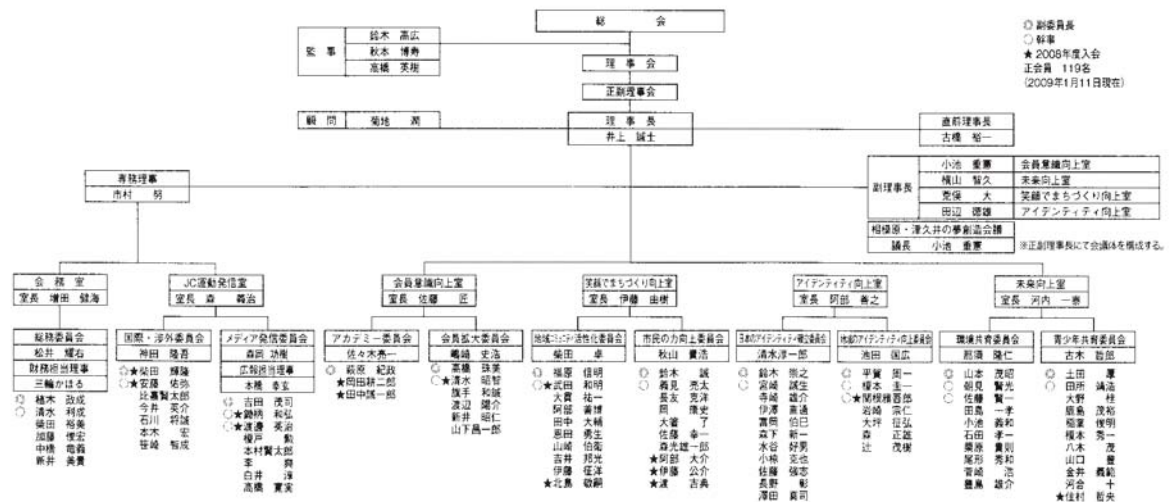
事業内容

- 〈例会〉
 1月第一例会 (通常総会)
 1月第二例会 (記念講演会石毛宏典氏・賀詞交換会)
 2月第一例会 (市長例会)
 (社) 大和青年会議所合同3月第一例会
 「もっと日本が好きになる！」
 ～メディアが取り上げない歴史観～
 4月第一例会 「エコかっこいいさがみはら。」
 4月第二例会 「チャレンジ！日本一の人間空気イス」
 5月第一例会 「人と人をつなぐ力」
 6月第一例会 理事長選挙
 7月第一例会 (関東地区大会)
 7月第二例会 日本青年会議所 サマーコンファレンス
 8月第一例会 『第一回親子の絆 in Summer』
 8月第二例会 理事選挙
 9月第一例会 (神奈川ブロック会員大会)
 9月第二例会 「さがみ風っ子マラソン」
 ～日本記録保持者、片岡純子と走る！
 日本縦断2000Km～
 10月第一例会 舞台劇「心の絆」
 11月第一例会 「先端企業の環境経営からビジネスチャンスをつかみ取れ。」～企業経営の差別化を図る～
 11月第二例会 (卒業例会)
 12月第一例会 (定期総会)
 〈事業〉
 3LOM 合同事業
 事業「公開討論会」
 事業「さがみはら市民討議会」

社会情勢

- 3月10日
 日経平均株価の終値が7054円98銭。
 バブル崩壊後の最安値を更新。
 3月13日
 政府、海賊対策のため、自衛隊法に基づく海上警備行動で海上自衛隊をソマリア沖へ派遣することを決定。
 5月21日
 裁判員制度施行。
 9月16日
 鳩山由紀夫内閣が組閣される。
 10月23日
 相模原市が政令指定都市に昇格することが閣議決定される。
 11月12日
 天皇陛下即位20周年。
 11月19日
 小惑星探査機「はやぶさ」が11月9日からイオンエンジンのトラブルが原因で地球への帰還が危ぶまれていた問題で、宇宙航空研究開発機構が帰還できる見通しになったと発表。

組織図



「年度を通して一番重視したのは市民意識の向上」と語るのは、第44期理事長である井上歴代だ。井上歴代は「スポーツを通しての市民によるまちづくりへのコミット」と「若者の歴史観の醸成」を二本柱として、如何にしてまちにコミットする青年世代を育めるかを考えた。

市民を巻き込むスポーツイベントの礎



市が積極的にスポーツイベントを行っていたこともあり、2009年はスポーツに関連した事業を多数行なった。1月には四国アイランドリーグの創設をされた石毛宏典氏を呼んでの記念講演、8月に市民と地域のプロスポーツ団体を複数交えて行った「親子の絆 in summer」、4月桜まつりでは人間空気椅子など、枚挙に暇がない。中でも横山公園で行われた「さがみ風っ子マラソンー片岡純子と走る日本縦断ー」は井上の思いを体現した事業であり、2015年まで続く相模原 JC の一大継続事業さがみ風っ子トレイルランニングの前身となっている。(詳しくは 72 ページの特集を参照)

日本という国家への認識ー歴史観の醸成

歴史観を醸成するために行われたのは、3月に行われた例会、当時日本を騒然とさせた田母神幕僚長の招いての講演である。日本がこの先どのような舵を切るかを日本中が見守る事態の中、若者が改めて日本の歴史を学び、日本に誇りを持ち、日本を好きになる契機とすべく、思いを込めて行われた。

日本 JC とのコミット

上記の歴史観に関連して、前年度理事長を務めた古橋が日本 JC の議長を務めたこともあり、日本 JC の行う扱う事業へのコミットを試みたのも特徴である(詳しくは 78 ページの出向者特別インタビューを参照)。現在では当然のように行われている歴史問題事業や憲法例会であるが、あまり扱わない LOM も多い歴史や憲法に関する例会を、LOM として設えていくための下地を作った。またサマーコンファレンスや関東地区大会、ブロック大会などを例会という形で登録数を伸ばしたのも、市という枠を超えて活動を行いたいという井上の思いがあっこそである。



津久井 JC との合併協議

相模原市が政令市となったのは翌 2010 年であるが、2006 年に行われた市町村合併を受けて、津久井 JC との合併協議もあった。LOM の方向性が違ったのもあって実現には至らなかったが、LOM の目指すものを再認識した年でもあった。

メンバーへの一言

時代時代によって青年が行うべきことは違いうだろう。歴史や時代について理解を深め、青年こそが率先して国を引っ張って行って欲しい。



第45代理事長
小池 重憲

2010

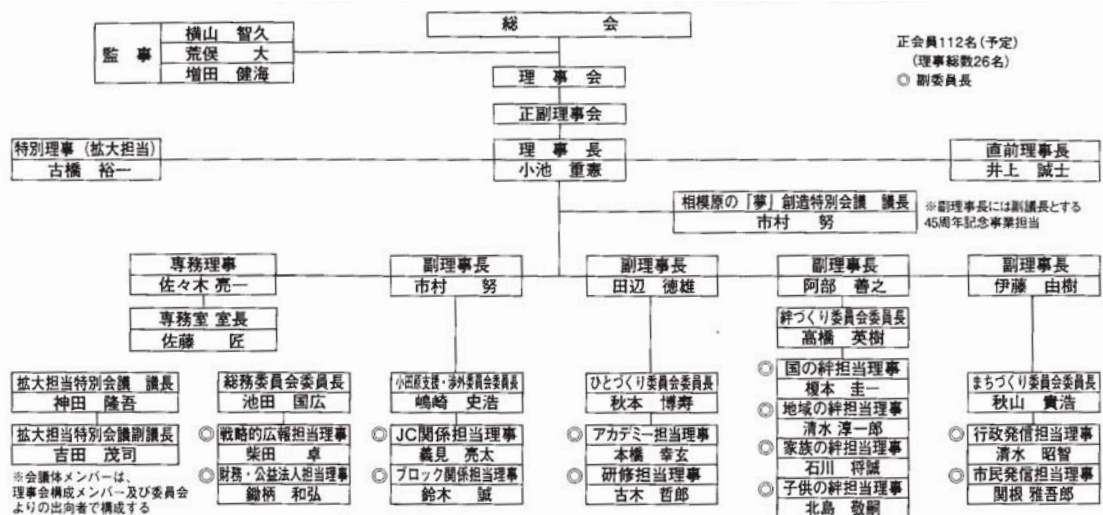
事業内容

- 〈例会〉
- 1月第一例会 通常総会
 - 2月第一例会 45周年記念事業 桂小金治氏 記念講演
 - 3月第一例会 「悩みな後継社長！今さら聞けない事業承継の掟」 二条彪氏
 - 4月第一例会 45周年記念事業市民桜まつり
 - 4月第二例会 日本に挑戦人間空椅子、「相模原サイクリン」
 - 4月第二例会 「行政改革のプロフェッショナルが伝える・今の私たちに出来る事」長島一由氏
 - 5月第一例会 市長例会～市長からのメッセージ～
 - 6月第一例会 理事長選挙
 - 7月第一例会 「遠くから見た日本、近くから見た日本～今日本人は何をなすべきか～」 J.A.T.D. にしゃんた氏
 - 8月第一例会 エキサイティングサマーナイト
 - 8月第二例会 理事選挙
 - 9月第一例会 矢越孝裕氏講演会
 - 9月第二例会 風っ子トレイルランニング
 - 10月第一例会 第58回全国会員大会小田原・箱根大会
 - 10月第二例会 スポーツフェスティバル なわとび選手権開催
 - 11月第一例会 45周年記念事業 「こもれびの森プロジェクト」
 - 11月第二例会 卒業式・シニアクラブ交流会
 - 12月第一例会 定期総会
- 〈事業〉
- 2月事業 企業視察
 - 3月事業 オリエンテーション
 - 6月事業 「相模原まちづくりミーティング2010 市民討議会」
 - 7月事業 家族会
 - 7月事業 2010年参議院議員選挙に伴うマニフェスト型公開討論会
 - 10月事業 「公益社団法人セミナー」
 - 12月事業 (社) 韓国釜山海雲台青年会議所式典参加

社会情勢

- 4月1日 神奈川県相模原市が19番目の政令指定都市に移行し、緑区・中央区・南区の3行政区が設置。同時に相模原市と座間市の郵便番号が大幅に変更され、両市の郵便番号は上3桁が「252」に統一されるとともに統括支店も郵便事業横浜神奈川支店から郵便事業綾瀬支店へ移管された。
- 6月4日 菅直人が第94代内閣総理大臣に選出される。
- 6月13日 小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還。
- 12月1日 相模原 境川の河川改修に伴い、東京都町田市との境界の一部を変更し、市面積が328.83km²に減少する。

組織図



2011

「力ある行動で未来を創る」今こそ「優しさの種を蒔こう」



第46代理事長
市村 努

事業内容

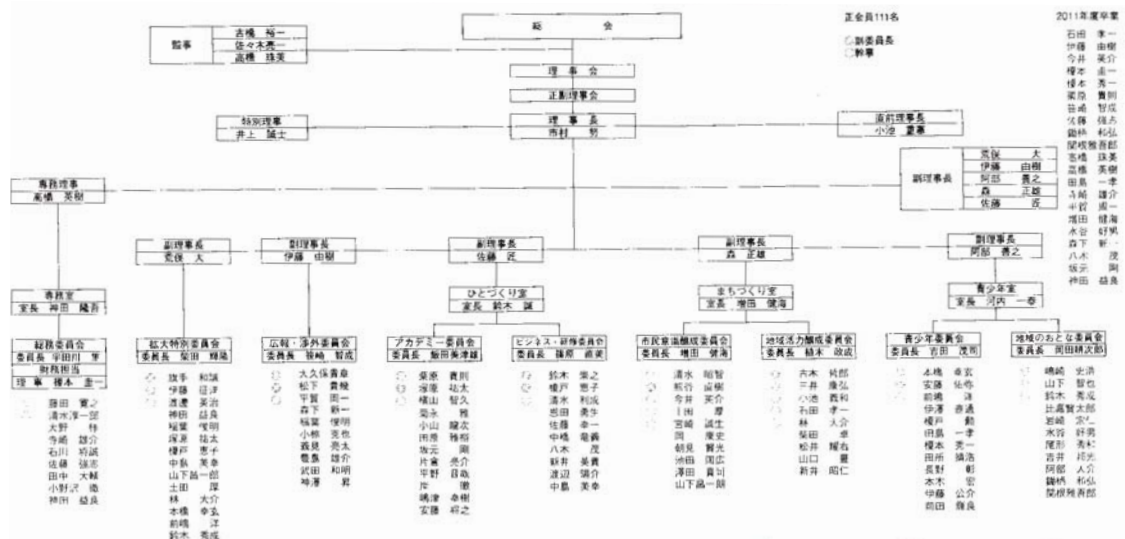
- 〈例会〉
- 1月第一例会 通常総会
 - 1月第二例会 賀詞交歓会
 - 2月第一例会 リーダー論 植田辰哉氏
 - 3月第一例会 ラウンド1～チャンスはここから～ダメな子なんていない！皆、未来は希望に満ち溢れている！
 - 4月第一例会 「子どもは地域の宝～すべての子どもは天才だ！～」横峯義郎氏 / 震災のため中止
 - 4月第二例会 人財の条件～強さと優しさを兼ね備えたリーダーになろう 朝倉千恵子氏
 - 5月第一例会 がんばろう NIPPON！優しさまつり
 - 7月第一例会 がんばろう NIPPON！変化の時代の企業経営 森永卓郎氏
 - 8月第一例会 「宇宙のまち、相模原」スペースツアー
 - 9月第一例会 ココロの元気～「元氣と笑顔を引き出す」リーダー論 大谷由里子氏
 - 9月第二例会 第2回風っ子トレイルランニング
 - 10月第二例会 市長例会
 - 10月第一例会 「地域のおとなシンポジウム～いま、子ども達のためにできること～」山田宏氏基調講演、パネルディスカッション(山田氏、小宮満彦氏、柴田正隆氏)
 - 11月第一例会 卒業例会
 - 12月第一例会 定期総会

- 〈事業〉
- OB 交流会
 - 記者クラブとの交流会
 - 3LOM 合同事業
 - 家族交流会
 - 10月 LOM 事業
 - 市民討議会
 - 境川クリーンアップ作戦
 - 環境まつり

社会情勢

- 3月11日 日本時間午後2時46分頃、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）が発生。
- 5月15日 相模原区ごとのシンボルカラーおよびシンボルマークが発表される。
- 9月3日 藤子・F・不二雄ミュージアムが神奈川県川崎市多摩区の生田緑地に開業した。

組織図



21 世紀日本最大の事件とも言われる、東日本大震災。「とにかく震災の中での一年だった」と第 46 代理事長市村歴代は振り返る。

3・11 東日本大震災によって、まさに日本が揺れた。相模原 JC においても桜まつりが中止となり、その他計画停電などにより講師例会なども中止になった。全国的に様々な祭りを自粛しようという意識もあったものの、時期的、物理的に開催が困難というのも事実であった。

やさしさまつりの開催

そんな中、JC が先頭に立って淵野辺公園で行ったのがやさしさまつりである。相模原市最大の祭りである桜まつりに向けて準備をしていた各種団体らと協議し、市役所に協力を要請して実現にこぎつけた。予算執行や開催場所などの問題を抱えながらも、JC としては異例のスケジュールの中で LOM の総力を挙げ、桜まつりの翌月である 5 月に開催した。



「とにかく、前向きに、前を向けるように」と市村歴代。自粛も大事だが、相模原 JC の役目は前に進む、その先頭に立つことであるという信念があつてこそこの開催であろう。普段事業などには参加しない OB も多く集まったと言う。行われたコインアートは被災地に寄付をするために市民に体感して頂きながら募金をして頂き、以後 2 年の桜まつりにおいて引き

継がれた。集まった募金は被災地にある大船渡 JC へと渡された。「せつくなので被災地の JC に復興に活かして欲しい、そう日本 JC とも協議して辿り着いたのが銀河連邦の繋がりがある大船渡だった」。今日まで交流のある大船渡とのコミットもここから始まったのである。手帳にある LOM 災害マニュアルの修正がなされたのはこの翌年である。

公益社団法人への移行

またこの年、相模原 JC はついに社団法人から公益社団法人へと移行した。公益社団法人格への移行は、LOM のまちづくりに対する意識をより高いものとし、ブランディングにも大きく繋がっている。



メンバーへの一言

JC が引っ張っていく時代から、色々な団体と協働していく時代が変わってきていると思う。

しかし、先頭に立って変えていける、変えられるのはやはり JC の役目であることを忘れないで欲しい。



「私たちの輝きをまちの輝きへ」笑顔あふれる持続可能な社会を創造しよう



第47代理事長
森 正雄

2012

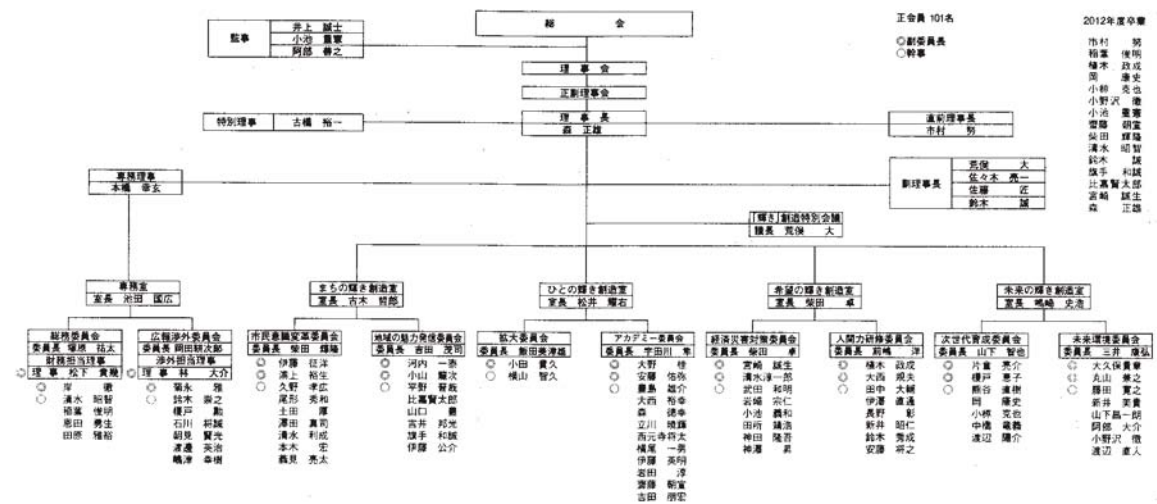
事業内容

- 〈例会〉
 1月第一例会 通常総会
 1月第二例会 賀詞交歓会
 2月第二例会 「頼まれ事は試され事」～出会いを生かせば
 ブワッと道は開ける～
 2月第一例会 どげんかせんといかん～混迷の時代を生き抜く
 人間力～ 東国原英夫氏
 3月第一例会 心のバリアフリー～今大人たちが変わる時～
 濱宮郷詞氏
 4月第一例会 桜まつり、輝け！！70万市民の心！！
 OMOIYARI コインアート
 5月第一例会 連携事業 おこじゅうグランプリ
 5月第一例会 第3回風っ子トレイルランニング
 6月第一例会 理事長候補者選挙
 7月第一例会 Z A ! Z E N ～身を清め心を清める無の境地
 理事選挙
 8月第二例会 さがみ風っ子元気はつらつ探検隊
 9月第一例会 神奈川ブロック会員大会
 9月第二例会 パートナーに伝えよう大切な「仁」～「礼」を
 尽くして「忠」を得る～ 青柳浩明氏
 10月第一例会 市長例会
 11月第一例会 卒業例会～この輝きの先にあるもの～
 12月第一例会 定期総会
 〈事業〉
 OB交流 LOM ジャが
 韓国釜山海雲台青年会議所交流 30周年記念事業
 市民ミーティング～防災について～
 公開討論会～自分たちの未来は自分たちで決めよう～
 3 LOM 合同事業

社会情勢

- 2月10日
 パナソニック、VHS方式の家庭用ビデオ
 オテープレコーダの生産を終了。
 4月26日
 渋谷駅東口に駅直結の複合商業施設「渋谷
 ヒカリエ」開業。
 5月22日
 東京スカイツリーおよび、東京ソラマ
 チなど周辺の商業・観光・業務施設を
 含む東京スカイツリータウン開業。
 7月1日
 食品衛生法により生の牛レバー（レバ
 刺し）の提供禁止。
 9月16日
 日本の65歳以上の人口が3074万人と
 過去最多となる。
 12月16日
 第46回来議院議員総選挙投票日。野
 党第一党の自由民主党が単独で絶対安
 定多数（269議席）を確保する大勝で、
 与党に返り咲いた。

組織図



「持続可能な社会を作らなければと、そう強く感じた」第47代理事長森歴代のスローガンには、「持続可能な社会」と「輝き」という言葉が含まれている。その意味は勿論、前年度に起こった東日本大震災を受けてのものである。

日本に大きな傷跡を残した東日本大震災は、まさに未曾有の天災であった。相模原の近隣市でも施設の倒壊などにより犠牲者があった。こうして4年が経過した現在も、未だ多くの問題が山積している。まさしくJCメンバーが率先して取り組むべき課題である。

被災地支援としてのコインアート事業と防災

前年度、東日本大震災の復興支援祭りであるやさしさまつりの実行委員長であった森は、前年度に引き続いて募金としての性格を併せ持つ事業、コインアートを行った。「東日本大震災によって、何を学び実行に移すかが大事」と森。被災地への支援と同時に、自分たちのまちの足元をもう一度見直すべく、市民ミーティング～防災について～を開催した。この事業は近年全国の青年会議所で行われている市民討議会の手法を取り入れ、この局面に活かされた画期的なものとなった。

拡大期の始まり

また森の1年は拡大の転換期とも言われる。第45代理事長である小池重憲が日本JCの拡大委員会副委員長になったこともあり、拡大に注力、飯田委員長のもと32名の拡大を達成した。この年の経験が4年後にMISSION200(200名LOM)達成を成し遂げる基礎を作ったと言える。

ブロック大会誘致の決定

この年の大きな決断が、神奈川ブロック大会誘致の決定である。どこかでブロック大会へ手を挙げる人間が必要だった、と森。50周年では周年事業と共に行われたブロック大会があつて、まさに忘れられない1年となったわけであるが、その軌跡の1つがここに刻み込まれているのである。

メンバーへの一言

私は最終的に、まちを、人を、自分を、その全ての未来を輝くようにしたい。積極的にJC活動に邁進し、輝いて欲しい。



2013



第48代理事長
荒俣 大

事業内容

〈例会〉

- 1月第一例会 通常総会
- 2月第一例会 賀詞交歓会
- 2月第一例会 お店の広告・宣伝・PRの成功の秘訣を教えます！
関橋英作氏
- 2月第三例会 深めよう！自国の歴史 伝えよう！日本の神話
- 3月第一例会 日本JC公認プログラム「Japan Pride」
～過去から受け継ぐべきもの、未来から引き継ぐべきもの～
市民まつり、リサイクリング、被災地に桜を咲かせよう！OMOYARI コインアート
- 4月第一例会 人間魅あるリーダーを目指して！
～相模原を強くする！異業種交流会～佐藤泰博氏
- 5月第一例会 「日本の出番、祖国は魅る」 青山繁晴
- 6月第一例会 第4回さがみ風っ子トレイルランニング
- 6月第二例会 理事長候補者選挙
- 7月第一例会 感動を呼ぶサービスと情熱！ 香取貴信氏
- 8月第一例会 理事選挙
- 8月第二例会 相模原グローバルアカデミー
～宇宙から見た、ただ一つの地球～
- 9月第一例会 ブロック大会
- 10月第一例会 卒業の持つ意味～さらなる高みを目指すために～
- 10月第二例会 市長例会～JCだから聞ける！話せる！市政の話～
- 11月第一例会 卒業例会 新たなる希望
- 12月第一例会 定期総会

〈事業〉

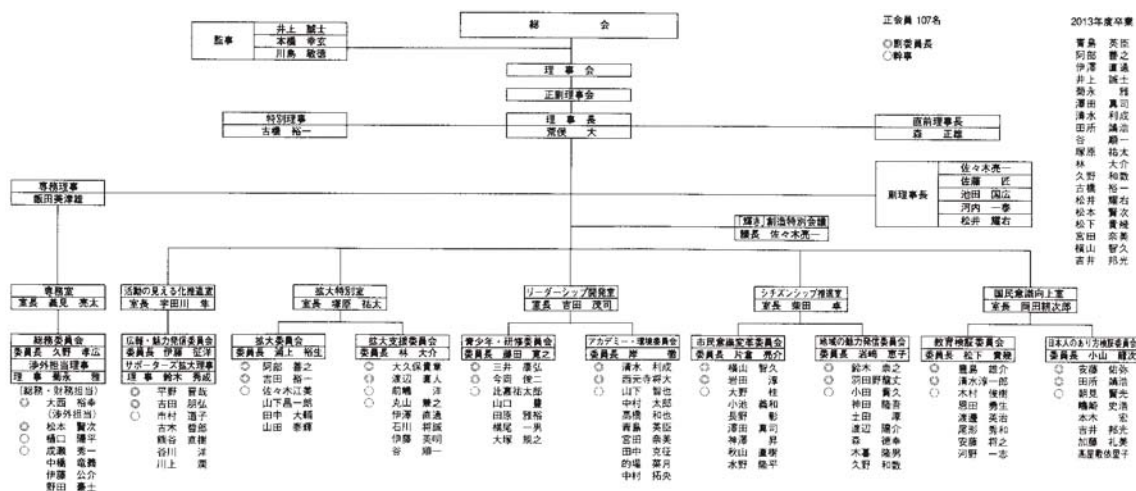
- 7月 LOM 事業 親子の絆フォトコンテスト
- 8月 LOM 事業 韓国ホームステイ～相模原から発信 日韓友好の懸け橋～
- 9月 プレミアム事業
- 10月 プレミアム事業
- 11月 LOM 事業 林修氏
- 3 LOM 合同事業
- 1月 成人式事業
- 地域の先生事業
- 英霊に感謝する 68年目の夏～終戦の日に靖国神社を参拝しよう～
- 4月 環境事業 第1回相模原環境川柳コンテスト～ちょっと身近なエコに関する思いを川柳にのせて発信しよう！！～
境川クリーンアップ作戦

社会情勢

- 1月1日 復興特別所得税導入。
- 4月19日 公職選挙法の改正案が参院で可決成立、インターネット選挙運動が解禁となる。
- 6月22日 富士山が世界文化遺産に登録される。
- 8月29日 JR リニア山梨実験線の全線開通により、営業用を想定する新型車両「L0系」を使用したリニア中央新幹線の試験走行を再開。
- 9月4日 最高裁判所、民法第九百条第一項第四号が定める婚外子（非嫡出子）相続格差の規定は違憲との判決を下す。

「大きくしよう！人間の器 伝えていこう！今の時代を生きる喜び 引き上げよう！こころのレベルアップ」

組織図



「求めたのは精神的な豊かさ」と語るのは第48代理事長荒俣歴代である。通常相模原 JC では「主体性を持った市民」等の表現がなされるが、荒俣歴代は「心のレベルラインを上げたい。精神的な豊かさを高めた人を増やしたい」と独特の表現を用いている。また、後述するサポーターズクラブや拡大50名など、多くの数値に拘った実績を残している。

年度を通じて重要視したこと

まず荒俣歴代は運動を可視化しようと考え、「活動の見える化」に取り組んだ。まず、LOM 新聞の発行を行った。また市民からの認知度の向上として、相模原 JC のメールマガジン「サポーターズクラブ」を設立。最初は苦勞したもの、最後には林修氏を招いての講演事業を成功させ、全国でも例を見ない初年度にして相模原市民の1%に相当する7000名の会員獲得を達成した。このサポーターズクラブは翌年移行も引き継がれ、現在では12000名を超える市民との繋がりを持つ無限の可能性を秘めたツールとなっている。



具体的数値目標を達成していく

「1年を通して、大きな問題点は感じなかった」と強気な姿勢を見せる荒俣歴代。「達成することに非常に重きを置いた。具体的な数値を目標として掲げ、意識をして達成する」2013年度は、昨年の森理事長時代における32名拡大を超えて、浦上委員長のもと脅威の50名拡大を初めて達成した年度でもある。

「相模原JCをもう一段階上げる意識が薄いと感じていた。意識をして達成、というプロセスを踏むこと、本気の姿勢を見せることによって、LOM全体のレベルが確実に上がった」全ては心のレベルラインを上げることに繋がっているのだ。

言うべきことを言うようにする

「2月第3例会において、理事長挨拶で時間内に集まらなかったメンバーに対し、苦言を呈した挨拶は、今でも記憶に残っている」荒俣歴代は、厳格な理事長としても知られている。数々の苦言や叱咤を臆すことなく発言していた。ただ、「彼のような理事長がどれだけ素晴らしいか、理解され辛い。しかし、なくてはならない人物なのだ」と当時のメンバーの声も聞かれる。

メンバーに一言

JCの繋がりはそのすごく強固で圧倒的に抜けている存在なので、いつまでもその繋がりを残してほしい。もしJCが大したことないな、とか思っている人がいたら、あなたが高めてください。新しい社会問題に対して常に取り組んでいって欲しい。

「真に自立した相模原の創造を目指して」



第49代理事長
佐々木 亮一

2014

事業内容

〈例会〉

- 1月第一例会 賀詞交歓会
- 2月第一例会 表現力！伝え方の極意～聴き手のハートをぐっとつかむ秘訣とは？～
- 3月第一例会 JC青経塾
- 4月第一例会 地域の魅力発信ベース
～知ろう相模原、行こう大船渡～（市民桜まつり）
- 5月第一例会 教えて！ヒゲの隊長～憲法の最前線から～
- 6月第一例会 第5回さがみ風っ子トレイルランニング
- 6月第二例会 理事長候補者選挙
- 7月第一例会 サマーコンファレンス2014
- 8月第一例会 理事選挙
- 8月第二例会 市制60周年事業流しそうめん世界大会
～リニア麺で世界一に挑戦！～
- 9月第一例会 ブロック大会
- 9月第二例会 さがみはら秋の大市民まつり
～金の卵発掘プロジェクト～
- 10月第一例会 市長例会～創り上げよう！輝く相模原の未来～
- 11月第一例会 卒業例会
- 12月第一例会 定期総会

〈事業〉

- 4月 LOM事業 おぐねーの『人生』メイクアップ術&異業種交流会
- 7月 LOM事業 3LOM合同事業「3LOM経営塾」
～地域経営と広域交流を学ぶ～
- 9月 LOM事業 名古屋名物みそかつを生んだ矢場とん経営術&異業種交流会
- 10月 LOM事業 日本JC推薦プログラム「真の国際人育成プログラム」
公開討論会～そうだ！選挙に行こう～
- 第3回日韓交換ホームステイ事業～相模原からアニョンハセヨ～
- LOM事業 第2回相模原環境川柳コンテスト

社会情勢

2月7日
ソチ冬季オリンピック。

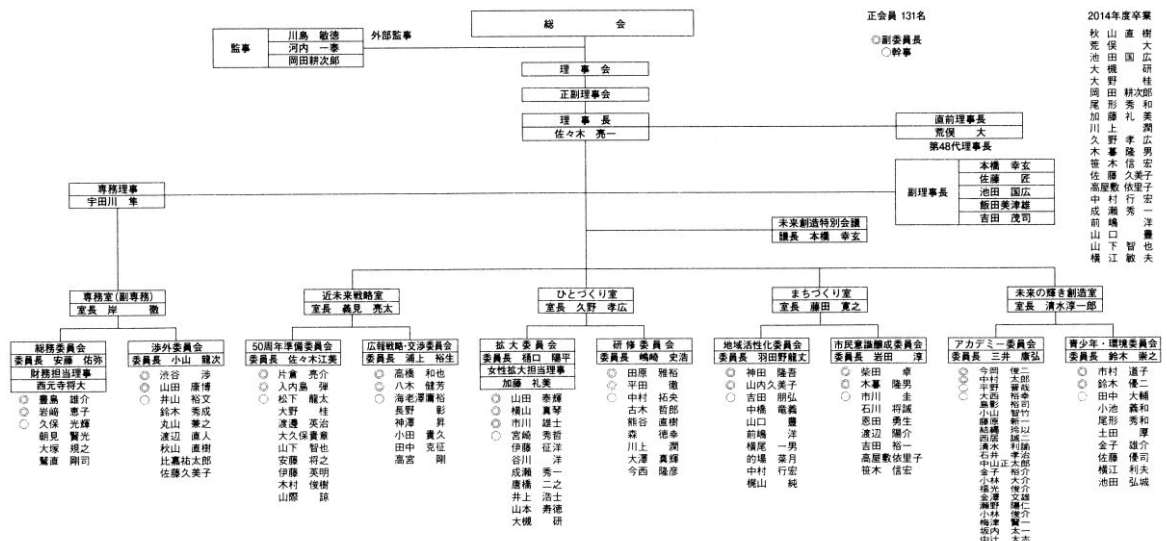
3月31日
フジテレビ系昼の長寿番組『森田一義アワー 笑っていいとも!』が放送終了。1982年の放送開始から31年半の歴史に幕を下ろす。

4月1日
消費税が5%から8%に増税。

7月1日
政府、臨時閣議において、日本と密接な関係にある国が攻撃された場合、「日本の存立が脅かされ、国民の生命、自由と幸福の追求権が根底から覆される明白な危険がある」「日本の存立を全うし、国民を守るために他に適当な手段がない」「必要最小限の実力行使にとどまる」の3条件を満たせば、日本以外の親密な他国が攻撃を受けた場合における自衛隊の反撃が「憲法上許容される」と考えるべきであると判断し、集団的自衛権の行使を認める憲法解釈の変更を閣議決定。

12月17日
リニア中央新幹線の安全祈願式が品川駅と名古屋駅で行われ、2027年の開業へ向けての建設が開始。

組織図



「1年間協働を軸に、ぶれずにやり遂げることができた」。そう力強く語るのは第48代理事長佐々木歴代である。相模原JCはこれまでも連携や協働を重視してはきたものの、この一言をキーワードとして誰よりも強く打ち出したのは佐々木歴代であろう。

佐々木歴代は常に正会員の前で協働の意味から語り聞かせた。同じ意思を持ってまちづくりに取り組む団体と、そして何よりカウンターパートである相模原市と足並みを揃え、手を取り合って、より良い未来を目指すのが佐々木歴代の目標であった。

自治会連合会との連携

実際に1年間を通して多くの事業で様々な団体と協働を試みたが、9月に行われた秋の大市民まつりでは、これまでに類を見ないほどの自治会連合会の協力を得ることができている。この事業は第1回目の開催とは思えないほどの市民の動員と成果を納め、翌年のブロック大会のS-1へと繋げる足掛かりとなった。「自治会の理事会に何度も足を運んだ羽田野委員長や梶山委員の努力あってこそだ」佐々木歴代はそう語りながらも1年間をこう総括する。「協働というキーワードのもと、1年間ぶれることなく邁進できた実感がある」。50周年事業においては自治会との連携のもと、700人を超える市民の動員に成功したわけであるが、その根本となる密接な関係はこの時代に構築されたと言っても過言ではない。

リニア神奈川県駅・補給廠一部返還



また2014年度は相模原市の未来を彩る大きな契機がある。米軍補給廠の一部返還と橋本駅のリニア神奈川県駅の決定である。

市長例会では補給廠について首長と意見を交え、また流しそうめん世界大会においてリニア設置駅であることを十二分に市内外にアピール。シティセールスに成果を残した。「これからはシティセールスもJCの重要な役目」と佐々木は力説する。

急遽行われた公開討論会

また、政治においても激動の時代である。年度の暮れには衆議院が解散、市民に各立候補者の意見を伝えるのはJCの役割だとして、急遽衆議院の公開討論会を開催した。

メンバーへの一言

相模原は大きな魅力と発展の可能性をはらむ非常に魅力的な都市である。JCは常にやるべきことを見据え、意識を変革し、率先して行動しなければならない。



第50代理事長
佐藤 匠

2015

事業内容

- 〈例会〉
- 1月 第一例会 通常総会
 - 1月 第二例会 賀詞交歓会
 - 2月 第一例会 「だから部下がついてこない！」
～できるリーダーになるための条件～嶋津良智氏
 - 3月 第一例会 「明日から使えるメディア活用術&大名刺交換会」
～元フジテレビアナウンサーから学ぶ情報発信のコツ～
福井謙一氏、雨宮和弘氏
 - 4月 第一例会 「Positive Change !!」
～自分が変わればまちが変わる～鈴木啓之氏
 - 5月 第一合同例会 (若葉まつり) リサイクルクリーン事業
～レッツゴミニケーション～
「相模原市民若葉まつり」～リニアに挑戦！電車ゴッコ世界大会～
 - 5月 第二例会 『第6回さがみ風っ子トレイルランニング』
 - 6月 第一例会 理事長候補者選挙
 - 6月 第二例会 創立50周年記念式典
 - 7月 第一例会 サマーコンファレンス 2015
～イノベーションしにイクベーション～
 - 8月 第一例会 (理事選挙)
 - 9月 第一例会 神奈川ブロック大会相模原大会
 - 10月 第一例会 市長例会～夢あふれる相模原の創造をめざして～
 - 11月 第一例会 卒業例会
 - 12月 第一例会 (定期総会)
- 〈事業〉
- 3月 LOM 事業 公開討論会
～「夢あふれるまち」相模原を目指して～
 - 7月 LOM 事業 家族交流会
～夏だし！あったかいんだからあー～
 - 9月 LOM 事業 シビックプライド「S-1グランプリ」

社会情勢

1月5日 日本マクドナルド、青森県三沢市で販売された「チキンマックナゲット」にビニール片のような異物が混入していたことを公表、問題のナゲットと同じタイの工場と同じ日につくったナゲットの販売を取りやめ。

3月29日 圏央道 城山地域に相模原ICが完成。

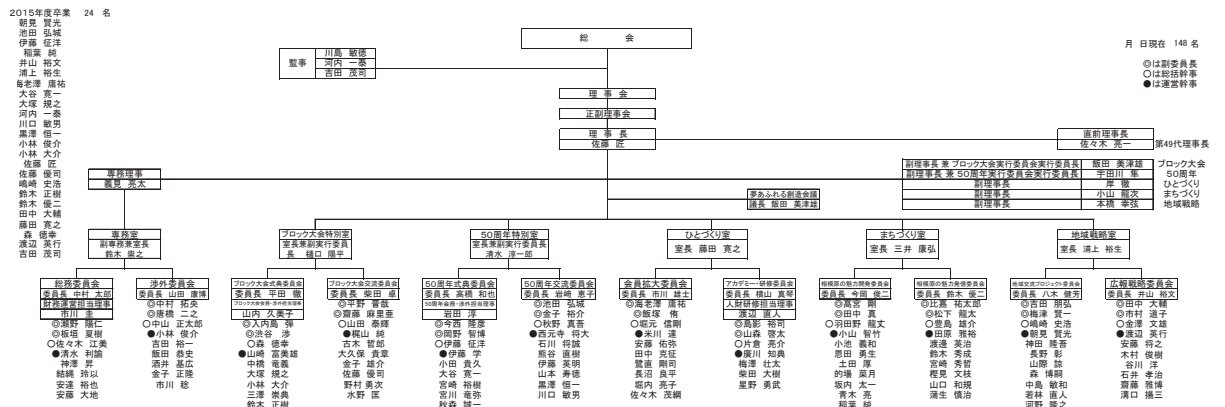
8月14日 安倍晋三が首相官邸で第二次世界大戦終結70年を迎えるに当たっての『安倍内閣総理大臣談話』を閣議決定の上、記者会見を開いて発表した。

9月19日 参院本会議において安全保障関連法案(集团的自衛権の限定的な行使容認を含む安全保障関連法案)の採決が行われ、自民・公明の与党ならびに、元気・次世代・改革の野党3党の賛成多数により可決成。

ラグビーの日本代表は2015年ワールドカップイングランド大会、1次リーグB組初戦で過去2回の優勝を誇る強豪・南アフリカに34-32で逆転勝ち。歴史的勝利を取めた。

10月6日 TPP(環太平洋経済連携協定)が大筋で合意される。

組織図





1 年を振り返って思い出すのは、何と言っても「50 周年とブロック大会」の開催であると佐藤理事長は語る。誇るべき、そして全てに感謝すべき 50 周年と、最大の発信の機会であるブロック大会が同時に開かれるというのは、相模原 JC という LOM にとってかつてない事態であった。

佐藤理事長は 50 周年特別室とブロック大会特別室という 2 つの室を設けるとともに、実行委員会を立ち上げて LOM をまとめあげ、一大事業を構築した。

50 周年式典等を経て

50 周年記念講演会では 1200 名を動員し、式典・交流会では多くの関係諸団体が出席。ビジョンの共有と意識の統一、今後の方針の発信を行った。50 年を総括する節目として、LOM にとっても大きな契機となった。



ブロック大会を経て

ブロック大会では式典・交流会に加え、フォーラム、S-1 を同時開催。この経験をまた一段歴史に積み重ね、「更に大きな大会を実施できる LOM にしたい」と佐藤理事長。その手応えは今回確かに感じる事ができた。



出向をメンバーに体験してもらいたい

出向に力を入れているのも 2015 年度の特徴である。佐藤理事長は 2013 年度、神奈川ブロック協議会に委員長として出向しているが、当時の経験をこう語る。「ブロックに委員長として出向して、県内随所に行って、色々な LOM を見る事ができた」。その経験を会員にも体験させたいという佐藤理事長の思いが強く反映されているのである。

MISSION200 及び会員研修

そのような状況下でも拡大に対する意識に淀みはない。2015 年度は市川拡大委員長を中心に 70 名拡大という目標を掲げている。12 月理事会承認時点で 66 名の入会があり、2010 年より掲げる MISSION200 を達成、200 名 LOM の悲願を達成している。

また、佐藤理事長が 70 名拡大を目指すと共に重視したのが、会員研修の部分である。予定者段階から入念な準備をして臨んでいる。「人が増えたからこそ、ね。会員が青年会議所に入って、少しでも良かったと思えるようにね」。

メンバーへの一言

夢を持ち続けて欲しい。

創立 50 周年記念

2015年6月25日（木）

実行委員長挨拶

宇田川 隼



相模原青年会議所は、市民意識変革を掲げ、地域のリーダーたり得る人財を育成することが「明るい豊かな社会」に繋がるとの信念の下、50年間地域と共に歩んでまいりました。竹は、倒れずに天高く真っ直ぐ成長するために定期的に「節」を設けます。おかげ様で50周年記念式典は、当青年会議所の今後50年のよき礎となる「節目」になりました。

「未来を予測する最良の方法は、未来を創ることだ」（ピーター・ドラッカー）。私たちは、都市機能の発展著しいこの地域において、来るべき未来をただ待つのではなく、歴史と先輩諸氏の功績・想いをしっかりと継承し、JC同志や地域の協働団体等との関係をより一層強化し、伝統と革新を兼ね備えた新たな未来を切り拓く力強い運動を展開することを御誓い申し上げます。

式典

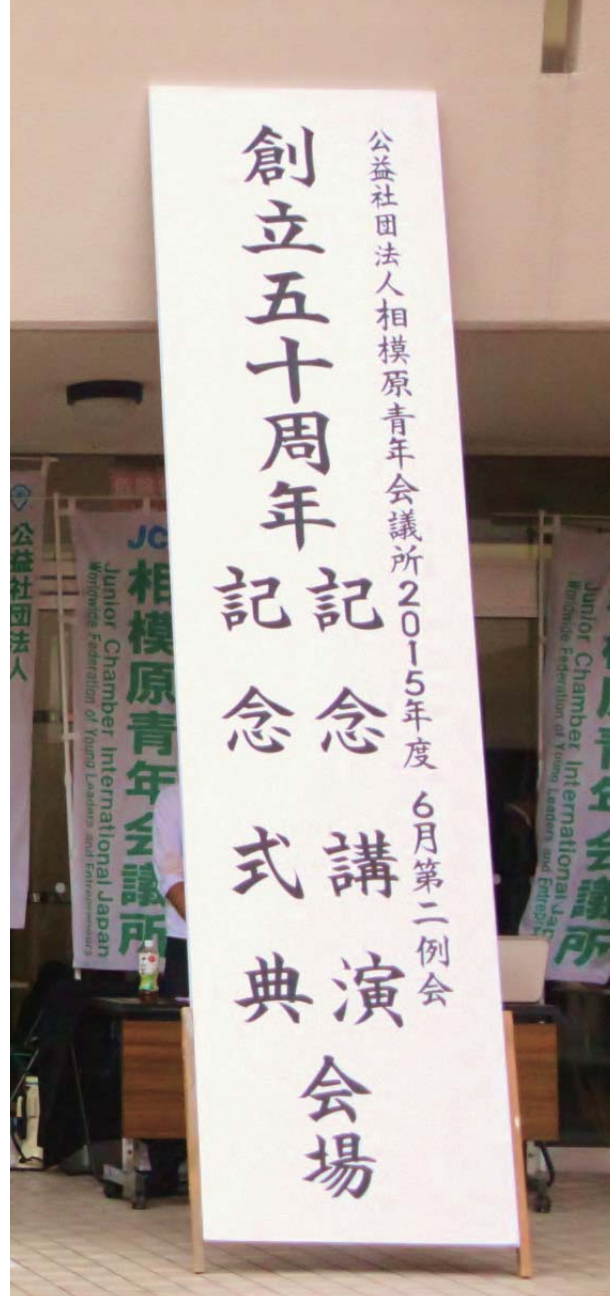
「積み重ねた歴史、未来へつなぐ」開催
相模原市民会館ホール



50年前に相模原青年会議所が発足した地での式典には、関係する地元地域団体や学生、国会議員や県議、市議の他、近隣JCやOBなど約400人が出席されました。黒川雅夫神奈川県副知事、田所昌訓相模原市自治会連合会長、相模原JCの歴代理事長でもある杉岡芳樹相模原商工会議所会頭に祝辞を述べて頂きました。

そのほか、歴代理事長の登壇やスポンサーLOMである川崎JCへ感謝状贈呈、そしてLOM運動指針で掲げる、「選ばれるまちさがみはら」の創造へ向けて相模原JCの10年先を見据えた運動の方向性を定めた「創立50年代LOM運動指針」を発表致しました。

「50周年の節目にあたり、このまちのJC運動をさらに力強く進めることで、ご支援を頂いた関係諸団体の方々やOBである先輩に対して、感謝の気持ちをよりいっそう伝えたい」と第50代佐藤匠理事長が挨拶をさせて頂きました。





創立50周年記念講演

石原慎太郎氏講演会

「相模原から見る日本の道しるべ
～心ふるわす行動で未来へつなぐ～」

相模原市民会館ホール



相模原市民会館ホールにおいて「相模原から見る日本の道しるべ～心ふるわす行動で未来へつなぐ」と題して講演会を開催。講師は元東京都知事であり、現在作家として活動中の石原慎太郎氏をお呼びしました。

私達が住む相模原が今後どのように変化していくのかを考える、主体的にまちに関わっていただくべく、一般市民の方も合わせて約 1,200 名の方にご来場いただきました。

石原氏は「人間の持っている財産で、一番大事なものは歴史である。地域の歴史であり、相模原の歴史であり、日本の歴史を学ぶ必要があり、世界の人間全体の歴史を学ぶべきである」。「若い人は戦争があったことさえ知らない。子供や孫たちが大きくなったとき、日本がどうなっているのか」。「歴史の背後にある矛盾を捉えていかないと目の前の解決には繋がらない。歴史を断片的に捉えるとズレが生まれてしまう。歴史をしっかりと捉え学ぶことがやはり大切である」と語りました。80分間の講演に会場が終始真剣に耳を傾けていました。講演の最後には相模原 J C の理事メンバーの登壇そして、宇田川実行委員長のお礼の言葉で



幕を閉じました。

この講演会では一般市民の方 452 名の方が真剣にアンケートに記入してくださいました。アンケートには多くの励ましの言葉や意見があり、今後の運動に役立てて参ります。



創立 50 周年祝賀会



創立 50 周年記念祝賀会は式典から場所を変えて、けやき会館にて行いました。

日頃から協働いただいている多くの皆様に 50 周年を迎える事が出来た感謝を伝えると共に、関係強化のために執り行いました。

加山俊夫市長、阿部善博市議会議員、日本 J C 森本勝也副会頭、神奈川ブロック協議会第 43 代石井紀彦会長よりご祝辞を頂きました。また、姉妹 J C

の韓国釜山海雲台 J C リ・ギョホ会長からもご祝辞と記念品を頂きました。

また祝賀会の後半ではテーマを「未来に繋げる」とし、司会を 70 周年まで在籍する 21 歳の柴田君と梅澤君に交代しました。

また、海外でも活躍している、ローラーペイントアーティストの takeshi sato 氏をお招きし、「未来の相模原」をテーマにライブペイントを行って頂きました。ライブペイントは、音楽に合わせて塗装に使うローラーを用いて、立体的な絵をスピーディに描かれます。真っ白なキャンパスに少しずつ描かれる様は、未来を創造し作り上げていく J C の運動とリンクし、創造力・スピード等、躍動感があり多くの来場者の心が震える内容となりました。

出席者は、加山俊夫市長を始め、桜まつり・トレイルランニング・外部出向先などの関係団体の皆様、歴代理事長の皆様、OB・OGの皆様、日本 J C ・関東地区・神奈川ブロック役員の皆様、神奈川県内 20 L O M 他の理事長・専務様、近年、大学生の協力を得た事業構築を行っている学生の皆様など、約 400 名にご来場を頂き、盛会に終わる事ができました。



創立 50 周年記念ロゴデザインコンセプト

50 周年を迎えるにあたってメンバーの意識統一並びに 50 周年記念の発信を主軸に、最大限の効果が得られるようにデザインをさせて頂きました。

1. 50 周年を契機として、天空へ向かい、より強く羽ばたく相模原青年会議所を、市鳥であるひばりに託して製作しております。
2. あしらわれた三色は三区のカラーを表しており、三区一体となって相模原が発展していくことを象徴しております。
3. 周りの円周及び点は、「広がり」と「広域交流拠点」としての特徴をイメージしております。また、上が途切れているように見えるのは、相模原青年会議所を囲むように輪の遠近感を持たせることにより、無限の可能性を表現しております。
4. 帯のデザインについては、円形のデザインとともに、「周年の記念」であることを表現しています。
5. 文字の外に円を置いているのは、「統一感」の演出と同時に、各種使用の際に、外側があることによって、汎用性を高めております。
6. また、使用上、どうしても出てきてしまうモノクロでの使用を考慮し、黒一色でも映えるように、文字の大きさと色合いのバランスを調整致しました。



相模原市において、相模原 JC が市民のリーダーとして巻き込んで羽ばたいていくというイメージです。

第43回神奈川ブロック大会 相模原大会

2015年9月12日、ついに相模原の地で第43回神奈川ブロック大会が開催されました。神奈川ブロック大会は、2012年に第47代理事長森正雄先輩のもと相模原JCとして誘致の決定を行い、2013年第41回の伊勢原大会で事業協定書に調印し、2014年8月の対話集会を経て開催の運びとなりました。

神奈川ブロック大会とは、公益社団法人日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会が年に1度神奈川県内において企画・開催する、神奈川ブロック協議会最大の発信事業です。この大会では、現在日本で課題となっている政治・経済・社会など、様々なジャンルで著名な講師をお招きし、フォーラムやセミナーを行うとともに、地域の魅力を発信する多様なイベントを開催しています。

大会スローガン

共に踏み出し、^{あす}未来を創ろう！

～主体的な市民の心を紡ぎ神奈川の次代を切り拓く～

LOMコンセプト

「郷土愛」～シビックプライド～

第43回神奈川ブロック大会相模原大会を主管するにあたり、お越しいただいた神奈川県内の皆様が、誰もが自分の故郷と重ね合わせ、地域の一人ひとりが神奈川への誇りや愛着を持つ「郷土愛（シビックプライド）」を醸成していただけるような地域の魅力の創出を行います。

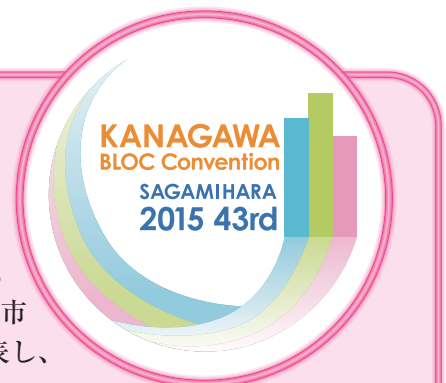
「シビックプライド」とは、都市に関係する人々（そこに住んでいたたり、働いていたたり、遊びに訪れたりする人たちが）、その都市に対して持つ「誇り」や「愛着」のことです。

都市をよりよい場所にするために、自分自身が関わっているという当事者意識に基づく自負心やプライドともいえます。相模原の地域を通して「郷土愛（シビックプライド）」を醸成し、「この神奈川のため、県内それぞれの地域のために」と、主体的にまちづくりに参画する県民を生み出す、県民参画型の開かれた大会を開催します。

大会シンボルマーク解説

「郷土愛」とさがみはらをテーマに作成された作品より選考させていただき、さがまちコンソーシアムの作品に決定いたしました。

このシンボルマークは若竹色・さくら色・青緑色と言う相模原市の3区のカラーにより表現をしています。未来に続く架け橋を表し、夢あふれるまちへの想いが込められています。



実行委員長挨拶

飯田美津雄

相模原青年会議所創立 50 周年の記念すべき年に、神奈川ブロック大会を主管させていただいたことは、いまの時代を生きる我々現役メンバーの誇りであります。この相模原大会にご参加された全ての皆様、まちに対し愛着と誇りを抱き、当事者意識を持って主体的にまちづくりに参画をする機会となれば幸いです。この先も愛する相模原が、地域市民や交流市民から「選ばれるまち」であり続けるために、主体者と地域をつなぎ、そして地域と我々が協働をする事で、地域から必要とされる青年団体として運動をしてまいります。



相模原 JC 悲願のブロック大会開催

相模原 JC では相模原の歴史と文化の発信のため、相模原の地での神奈川ブロック大会の開催が必要と考え、誘致に向けメンバー一同邁進して参りました。前述の対話集会では策定した LOM コンセプトを発信、今回のテーマである郷土愛に繋がっています。

ブロック大会誘致までの経緯

▽2010年度

相模原青年会議所の今後 10 年間の運動を見据えた「2010 年代 LOM 運動指針」を策定し、2010 年 12 月総会にて全会一致で承認。運動指針内の記述「JC の大会誘致などのツールも最大限に活かし」を基に、LOM 内の会議体にて大会誘致の検討を開始。

▽2011年度

LOM 内の会議体にて検討の結果、数年後を目標に「神奈川ブロック大会」を誘致することを決定。2011 年 12 月総会にて、「神奈川ブロック大会の誘致」を全会一致にて承認。

▽2012年度

LOM 内の会議体にて大会誘致の具体的検討を開始。会場候補地を「小田急線・相模大野駅北口周辺」に決定。2013 年度に主管 LOM 立候補することを決定。11 月例会にて 100% 出席例会を達成。

▽2013年度

第 43 回ブロック大会主管 LOM に立候補。「誘致の意義と目的」「主管 LOM にとって会員大会の位置づけ」など「立候補届け」を策定。現地調査及び対話集会を経て、第 8 回ブロック会員会議所連絡会議にて、「2015 年度神奈川ブロック大会主管 LOM」の承認。OB・現役会員にて「ブロック大会決起会」を開催。「LOM 運動指針」をもとに、「若者（特に大学生・高校生）を巻き込んだ大会」「シティーセールスをテーマにした公益 LOM 事業を開催する」としたコンセプト素案を決定。

▽2014年度

市長・商工会議所会頭・自治会連合会長らに大会開催の協力を正式に申請。LOM 内の会議体にて、主管 LOM コンセプト・テーマを策定。OB・現役会員にて 2 回目となる「ブロック大会決起会」を開催。若者を巻き込んだ大会とすべく、例会として 8 月に「ハイスクール・カレッジ議会」を開催、学生の意見を集約。行政を通じ、開催候補地との打ち合わせ使用許諾。PR グッズ（映像・PR ベスト、横断幕）を制作。2015 年度ブロック大会実行委員長の選任。主管 LOM コンセプト・テーマを 12 月総会にて承認。

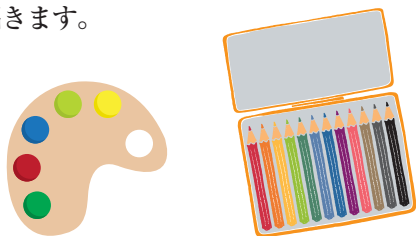
さがみ風っ子絵画展

小学校の児童に「未来のさがみはら」をテーマに絵を描いていただきました。相模大野コリドー通り展示し大会に花を添え、商店会や市民・来場者からご好評いただきました。

応募した児童に2027年リニア開通の年に自分の描いた絵と未来の自分に向けた手紙が届きます。



<最優秀賞>



<理事長賞>



<展示>



<女子美ワクワク賞>



<シビックプライド賞>



<夢あふれてるで賞>

21 LOM キャラバンや広報活動

年始の京都会議ブロックナイトから始まり、県内21会員会議所の例会、会場となる相模大野駅周辺にて9ヶ月間広報活動を行ってまいりました。

皆様のご協力のおかげをもちまして1,435名という近年で最大の登録数になりました。



大会式典

神奈川ブロック協議会と県内21会員会議所の運動意義や絆、そして今大会まで紡いできた歴史を、大会式典を通して会長メインスピーチや映像によりメンバーに向けて明確に今年度の運動を発信し伝播することができました。メンバーの今後のJC運動に活かせるような意識の高揚を図る事が出来ました。



<ブロック大会初の国家独唱>



<木杯引継式>



<県内21会員会議所理事長登壇>

大会フォーラム

大会フォーラムは、人と人とのつながりの必要性、地域の大人としての役割、家族の関係、ひいては地域コミュニティの大切さを再認識していただく「地域共生フォーラム」や、地域市民と共に当事者意識を持ち、共創し合い、気概を持って行動する意識変革の契機を目的とした「未来創造フォーラム」、地方創生に関する知識の向上と当事者意識の向上を目的とした「地方創生フォーラム」等が大盛況のうちに終了いたしました。



有限会社子どもの学び館
代表取締役 福永 宅司 氏



神奈川県知事
黒岩 祐治 氏



東京都知事
舩添 要一 氏



相模原商工会議所
会頭 杉岡 芳樹 氏

未来へつなぐプロジェクト～音楽のちから～

東日本大震災という未曾有の悲劇の風化を防ぐべく、音楽に乗せて語り継いでいく「未来へつなぐプロジェクト～音楽のちから～」事業を開催しました。合唱を担当したのは独自の被災地復興支援を行う弥栄高校合唱部。被災地に対する共通する思いを胸に、県内21会員会議所メンバーや相模原市民に向けて熱唱しました。



交流会

交流会は、同日開催した S-1 グランプリの会場である、相模大野中央公園にて開催致しました。県内 21 会員会議所のメンバー達に、この相模原の地にて神奈川ブロック大会を開催する機会を得たこと、そして日頃の協働に対する感謝を伝えるとともに、県内 21 会員会議所の一層の団結を図るために、公園内をフェンスで区切った特設会場を設営。S-1 グランプリ参加出店者にも引き続いて参加頂き、相模原の食の多様性を堪能して頂きました。



協力店舗

パブ21世紀・清勝丸・トラットリア・メルカート・萬福・グルメンキッチンカー・キムチハウス・野楽・燦餐・旭屋・梵蔵・丸十ムラタパン・相模原中央商店街（協）・煙人・笑うかど庭・馬鳥屋・炭火焼肉ぐんそう・焼肉居酒屋Zutto・タイ料理エバン・アジアンダイニング龍・らぁ麵食堂吉凜・泰平堂製菓舗・せき製麺
(順不同)

特設ステージでの各種アトラクション

21 会員会議所メンバーの意識を統一、より心に響かせる演出をするため、会場中央に特設ステージを設置。まずは市内に高校 19 校、大学 7 校を有する「学園都市・相模原」の魅力を余すことなく伝えるため、国際的に活躍する光明学園相模原高校の和太鼓部の学生たちの協力を得て、圧巻の和太鼓パフォーマンスを披露。オープニングに華を添えて頂きました。

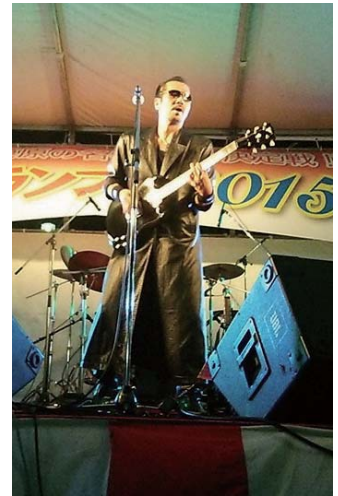


スペシャルゲスト



<キンモクセイ>

特設ステージでは一世を風靡した名曲「二人のアカボシ」を中心に、相模原の生んだスター、キンモクセイが熱演。鳴り止まないアンコールの声に包まれる中、続いてはシークレットライブとして横浜銀蠅が圧巻のステージを演出。県内 21 会員会議所メンバーに連帯感と郷土愛を体感して頂きました。



<横浜銀蠅>

キャンドルナイト・相模原ハイタッチ



交流会の閉会後には、明日へ向かう会員会議所メンバーたちの未来を照らすべく、相模原 JC メンバーが感謝の思いを込めた手作りのキャンドルを歩道に配置。幻想的な雰囲気 연출するとともに、おもてなしの心を伝えるべく、相模原 JC メンバーが二列になって形作る両腕の輪の中を通過して頂きました。



事前登録人数：1047名

当日参加した人数：618名

主催：公益社団法人 日本青年会議所関東地区神奈川ブロック協議会

主管：公益社団法人 相模原青年会議所

協力：コカコーラ セントラルジャパン 株式会社





桜まつり

～市とともにまつりを立ち上げ～

約1.5kmにわたって、ソメイヨシノの街路樹が一直線に延びる相模原市役所通り。その歴史は、戦後間もなく行われた区画整理から始まる。幾十年の時を経て、市内随一の桜の名所となったこの地で、毎年4月に市民参画型の祭りが行われる。それこそが市内外から44万人以上の人が訪れる、市内最大規模の市民祭り、相模原市が誇る「桜まつり」である。

相模原JCは、この桜まつりに第1回から深く関わってきた。今でこそ誰もが知る市民手づ

くりの一大祭りとして定着してきたが、その裏方として重要な役割を担ってきたのが相模原JCである。相模原JCの歴史は、桜まつりとともに紡がれたものと言っても過言ではない。相模原JCの最大規模の継続事業としてその軸を担い、市商業観光課からは「祭りの成功、不成功を左右する大きな存在」との評価を受けるほどである。その功績は、時を重ねるごとに確かなものとなってきたと言える。市民で構成する実行委員会（委員長・館盛市長（当時））の主

カメンバーとして企画、運営、協賛金集めなどに奔走した初回から現在に至るまで、その歴史を紐解いていくこととしよう。

桜まつりへの協力。その幕開けは1973年に
行われた事業、模擬市議会が発端である。模擬市議会は装いも新たとなった市議会議場にて、JCメンバーが議員、各会派代表が市側との設定で行われた。そこでJCメンバーは、基地問題をはじめ公害、教育、商工、社会福祉など市政の各分野へ意見を寄せた。これがJCの力量を示すことになり、河津勝前市長から「第1回市民桜まつり」への協力を要請されるきっかけとなったの。

翌年は、川合貞義理事長を筆頭に、4月6、7日の祭り本番に向けてJCを挙げて準備に取り組むことになった。初日は花冷えの影響が懸念さ

れたものの、2日目は晴天に恵まれ見事に開花。述べ19万人の市民に楽しめる催しとなった。

その翌年の1975年は、統一地方選により開催時期が一ヶ月繰り延べとなったが、5月に「市民若葉まつり」と名を変えて開かれた。以降恒例となった若葉祭りが芽吹いたのが、まさにこの年なのである。

1976年は、総勢400人の市民代表の参加を得て、仮装パレードやゴミキャンペーン（ゴミを拾いながら歩く）で新味を出している。現在ではゴミ分別の実行委員会ができていますが、第3回から同じ問題意識が持たれたということであろう。市長を委員長とし、市民で構成する実行委員会において、歴代理事長が重要な役割を担う様になったのもその頃から。

～観光親善大使に発展したミスさがみはら～

ミスさがみはら三人を誕生させたのが1988年。市民桜まつりのパレードで、華やかにデビューした。数年前から話はあったようである。募集した当初は、まったく反応がなく心配されたが、締め切り間近になって応募が殺到し、100人を超えた。ミス3人と一緒に東京のデパートに行きユニホームを決めたりした。

「ミス・コン批評」を考慮し、審査方法にも工夫を凝らした。応募動機や市政への関心、心構えをポイントとする書類選考と、自然体での受け答えをチェックする面接審査の二本立て。容姿、容ぼうにとらわれず「健康で明るい女性」を選考するに至った。

ミスさがみはらは各種イベント、交通安全や環境キャンペーン、一日税務署長など年20回ほど出動する。これらにJCメンバーが帯同し、采配をふるう機会も少なくない。パレードだけでなく周辺施設を巻き込み、市民団体の活動発表や子供たちが楽しく遊べる催しの企画。市役所通りの線から、面の広がりを持ってきた市民桜まつり。

当初と比べ、いろいろな団体が運営に携わるようになってきた。が、そのリーダーとなるJCの役割は今も昔も変わらない。このミスさがみはらが現在相模原市観光親善大使として姿を変え、発展している。その経緯から現在も選考審査員として相模原JCから多くのメンバーが外部出向を行っている。



～ギネスに挑戦！人間空気イス～

以降、時代の流れに沿って、様々なアイデアと共に桜まつりは引き継がれていった。2004年には、市民桜まつりメイン会場となる相模原市役所前で、大人数が列になって後ろの人のひざに腰掛け、その長さを競うイベント「人間空気イス」が行われた。雨の中、小学生から60歳を超える花見客まで854人が参加。楕円形に約250mの列を作り、かけ声とともに一斉に腰を下ろした。「チャレンジ・ザ・ギネス」と銘打ち、1,405人の世界記録の更新を狙ったが、雨脚が強まったことで参加人数が伸びず、練習なしのぶっつけ本番となった。「空気イス」は目標の2分間を達成する直前に崩れてしまったが、参加者はびしょぬれになりながらも笑顔で声をかけあっていた。

大成功と言えるこのイベントは、その翌年「リベンジ・ザ・ギネス 目指せ！2,005人の空気椅子」と銘打って同様に行われ、1,454名もの参加者が、空気イスの列をなした。それ以

降の2006、2009年にも開催された同イベントは、人気を博した。この時期、人間空気イスは市民桜まつりの目玉として祭りを大いに盛り上げた。JCメンバーが告知のポスター掲示を地域商店などをお願いすると、「またやるのか！失敗してばかりいるのに。」と小気味よい声をかけられることも。市民に親しまれるイベントになるまで成長したことを肌で感じることでできる瞬間だと言えただろう。



～日本一！宙に浮く巨大鯉のぼり～

2007年には、全長20mの巨大鯉のぼりプロジェクト「フライング・ドットィ・プロジェクト」を開催。日本で初めてヘリウムガス風船800個を用いて宙に浮かせることにも成功。日本一ネットにも掲載された。相模川への寄贈を試みたが、あまりにサイズが大きく、川に着面

してしまうため実行されず。しかし、金沢動物園から要請があり、無事寄贈することとなった。相模原JCが手作りし、巨大ゆえに寄贈先が決まらなかった体長20mの鯉のぼりは、今でもメンバーの語り草となっている。

～ごみ分別の意識を市民に広げる～



こうした桜まつりの歴史の中には、相模原JCが重視してきた「環境」への思いが込められている。実際のゴミの分別や市民への啓蒙活動などを継続して行ってきた結果、2009年にはエコかっこいい相模原としてキャンペーンを展開するに至った。また、次年度以降も「ごみ分別リサイクル事業」として、ごみ分別ブースを設けて分別指導したり、割りばしを再利用したり、リユース食器を勧めたりもした。

2013年には、実行委員会を設立し毎年100人前後のボランティアを集める組織となった。ボランティアには高校生、大学生スポーツ団体、市民などが名を連ねる。現在ではごみ分別を通じたコミュニティの形成をかせげ、相模原市民のごみ分別意識向上に寄与している。

～東日本大震災復興支援～

2011年3月11日。「東日本大震災」との関わりを綴ろう。この時、日本中の国民が震災・津波の恐ろしさ、そして起こった多くの不幸をまざまざと見せつけられた。政府としてもこれを重く受け止め、国内では業種の如何に関わらず、多くの祭りやイベントを自粛することとなった。無論相模原市においても、若葉まつりは自粛することとした。そのような中、相模原JCは被災地への支援のためには、自粛よりも「動くことにこそ意味があると信じ、またこんな時だからこそ市民のよりどころとなる祭りを開催すべきとの思いから、淵野辺公園（芝生広場）にて「頑張ろうNIPPON! 優しさまつり」を開催した。コインアートを採用し、市民に被



災地支援を意識してもらうとともに、募金活動へも繋げる考えであった。この試みは震災の風化を防ぐべく、次年度より市民桜まつりへと活動場所を移行し、3年間にわたり継続され、復興支援に貢献した。

～マスメディアを通じて相模原を全国に発信!!～

日本に活気が戻り始めた2014年、桜まつりにおいて多くの団体との協働し、相模原を発信することを目的とした「恋するフォーチュンクッキー」を実施。女性アイドルグループAKB48の楽曲である。キャッチコピーは「“恋チュン”踊れば、嫌なことも忘れられる」。そこに込められた前向きな意思の下、天候に恵まれぬ中にもかかわらず約2,000人の市民が集まり、恋チュンを踊った。「2000人フォーチュンクッキー」は市民桜まつりの盛り上がるの象徴となった。

2015年には、子供たちを中心とした「電車ゴッコ世界大会」を開催。これは2027年に開通予定のリニア中央新幹線の新駅が、橋本駅周辺（神奈川県相模原市緑区）に決定したことを受けてのもの。日本を代表する電車・世界を代表する電車が、リニアが誇るあらゆる性能に挑戦し、「世界一となる電車を目指す世界大会」とした。広告費予算0円でテレビ朝日、日本経済新聞、YAHOO!トップニュースなど19のマスメディアに取り上げられ相模原市を全国に発信する機会となり、相模原JCの発信という点でも成果を上げた。

初年から現在までの軌跡があらわしているように、青年会議所の運動の特徴は、常に経験をフィードバックして、新たな運動へと繋げていく点にある。2014年度には培ったJCの力を結集し、秋の大市民まつりを開催。初回のまつりでは55,000人の参加という驚異的な成果を残した。これが50周年において行われるS-1グランプリへとつながっていく。

桜まつりへの協力要請のきっかけとなった模擬市議会や、大和JC創立時におけるスポンサー資格獲得の要因となった関東地区協議会開発優秀賞など、桜まつりは相模原JCにとって共に成長を遂げた運命共同体といっても過言ではない。桜まつりは現在も進化している。同じく進化する青年会議所がこれからどのように桜まつりに向き合い、発展させていくか。次代へよりよいまちを受け渡す。時に先人たちの歩みに目を向けることで、見える未来もある。この軌跡は、相模原を想い、挑み続けた功績でもあるのである。

日本ボーイスカウト神奈川連盟

県央地区 相模原第7団

ボーイスカウトとは

スカウトとは「先駆者」のことでボーイスカウトとは「自ら率先して幸福な人生を切り開き、社会の発展の先頭に立とうとする少年」のことである。具体的には、身体を実際に動かし、形に囚われない戸外活動を通じて心身ともに健全な青少年の育成と教育を目的とする団体である。

相模原JCと第7団

中でも相模原JCと深い関係にあるのが、日本ボーイスカウト神奈川連盟県央地区相模原第7団(以下「第7団」という)である。第7団は昭和47年に、相模原JCの第7代理事長であった宮崎昇が青少年育成事業の一環として、結団、育成を手掛けた。当時ボーイスカウト県連副理事長であった伊藤茂の指導があったのもひとつの要因であった。



昭和47年5月発団式典
於：相模原青年会館

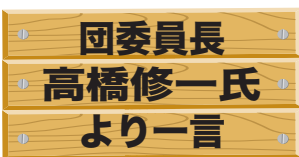
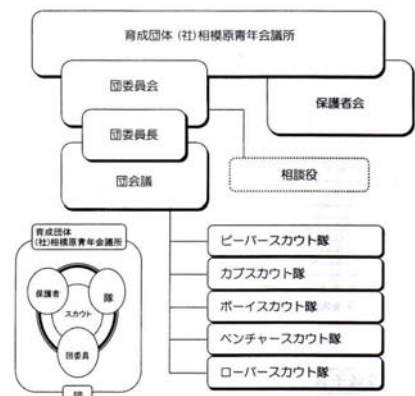


結 団までの経緯と現在

昭和47年2月に育成会総会を開催し、日本ボーイスカウトへの加盟審査を経て、5月3日の県立相模原青少年会館にて発団式を迎えることとなった。このような経緯があつて、育成会の会長は代々相模原JCの歴代理事長が就任している。現在では県下有数の活動的なボーイスカウトと言われている。

相模原JCの活動と第7団

現在相模原JCが行っているさがみ風っ子トレイルランニングにおいても、第7団には献身的な協力をして頂いている。ただ、通常の連携・協働と言うよりは、「あくまで育成団体である相模原JCへの恩返しと考えている」というお言葉を頂いている。コミットの形態は数あれど、これからのより密接な関係・運動が期待される。



昭和47年5月に発団し、お陰様を持ちまして今年で43年目を迎えました。スカウト数100名を超えるアットホームな団となり、堅実をモットーに、「団は家族」「継続は力」をスローガンとして今後も団内融和をテーマに相模原第7団のさらなる発展を目指してまいります。



さがみはら S-1グランプリ



相模原JCでは、地域を発展させ、より良いまちを目指すため、様々な事業に取り組んでいる。その一つが、相模原の名物をテーマに行われたS-1グランプリである。

2014年9月、淵野辺公園にて相模原の周知・発信、そして永遠のテーマである相模原の名物を誕生させるべく「秋の大市民祭り」が開催された。伝統芸能から学生サークル、そして地域活動団体までが出演するステージ企画と盛り沢山の企画であったが、その目玉イベントこそ「これぞ相模原！」という相模原の名物を決定するべく行われた「S-1グランプリ」と、市内各地域から自慢のお店が一堂に会した「地元メシサミット」である。

当日は初開催の祭りとしては驚異的な5万5千人の市民が参加し、大盛況にて幕を閉じた。

2015年9月には継続事業としてS-1グランプリが神奈川ブロック大会当日に開催された。昨年度とは場所を変えて、相模大野駅からほど近い中央公園にて開催され、昨年度に続いて市民とJCを結びつける役割を果たした。特に最大の発信の場の一つである神奈川ブロック大会と一体となって行われたことにより、市民のみならず神奈川県内20LOMにも、相模原の魅力を存分に体験して頂くことができたと言えよう。



女性会員座談会

女性メンバーの 声

近年、社会における女性の活躍の機会が広がり、青年会議所運動を行う中でも女性メンバーのより積極的な参画が求められている。本年相模原 JC では3人の女性が理事を務めており、次年度では佐々木江美君が相模原 JC 初の女性専務理事を務める予定である。50周年を機により一層女性の参画を広げるため、座談会を行い入会のきっかけや要望等、過去から現在までの女性メンバーの意見を幅広く頂いた。(インタビュー：岩崎恵子)

山際華代子先輩(1988年入会) 大貫弘子先輩(1990年入会) 高橋珠美先輩(2001年入会) 佐々木江美君(2012年入会)



性メンバーは居なかったと思います。唯一横浜 JC には大勢居ました。ブロック出向の際はいつも女性同士で固まっていたいました。」

それでは、皆様のお名前とお仕事、入会年度、在籍年数、入会時の女性在籍人数を教えてください。

山 際 「山際華代子です。入会年度は覚えていませんが、在籍年数は10年、仕事はクラシック・バレエの教室です。入会時の女性メンバーは私1人ですが、10年くらい前に山根先輩がいらしたそうです。私が入った頃は完全な男性社会の時代でした。当時日本 JC、関東地区、神奈川ブロック等で、「入会した女性メンバーをフォローしよう」という動きがありましたね。当時会頭はモアーズの岡田社長で、神奈川ブロックでは月に1回、横浜モアーズのバンケットでお食事などもありました。ちょうどその時 ASPAC 横浜大会があり、女性は着物で海外の方へおもてなしをしました。子育ての間はスリープしましたが、その後ブロックに5年くらい出向。ブロックはとっても楽しかったです。最終年度は私もブロックの副委員長をやらせて頂いて卒業となりました。結婚、出産後の入会でしたので、出産祝いも頂けず、男性の方達は産んでないのに貰っていて、いいなと思いましたね。(笑)」

高 橋 「当時、近隣 LOM に女性メンバーは居なかったのですか？」

山 際 「伊勢原 JC、藤沢 JC、鎌倉 JC も女

**山際先輩ありがとうございました。
続きまして大貫先輩お願いします。**

大 貫 「大貫弘子です。仕事は橋本で化粧品屋です。在籍年数は15年、入会時の女性メンバーは山際先輩と平賀さん。しばらく3人でした。当時女性メンバーは入ってもすぐに結婚出産で辞めてしまいました。初めは、右も左もわからなくて、とりあえず出てれば良いと聞き、男性社会だから、常に女性メンバーは固まってお茶ばかりしていましたね。バブルの時代で今とは全く雰囲気も違う感じですね。景気の良い話ばかり聞きました。」

山 際 「京都会議の会費なんて当時は20万でしたよ！」

佐々木 「高額ですよ。何の費用ですか？」

山際先輩 「短い距離もグリーン車でツインの都ホテルにシングルユース、私はこんなお部屋じゃなくても良いのですが、懇親会も何から何まで出して貰える。」

大 貫 「とにかくお金の時代で毎年かならず LOM の総会は宿泊で箱根の富士屋ホテル。理事長のバッジ交換も12月31日に宮崎先輩の所に集まって、除夜の鐘を聞きながら行いました。そんな中で、理事を勢いで受け最初に担当した



のが桜まつり、その翌年が会員大会（現ブロック大会）、どちらも事業系だったので、とても忙しかったです。その後、財務担当から室長、副理事長をやって卒業しましたね。」

**大貫先輩ありがとうございました。
続きまして高橋先輩お願いします。**

高 橋 「高橋珠美です。仕事は旦那さんの測量会社を手伝っています。入会は伊藤先輩が理事長だった年度です。ローターアクトという相模原ロータリーが提唱する、若い人たちの異業種交流会みたいな会に入っていたので、歌やセレモニーに抵抗はありませんでした。ロータリーにもJC出身の人がいっぱいいて。当時は父の不動産業のお手伝いをしていて同世代がいなかったの、色んな人と知り合う事がとても新鮮でした。在籍年数は10年、入会時の女性メンバーは大貫さん、平賀さん、高田さん、井口さん、同期に柴田裕美ちゃんがいました。JC歴は最初の年は鈴木高広さんが委員長をしていた青少年委員会。裕美ちゃんがいた委員会に入って、すごく楽しかったです。キャンプの達人みたいな研究に行っ、子ども達を喜ばせる一日体験イベントをしたり。翌年はブロックの運営委員会に出向しました。運営委員会の出向人数も結構な人数がいました。議事録を取ったりしていましたが、当時はまだ女性が大事にされていました（笑）。悪口とかもなく、後ろに座っていて、終わった後、懇親会とかも美味しい食事を頂きました。議事録はちょっと大変でしたが、何かと優しくしても



らっていました。その翌年に青少年系の委員長を、大貫副理事長のもとでやりました。城山の現在トレイルランニングをやっているコースで、自然の中を歩くスタンプラリーみたいなものを企画したんだけど、台風で野外では中止になりました。しかし体育館で子ども達とふれあい、とてもいい思い出が残っています。」

**城山のコースはその事業があったから
トレイルランニングが始まったんですね。**

**高橋先輩ありがとうございます。続き
まして、佐々木江美君お願いします。**

佐々木 「佐々木江美と申します。仕事は橋本で血液や食中毒など医療関係の検査会社をしています。入会年度は2012年で、入会時の女性メンバーは岩崎さんのみでした。JC歴は4年目で、最近の相模原JCはアカデミー委員会と言うのが入会年度にありまして、初年度はアカデミー委員会、2年目は拡大委員会の幹事をしながら日本に出向させて頂き、拡大委員会の委員として全国で楽しんでいました。次の年が50周年準備委員会で初の理事を務めさせて頂きました。本年度も日本に出向させて頂いて、地域再興会議で会計幹事をしております。とても短い経歴ですが、宜しくお願い致します。ちなみに、本年女性会員は14名。正会員は約200名ですから、全体の1割弱まで増加しています。

皆様のJCに入った理由とその決め手になったものを教えてください。それではまず山際先輩お願いします。

山 際 「私たちの頃は有無を言わずに入会させられちゃったというか。迎えにきちゃったんですね。」

山際先輩の入会は御主人が薦められたのですか？

山 際 「私の母が会社経営をしていたのです



が、女性のためロータリークラブへ入れなかったんです。そんな中 JC は女性も歓迎という話を聞いたのと、懇意にしている方が、JC の事を教えてくれ、誘われて入会しました。私は玉川学園生だったので、国歌には慣れていたんですけど、綱領など聞いた時は何の団体なのかと思いました。女性が多い仕事なので、経営にあたり、男性の意見もわかる人間になりたい思いました。」

大 貴 「きっかけは歴代理事長の永瀬さんが近所だったので、勢いよく誘われました。今日の何時に迎えに行くからって言われて。どこに行くのかも知らなくて普段着で行ったら、みんながスーツを着て国家を歌っていて、びっくりしました。私は名刺も持たず、けれど皆さんからは次々と名刺を頂いて。恐縮するというより恥ずかしいほうが多かったですね。山際さんと平賀さんがいて、すごく良くしてくれて。よくわからないけど、とりあえずいいやって感じで入りましたね。」

佐々木 「私も同じか、似てるような…」

大 貴 「とりあえず出て嫌だったら辞めればいよって言われて、こんなに大げさだと思わなくて、じゃあとりあえず入ってみようかなって軽い感じでしたね。」

ゲストで来て、断った方はいなかったのですか？

大 貴 「いっぱいいましたよ。私が入った当時は拡大に力を入れていたので、1年を通して27人入会して、女性も結構入っていました。今みたいに携帯もなくて会社に常に電話がかかってきたり、女性2人からも電話を頂き先輩から電話をもらった時点で断れない感じでしたね。」

次に高橋先輩お願いします。

高 橋 「JCメンバーに知り合いの方も多く、決め手は、大貴先輩にすごく良くしてもらい、優しくして頂いて、断れない感じで入会しました。」



次に佐々木君をお願いします。

佐々木 「私は江成さんに誘われた例会が「返事は0.2秒で」。で、0.2秒で決めました。でも小池先輩のお話とかも良かったので。」

2014年度は女性拡大担当理事を設け、女性拡大に注力しました。現在は女性メンバーが14名、来年は佐々木君が相模原JC初の女性専務。その他に女性理事が3人いて、活発に動いています。未来へ向けて、女性が活躍しやすい環境についてご意見を頂きたいと思います。例に挙げますと、東京JCは出産した翌年は年会費無しとのことです。相模原JCは休会中でも会費が発生するため、理事までやってくれたメンバーが出産により、退会をせざるを得ないことがありました。女性メンバーを増やすなら規定を変更して、出産・育児の休会中は会費が発生しないようにするなど配慮が必要といえます。

佐々木 「私はJCルームにお手洗いが欲しいです。前に理事やっていた時に感じたのが、会議が長いですよ。理事会が3時4時まで長引くこともある中、22時になると商工会議所のお手洗いが閉まっちゃって、コンビニまで行かなきゃいけない。男性陣はいいかもしれませんが、女性は生理もあります。1時間に1回休憩がないと大変ですよ。本当に辛い思いをしました。そういった点を考慮しないと、到底他の女性陣に理事をお勧めしづらいです。会の回数を増やして、増やす分だけ夜を早く終わるとか。そういった対策とか



を提案しています。]

大 貴 「私の時は女性理事がいなかったので、「議題終わって0時になったら帰っていいよ」って。気を使って頂いていて、日を跨ぐことは無かったです。ペーパーレスになって、どんどん資料が添付しやすくなり量が増えたのと、見直しがいづらくなっちゃって、ペーパーレスの問題点だなと思いました。ぱっぱと確認ができない上、どうでもいいところで時間がかかったり、問題がそれてしまったり。」

見るだけでも時間かかるし。本年は夜が明けてしまう委員会もありました。

山 際 「どんどん長くなっていくよね。理事会の翌日はみんな寝ないで次の日仕事なのね。」

大 貴 「その辺をきちんとするのも大事だと思うよ。お手洗いの事とかもそうだけど、そもそもの所に時間をかけない仕組みを作った方が良いよ。」

佐々木 「議案審査会議は誤字脱字をチェックするのですが、内容を審査するのは理事会なので。次年度は調整していきます。」

山 際 「今じゃ女性がいるのが当たり前だからね。私たちの頃はコンビニとか無いから22時までには商工会議所の部屋に行くし、ペットボトルとか無かったから飲めないし。」

大 貴 「まず飲み食いのはしてないのと、禁煙じゃなかったから。私は何年間も訴え続けて、議題で出したりしたけど却下された。1回じゃ通らなかったけど、何となく世の中が禁煙ブームになったら当たり前のように禁煙になって。今は女性がいて当然だから、気が付いたら提案していけば意見が響きやすいと思う。」

佐々木 「以前先輩が言っていたのですが、理事会や例会の開始は19時20時。育児真っ盛り人にはまず外出できない時間です。男性は良いかもしれないけど、女性は子供を置いて夜外出するのは本当に大変。そんなJCでは当たり前のことが女性には大きな障害になることもあることを知って欲しいです。」

お手洗い、正副・理事会を0時前に終わらせる等、女性の声を挙げないといけませんね。最後に、何か一言あればお願いします。

高 橋 「当時は携帯がないのでポケベルで連絡を取って、誰かの会社や家に押しかけて委員会をやらせてもらったりしましたね。電話も繋がらないから大変でしたが、会社の方にもやっていることを分かってもらえるし。今は便利だけど、ちょっと関係が希薄になっている事も有るのかも知れない。」

佐々木 「現在、メンバーの大半は歴が短いので伝統、歴史を継承できる人が少ないので女性メンバーも連携を強固にしていきたいですね。」

大 貴 「一番大切な事は、昔と変わらず、女性拡大ですね。減らしてはダメです。」

佐々木 「女性は、男性ばかりの団体には入りづらいもの。女性が一定の数がいれば、組織としても整備されていないと中々入会はしてくれません。また、企業では女性ならではの視点で大きく事業が成功したり、発展しているケースは多く見られます。JCも、より高みを目指すためには、女性の発想を多く取り入れることが必要ですね。人と人の繋がりは手間をかけても大切にしたいですね。」

以前のJCの体制に戻していくのも有りなのかも知れませんね。昔は女性メンバーが少なかったですが、山際先輩たちが現在の女性JCバッジを発売してくれた様に、現役の女性メンバーも多く理事になってもらい、後世に伝えられる「モノ」を創ってほしいですね。その為にはまず私たち現役の女性理事が主張、発言して理事会や事業等自体が女性でも出席しやすくなったり、参加しやすい環境を作ることも必要ですね。では、皆様貴重なご意見ありがとうございました。

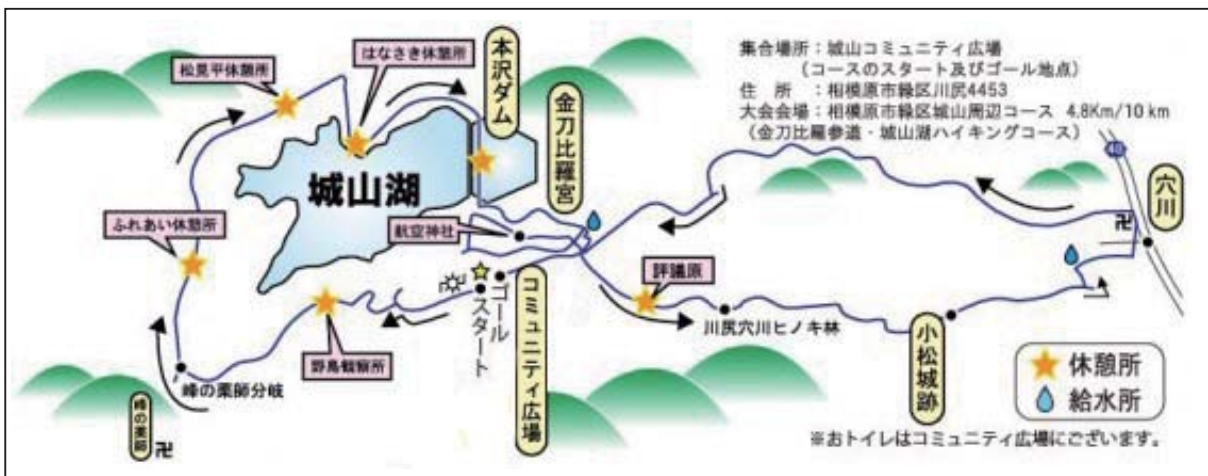


さがみ風っ子 トレイルランニング



1. さがみ風っ子トレイルランニングとは

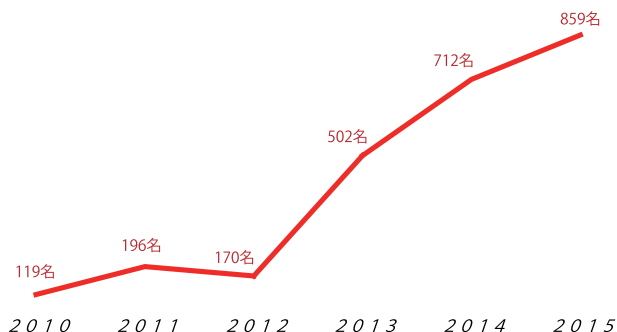
相模原JCはこの50年間、より良いまちの発展を目指して様々な事業を行ってきたが、その中でも継続事業として6年に渡り精力を注いできたのが城山湖畔を縦横無尽に走り回る親子参画事業、人呼んで「さがみ風っ子トレイルランニング」である。「相模原の魅力を発信、体感してもらうために、緑区に広がるこの雄大な自然をどうにか活かすことができるか」また、「相模原の名物となるような一大スポーツイベントができるか」という思いが発端となった。



2. 発展の軌跡

(1) 規模の増大

右図のとおり、開催当初は119人であった参加者は第6回では859人と7倍にまで増加している。また主催者側も、当初は相模原JCメンバーだけであったのが、第6回では、ボーイスカウト第7団、法政大学、桜美林大学、北里大学病院、赤十字、NPO法人日本電気治療協会など様々な団体との協働を経て、ボランティア総勢129人に膨らんでいる。



(2) 毎回特徴ある設えを

～第3回～ 相模原の自然と名産品をアピール

第3回ではシティセールスをより深く追求し、ランニング中に相模原市の自然・旧跡をテーマにした携帯電話での写真コンテストを開催、参加者が感じとった「さがみはら」を市民自らに発信して頂いた。また同じ日に相模原の名産品を作る大会を開催、「おこじゅ」と呼ばれる相模原のお菓子をテーマに高校生や市民団体から提案を募った。会場来場者に投票して頂き、相原高校の「さがみグリーン」がグランプリを受賞するなど、盛り上がりを見せた。また、春に行われるスポーツの大会が少ないという点に着目し、この回から時期を春期に変更、開催する運びとなった。



～第4回～ 障がい者枠の創設

政令都市となり、ついに人口70万人を突破した相模原市。継続事業であるトレイルランニングを今後相模原を代表する大事業へと成長させるべく、第4回は親子参加の枠を残しつつ、相模原市内外へとその対象を拡大、障がいを持つ方にも参加の枠を開いた。これまでの大自然と名産品を広く周知、発信するとともに、一層外部の方と連携を強め、模擬店出店等、JCの枠内だけでなく、数多くの団体・学生・ボランティアと地域一体で作り上げる事業となった。



～第5回～ 実行委員会発足!!!

過去4大会の経験と実績を重ねたこの事業を、より効果的に運営するべく、単一委員会での運営方針を改め、有志によって組織された実行委員会との共同開催という形式を採用した。また、それに伴い第一回の理念であった家族や絆という部分に立ち戻り、原点を再確認。この改革が地域との協働と言う形でさらに成長していく一因となったと言えよう。この大会を契機として、協力して頂ける団体・ボランティアが急増した。

3. 未来へ

さがみ風っ子トレイルランニングは単年度制である相模原JCにおいて、6年間に渡り引き継がれてきた継続事業である。城山を含む相模原の自然は、まだまだ多くの市民が参加できる許容量がある。また様々な事業を同時に行うことも可能であろう。実行委員会形式を更に発展させ、多くの市民に大会に関わって頂き、主体的な運営に携わる事が更に価値がある事を知って頂きたい。



日本青年会議所出向者 特別インタビュー

これまで紹介してきたように、相模原 JC は相模原市とともに発展の歴史を積み重ねたまちづくり団体である。しかし、それは何も市内の活動のみに囚われたものではない。今年度主管した神奈川ブロック大会相模原大会に象徴されるように、青年会議所運動は常に多くの同志たちとともに、地域単位や県単位、更には国家単位、世界単位で同時に展開されるものである。このように相模原 JC での運動を行うとともに日本 JC や神奈川ブロック協議会の運動に参画することを出向と表現するが、出向は更なるまちづくりの機会であるだけでなく、その学びや気づきも持ち帰ることができる貴重な経験である。

そこで相模原 JC という LOM 内での活躍に留まらず、「出向」という形で県一神奈川ブロック協議会や日本一日本 JC で多大なる功績を残した先輩諸氏の経験を承継していくべく、その声をここに残し、学びの一環とされたい。

神奈川ブロック協議会会長特別インタビュー

第 14 代神奈川ブロック協議会会長 中村 宣勝 (第 11 代理事長)

第 36 代神奈川ブロック協議会会長 伊藤 信吾 (第 37 代理事長)

第 41 代神奈川ブロック協議会会長 柴田 正隆 (第 39 代理事長)

神奈川ブロック協議会とは、公益社団法人日本青年会議所の運動や情報を神奈川エリアに発信する協議会として、神奈川県内に存在する 21 青年会議所の連絡調整を主として行う機関である。また LOM でまちづくり運動を行うのと同様に、神奈川ブロック協議会では県単位の事業も行っている。相模原 JC では 50 年の歴史の中で過去 3 度、会長を輩出している。その得難い経験をどう「LOM に持ち帰り、まちづくりへと活かす」ことができたのかを検証・継承すべく、中村歴代、伊藤歴代、柴田歴代にそれぞれインタビューを行った。

日本 JC 議長・委員長特別インタビュー

日本 JC 財政審査会議 議長 古橋 裕一 (第 43 代理事長)

日本 JC LOM 支援委員会 委員長 荒俣 大 (第 48 代理事長)

日本 JC とは、日本国内各地にある青年会議所を統括し、より効果的に運営するために設けられた総合調整機関である。全国の JAYCEE が集まる京都会議やサマーコンファレンス、全国大会などの全国規模の事業を担当するとともに、国際青年会議所 (JCI) のメンバーとして各国の青年会議所と連携し、世界を舞台に活動を展開している。その日本 JC における議長・委員長として、相模原 JC はこの 10 年間に 2 人のメンバーを輩出している。その経験をどう「LOM に持ち帰り、まちづくりへと活かす」ことができたのか。希少な経験を受け継いでいくために、古橋歴代、荒俣歴代にインタビューを行った。

第14代神奈川ブロック協議会会長 中村宣勝先輩

神奈川のチベット

「当時相模原は神奈川のチベットと呼ばれていた」と中村歴代は語る。

それまでの相模原JCはまだLOMの組織構築に追われていた。そこから、外に目を向ける時期が来たということであろう。

中村歴代はブロック会長として出向する前から、準備を着々と積み重ねていった。「一朝一夕にできるものではない。多くのLOMとの関係にも気を配らなければならない」

その結果として、悲願であったブロック会長の輩出を果たしたのである。



ブロック会長を務めるにあたって

「ブロックとは、一言で言えば連絡調整機関だ」そう中村歴代は言い切る。「ただ、一癖も二癖もあるJCを取りまとめることは生半可ではない。」

ブロック会長に就任する前から、中村歴代は周囲のLOMとの関係作りに気を配っていた。連絡調整とは、各地の理事長を支えることでもある。ひいては各LOMが後顧の憂いなくまちづくり運動を行える、その土台を預かることの重要性を感じていたためであろう。その情報は、当時17あった神奈川県内の青年会議所同士の関係性や地理関係、誕生経緯など、多岐に渡った。当時と世相は異なるものの、見習うべき点は多い。

LOMやまちづくりに還元できた点を教えてください。

「当時のブロックは事業を行うというよりは、やはり各LOMの連絡調整や支援が主だった。」と中村歴代。還元できる点があるとすれば、連絡調整を務めることによって得られる運営能力が身につくというのは一つだろう。また内に籠もらず外にコミットしていくことにより、いわゆる中堅LOMとして、より広範囲に意識を向けていくきっかけとなったのではないか。

「当時は、やはりLOMとしてブロックに参加していきたいという思いがあった。若くして理事長をさせてもらった自分は、やはりそのLOMの思いに応える義務があった」中村歴代は振り返りながら答える。この時期は相模原JCが対内対外含め、どんどん変わっていく時期だった。その一つとして、ブロックへの参加は必然だったとも言えるかも知れない。中村歴代はその鍵となったのである。

市内小学校等の書籍をデータ化

ブロック会長時の繋がりから、ちょっとしたことでまちづくりに繋がったこともあると言う。「ブロック会長を務めることにより、多くの人脈がJC運動にも仕事にも繋がってくる。思えば市内の小学校等にある書籍をデータ化して欲しいという依頼を受けたときも、ブロック絡みから始まった。まちへの貢献の一環と考え、積極的に関わっていくことができたのは、やはりブロックで会長として務めた義務と責任、そして経験があっただけだった。」

メンバーへの一言

いいまちにはいい青年会議所がある。私は最初の背中を川崎の齋藤先輩に見たが、是非若いメンバーは先輩の背中を見て頑張りたい。

第36代神奈川ブロック協議会会長 伊藤信吾先輩

第37代理事長である伊藤歴代は、中村歴代の出向より久しく22年振りに神奈川ブロック協議会会長を務めた。伊藤歴代は「すべて手探りの中でのブロック会長だった。」と当時を振り返って語った。当時までの相模原JCは半鎖国状態であった。



ブロック会長を務めるにあたって

情報が全くなかった、と重ねて伊藤歴代は語った。それまでブロックとのコミットが希薄化していた相模原JCにとっては、経験の継承もなく、先輩に尋ねようにも、いささか年月が経ちすぎている。「反対もかなりあった」と伊藤歴代。しかし、またとない機会でもある。LOMの内外問わず、

推す声と批判する声が飛び交ったと言う。連日連夜議論に議論を重ね、意見も出し尽くした後、最終最後に伊藤歴代自身が一晩考えて結論を出すと皆に告げた。翌日、やると決めた伊藤歴代に、LOMの総力を挙げて協力することとなった。

伊藤歴代は「やる以上はとことんやる、その覚悟は常にあるLOMだった」と振り返る。

ブロック会長就任後

「人の配置には非常に苦労した」と伊藤歴代。ブロック会長に就任するにあたってその支援が必要なのは勿論のことだが、LOMの運営に支障を来しては本末転倒である。当時専務理事であった柴田歴代と検討を重ね、限られた人員の中で最大効率を発揮できるよう常に奔走していた。しかし、その最中でも「ブロック会長を輩出しているテンションの高さはあったよね」とのこと。

LOMやまちづくりに還元できた点を教えてください。

「LOMというものを改めて意識する機会となる」当時はブロックで紹介を行う際に、各LOMの特色などを枕詞として用いていたとのこと。比べることにより、自身のLOMやまちがどのような特徴を持っているのか、改めて俯瞰することができる。これは運動を見直す、分析する上で非常に重要なファクターである。また当時NPOなどが乱立し、「JCしかない時代」から、「JCもある時代」へ大きく変化を遂げていた。その中でJCの立ち位置をもう一度振り返って確認ができたのは、伊藤歴代が出向したことの大きな意義である。

政策を通してまちづくりを見ること

普段見落としがちであるが、まちづくりの最も大きな主体は行政である。その政策を通してまちづくりを見る、ということを再認識したのも、県という大きな枠組みで青年会議所運動に取り組むブロックへ出向した功績と言えよう。

メンバーへの一言

恐れずに、言うべき意見を言うことが大事。皆が良い組織づくりをすれば、良い人が集まる。時間の許す限り、頑張る。

第41代神奈川ブロック協議会会長 柴田正隆先輩

第39期理事長である柴田歴代は伊藤歴代が出したわずか5年後、再び相模原を背負って神奈川ブロック協議会へ会長として出向した。



いいまちを作るために

「いいまちとは、魅力ある人がいるまち。それは他ならぬJCメンバーがいるまちだ」と柴田歴代は語る。柴田歴代は卒業後も一貫して、JCの良さや価値について随所で力強く語り続けている人物である。随所で講演を行う際にも、必ずJCについて言及している。「県内の多くのJCを見てきた」経験からであろう。

ブロック会長を務めるにあたって

「私がブロック会長を行うにあたって心がけたものの一つに広報がある。よりわかりやすいようにと、神奈川ブロックではなく神奈川JCという呼称を使用したのもその一つ。」と柴田歴代。1400人規模の団体でこういった経験を実際に体験することができるのはブロックならではの。勿論LOMや会社経営で実践している。

LOMやまちづくりに還元できた点を教えてください。

「やはりLOMの中だけでは体験できないこともある。」と柴田歴代。「近隣JCの活動内容は通常あまり分からないと思うが、神奈川の多くのJCの姿を間近から見る機会に恵まれ、他のJCがどのような理念を持って、どのような活動をしているのか、それを知って後輩に伝えることができた。普段は感じる事が少ないと思うが、本当に熱いJCがまだまだたくさんある。」人は人でしか磨かれない、という言葉柴田歴代は好んで使用するが、ならばより多くの人が集まる場所に行くのも道理である。ただ、心残りもあると言う。「若いメンバーをもっと連れて行きたかった。この経験を共有し、より深い体験をさせたかった」

まちづくりに活かされるのは卒業後

ブロック会長の経験は多くが理事長経験後に出向するため、卒業年度になってしまいがちである。つまりその経験を振るう機会は少なく、あまりLOMには生かされにくい。しかし、JC自体が卒業後の活動を奨励しているように、その経験はすべからず相模原市のまちのために生きている。例えば柴田歴代は市から始まり県のPTAの会長まで務めているが、この骨針にはブロックで体験した大人の背中運動が生きていると言う。「こんなに卒業後のOBがまちへコミットしている団体は他にないよ」と柴田歴代は誇らしげ。前述したように、JC卒業者がどんどんまちにコミットしていけば、より良いまちになることは疑いようがない。その経験として、自らの市以外のまちづくりを見ておく経験ができるのは、ブロックの良さであろう。

メンバーへの一言

感動する場所に人は集まると言う。だからこそ、JCには人が集まるブロックに出向して、忘れられない体験をしてきて欲しい。

日本 JC 財政審査会議議長 古橋裕一先輩

古橋歴代は2008年に理事長を務め、その翌年日本JCに議長として出向。出向に際しては「やりたい」からではなく「やるべきであると感じた」からこそ務めたと語る。



公益社団法人についての学び

古橋歴代が出向していた財政審査会議では、まさに公益法人会計基準の改正などについて議論を行う最中であり、様々な知識、実務部分についてLOMに持ち帰っている。3年後市村歴代が率いる2011年度に相模原JCは公益社団法人への移行を果たしているが、そこに辿り着くまでに古橋歴代が果たした役割は非常に大きかったと言えよう。また、数多くの議案を繰り返し見ること、そして議長という責任ある立場で指摘をしていくことによって、「個人的な学びは計り知れない」と古橋歴代。LOMの運営に持ち帰ることができたものも多くあった。日本JCならではの大規模議案について、詳細に吟味を重ねることによって得ることのできる、運営に対する知識や考え方はその一つである。

理事長を務めるよりもプレッシャーを感じた

「プレッシャーという面から見れば、正直、理事長よりも議長の方が強かった」と古橋歴代。その理由をこう語る。「日本JCに出向するような人間は、誰もがLOMを背負って、その代表として見られることを覚悟している。」それは無論、相模原というLOMを背負った古橋歴代にも言えることである。つまり、常にその一挙一動に相模原というLOMを反映して見られている。「勿論、下手なことなんてできないよね。」だからこそ、相模原JCのために、後輩のメンバーに開かれるべき機会を潰すことのないように、非常に強い義務と責任を感じたのであろう。

気持ちのいい組織とはなにか

組織論について語られることの多いJCだが、最後に古橋歴代はこう締めくくった。「LOMは大切な場所だが、温度はバラバラだ。しかし、日本JCに行くと、LOMを背負って出てきている以上、どんな理不尽があったとしても、必ず前に進む人間ばかり。モチベーションが高いからこそ楽しい。本気の人間が集まっている。そういう空気が味わえるのは、ここ以外ない。この空気は、参画してみなければ分からない。」

メンバーへの一言

日本JCに出向して、つまらなかったと言うやつはいない。

日本 JC LOM 支援委員会委員長 荒俣大先輩

荒俣歴代は 2013 年度相模原 JC の理事長を努め、翌年直前理事長という立場で日本 JC へ出向。LOM 支援委員会委員長を務めた。



日本の出向の経験から学んだ点は

やはり出向するならば、委員としてではなく、スタッフや委員長など、責任ある立場で参画することが重要だと荒俣歴代は語る。「LOM を代表するエース級の人達に揉まれることになる。そうすると、上を目指していくことが当たり前になってくる。」

2011 年、荒俣歴代は現会頭の柴田剛介委員長の下で副委員長を務めている。「その経験が大きな刺激となり、JC に対して妥協しなくなった。」と荒俣歴代は振り返る。そういった経験を積んだメンバーが増えていってこそ、新たな LOM の土台を形成していく礎となるのである。

荒俣歴代は日本 JC への出向についてこう評する。「理事長になるようなメンバーが日本 JC に出向し、意識を高めていくことが大事。経済人として当たり前の考え方ができるとともに、既定路線に囚われない考え方を持つことが LOM の成長に繋がります。」

まちづくりに対して

直接的なスキル以上に、鍛えられたのは意識であると荒俣歴代。「厳しい組織で揉まれてきたからこそ、どこへ出ても気後れすることがない。」同じく知識や経験の幅の広がりも比類ないと言う。「今取り組んでいる活動も大変だが、当時の JC に比べればまだ大したことはない。こう思えることはすごいことだと思う。」荒俣歴代は卒業後も精力的にまちづくりに関わっている。この強い意識が、卒業後のまちづくり運動を強く支えているのであろう。

次世代に承継すべきこと

「相模原市は政令指定都市となったものの、依然まちとして知名度が低い。全国レベルの都市とするために、何をすべきかを考えることが大事。JC メンバーとして一つできる事は、出向して全国の意識の高い、今後の日本 JC 役員達と親交を深め、相模原を知ってもらう事。委員長も 3 年たつと全国から忘れられてしまうので、数年に一度は日本の委員長を相模原から担ってほしい。全国の LOM を見てきたが、相模原 JC はもっと外に出ていい LOM だと感じる。更にメンバーの意識の向上を心掛け、JC を使って全国に名前を売ってください。」

メンバーへの一言

日本の委員長は大変ですけど、私はとっても良い経験をさせていただいて、大きく成長させてもらいました。是非ともこれからも続いてほしいし、早く私を超える人が出てほしい。待っています。

創立 50 年代 LOM 運動指針

相模原 J C は「明るい豊かな社会」を実現するため、50 周年の節目を機に、地域の発展著しい相模原の現状を踏まえた新たな運動指針を制定した。50 年代はこの運動指針を実現すべく運動に邁進していく事になる。

【はじめに】

公益社団法人相模原青年会議所の活動エリアである相模原市は 2010 年、戦後に誕生した市として初めて政令指定都市となりました。1954 年 11 月 20 日、人口 8 万人でスタートした相模原市は産業集積や宅地化が急速に進み、現在では神奈川県内で横浜市、川崎市について第 3 位の人口規模となる約 72 万人を擁する、首都圏南西部の「広域交流拠点都市」へと成長しました。さらに、橋本駅へのリニア中央新幹線の新駅設置や、さがみ縦貫道路の市内区間の全線開通、相模原駅前に位置する米軍の相模総合補給廠の一部返還、小田急多摩線の延伸構想など、都市機能の飛躍的な発展が見込まれています。また、若年世帯を中心とした人口の流入が続いており、市内に大学・短大が 9 校もあることや、周辺都市の大学も市内駅を最寄りとする場合が多く、学生のまちとしての顔も併せ持ちます。さらに市内には、宇宙航空研究開発機構（JAXA）宇宙科学研究所相模原キャンパスがあり、小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ 2」の故郷として、日本の宇宙科学の研究拠点としても知られています。

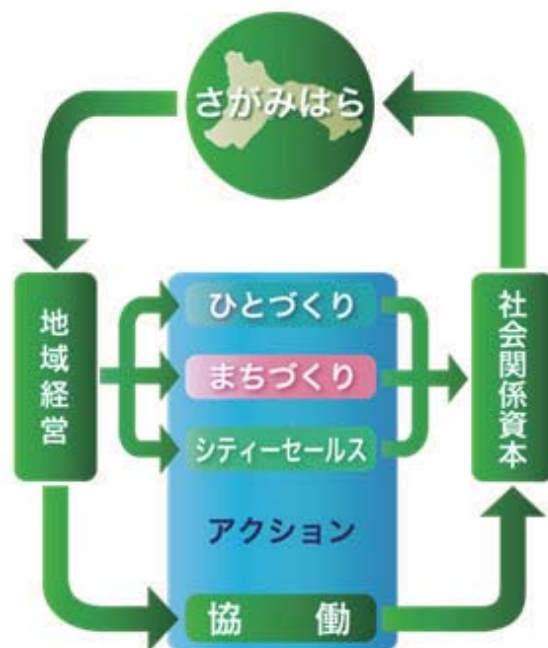
私達（公社）相模原青年会議所は、創始の精神を受け継ぎながらも時代の変化に即した柔軟な運動展開と変革の能動者としての強い意思を持ち、私達（公社）相模原青年会議所が目的とすることは何か、その原点を忘れてはならない事は基より、目的達成のためにどのような手段があるのかという事を確認する必要があります。

定款第 3 条には、本会議所は、青年の英知と勇気と情熱を結集し、明るい豊かな社会に向かって、地域社会と国家の発展を図り、会員の連携と指導力の開発に努めるとともに、国際理解を深め世界の繁栄と平和に寄与することを目的とする。とあり、また目的の達成の為の第 5

条では、本会議所は、その目的を達成する為に、次の事業を行う。

- (1) 政治、経済、社会及び文化及び地球環境に関する諸問題の研究並びにその改善及び発展に資する事業。
- (2) 地域社会の発展を担う人材の育成、青少年の育成や地域づくりなどによる地域社会への貢献に資する事業。
- (3) 会員の指導力啓発、教養の修得等能力の開発に資する事業。
- (4) 公益目的を達成する為の公益社団法人日本青年会議所、国際青年会議所、国内国外の青年会議所、その他の諸団体と提携して青年の交流を図る事業。
- (5) 公益目的を達成する為に必要な会員の知識、教育等の向上及び相互の親睦に資する事業。
- (6) 前各号の事業を達成する為に必要な事業とあります。

We'll Design Sagamihara



創始より揺るぎ無く受け継がれた、明るい豊かな社会に向けた道筋。時を経ても決して色あせず輝きを放つこの崇高なる理念の実現へと向け、私達は弛まず歩を進めなければなりません。目まぐるしく変わり続ける社会情勢のなかであっても、この原点を宿しつつも変化を恐れず、時代に求められ、頼られる運動を展開して行きましょう。

【地域のつながりから発展する社会】

日本創生会議が発表した推計によると、2040年には20～39歳の女性の人口が全国の過半数の896市区町村で5割以上減るとされ、さらに人口が1万人を切る市町村は523市区町村に上り、20代～30代の女性の数が5割以上減る可能性がある自治体は「消滅可能性都市」と呼ばれ、大きな波紋を呼んでいます。人口の減少は生産年齢の人口の減少でもあり、それは日本経済の低下にそのまま直結し国際的に競争力の低下に繋がります。日本の国力が低下すれば、生活水準の低下や公共サービス、教育水準の低下などに繋がります。人口流動性の増加、戦後築き上げた社会システムの限界といった社会構造の変化に伴い、地域社会とのつながりが希薄化し無機質な人間関係が進行しています。また企業の撤退や景気の低迷による産業の空洞化、また地域コミュニティの一翼を担うべき商店街なども個人ニーズの変化や大型量販店舗の進出により衰退をし、多くのまちでその役割を失いつつあります。地域コミュニティの停滞はセーフティーネット機能や治安維持、災害発生時のサポート機能、地域教育機能の低下にも繋がります。これらの事象はまさに、この地域の慣習や伝統・文化の喪失にもつながり地域の没個性化へとも進行してしまっています。

このように多岐に亘り問題を内包するなか、2015年現在、様々な地域課題の解決を図る主体を国や地方自治体といった公的機関から地域住民へとシフトさせていく地域主権の潮流が明確化し、現に政令市となった相模原では実地に移されています。地域主権を確立するためには、私達が従来行ってきた『市民』、『行政』、『他団体』との連携や開かれた場での議論・検証を行う自由な討議を重ね、市民が主体的にまちづくりに参画できる市民参画型社会の推進を続ける必要が有ります。そのような運動を展開していく先に、地域の一人ひとりがまちへの誇りや

愛着を持つ『シビッグプライド（郷土愛）』が醸成され、社会の機能性を高める人のつながり、すなわち信頼・規範から成り立つ人のつながりといった『ソーシャルキャピタル（社会関係資本）』を重視した倫理・道徳を伴った資本主義経済を創造しなくてはなりません。さらに、地域資源を活用し地域生活者が幸福になるために、『エリアマネジメント（地域経営）』の視点からまちづくりを推進していくことができる人を生み出し、私達の目指す『明るい豊かな社会』の実現へと繋がっていくのではないのでしょうか。ソーシャルキャピタルの醸成は先にあげた3つの機能を補完するだけでなく、地域の個性・資源を活かした新たな産業創出へと繋がることが期待されます。そのためにも私達が青年経済人として企業経営に励むのみならず『ソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）』として社会的貢献の観点を持つと共に、JAYCEEとしてリーダーシップを発揮し地域のつながりを再構築し、持続的成長を遂げる活力ある社会を創り上げましょう。

*「ソーシャル・キャピタル」とは「社会的つながりの量・質を決定する制度、関係、規範である。社会的つながりは経済の繁栄や経済発展の持続に不可欠である。単に社会を支えている制度ではなく、社会的つながりを強くする為の糊の役割を果たしている』（世界銀行）

*エリアマネジメント（地域経営）の視点

特産品や観光地のブランド化による一過性的な経済拡大で留まるものでなく、行政や住民、企業や団体などの多様な地域経営主体による協働によって地域そのものをブランド化する地域ブランド開発のことで、地域に誇りや愛着の創造、そして地域の持続的発展に寄与します。

【私達の取り組み】

「明るい豊かな社会」の実現には、それを担うひとつづくりが最も重要です。すなわち、地域や社会を我が事と考え、そのために主体的能動的に運動に取り組み、時にリーダーシップをとって地域を牽引する人材が1人でも多くこのまちに現れば、まちは大きな輝きを放ちます。ひとつづくりこそまちづくりの原点であると確信し、以下の運動を展開してまいります。

1. ひとつづくり

人は人によって磨かれ、人間の心は周りの人

との関係を通してこそ豊かな成長をしていきます。人と人のつながりが豊かな人格形成を生み出し、周囲に良き影響を与える人と成ります。そんなつながりからこそ生まれる人間性や社会性を有し、主体的に地域を創造するひとを創り上げていきましょう。

(1) シビックプライドを醸成するひとづくり

市民誰もがまちの歴史や文化を知り、共通のアイデンティティを確立すれば必然とまちに対する愛着が湧き、愛着があるからこそまちのために何ができるかを常に考え主体的に行動し、地域中心の社会が構成されます。シビックプライドを醸成する活動から地域社会に貢献する精神を有したひとづくり運動を展開します。

(2) コミュニティが育むひとづくり

社会を構成するのは『個』と『公』だけではなく『共』にあたるコミュニティの存在が欠かせません。一人ひとりが自分の役割を果たす自助とともに、家庭という単位を大切に、更にそれを地域が支えあい相互を尊重しながら高めあう、そんな人のため社会のために役割を果たすという共助の精神を有したひとづくり運動を展開します。

(3) ソーシャルアントレプレナー精神溢れるひとづくり

人をつくり、その人がまちをつくる、社会をつくる、明るい豊かなまちをつくる、人の思いが伝播して平和な世界をつくり上げる。これは青年会議所の基本理念です。この理念を果たす為に、リーダーシップを発揮し活躍できるように自らを研鑽しつつ社会的価値を創造し実践していく、社会に貢献できるソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）の精神を有したひとづくり運動を展開します。

(4) 主権者意識の向上

政治家に対する不信や若者の政治離れが叫ばれますが、単なる批判や他力本願ではなく、どうすれば社会がよくなるか自ら主体的に考え、行動することが主権者には求められます。選挙権の18歳引き下げなども踏まえ、意識と質の高い有権者の醸成こそがこの地域を、そしてこの国を豊かにすると信じ、私たちは、市民の主権者意識向上に努めます。

2. まちづくり

このまちに暮らし、このまちで経済活動を行い、このまちで子育てをしている私達は、誰よりもこのまちを愛している存在であります。このまちの将来にわたる発展や活性化は、私達市民一人ひとりの経済活動や暮らしにも直結しているという認識を持たなければなりません。まちづくりとは、このまちの抱える課題や、このまちに今後必要であることを調査・抽出し、これらの課題を解決するための持続可能な解決方法を計画し、力強く実行していくことです。このまちをより魅力溢れ、活力あるまちとしていくために、市民・行政・他団体と協働し、市民の多様な知識・価値観・経験を活かし、自立した地域を創り上げる運動を展開します。

(1) 人口増加都市を目指して

さがみはら都市みらい研究所の人口推計によれば、相模原市の人口は2019年の約73万2千人をピークに減少が始まり、2060年には約54万3千人になると推計されています。急激な高齢化や生産年齢人口の落ち込みといった社会問題が浮き彫りとなっています。リニア中央新幹線駅の設置など開発による人口流入を約1万9千人見込む一方で、都心の地価下落や利便性重視から、25歳から39歳までの世代で転出超過（転入者より転出者が多い）が起こっていることも背景のひとつです。何もしなければ、人口減少という全国的な傾向が加速度的に進んでいきます。人口減少に対する取り組みを行っていく必要があります。特に転出超過している若者世代が大学卒業後も市内に住み続けるような施策や、30代から40代の子育て世代の人口流入が起こるための施策が求められています。多くの人や企業に選ばれるまちとなるために、2025年までに「人口100万人都市」を目標に掲げ、人口減少に対する課題に取り組んでいきます。

(2) 日本一のベッドタウン「子育てするなら、さがみはら」

人口増加を図るためには、子育て世帯の増加が不可欠です。子育てにも通勤にも便利なまちとして、また地盤が強く九都府市の防災・減災拠点として安心して暮らせるまちであるポテンシャルを活かし、子育て世帯の人口流入を目指します。地域イベン

トなどを通して地域コミュニティを活性化し、ご近所さんが自然と支え合う市民意識の醸成を図ります。また、青少年育成や教育現場にも積極的にコミットする事業を展開し、「子どもは地域で育てる」という環境をつくりだし、子育て世代から選ばれるまち、「日本一のベッドタウン」を目指します。

3. シティセールス（魅力発信）

地域資源や地域特色を広くPRし、地域ブランドの向上を図るシティセールスの果たす役割が、これまでもまして重要になっています。シティセールスの最終目標は3つあります。居住人口の増加、交流人口の増加、地域経済の活性化です。このまちの魅力を発掘、または新たに創造し、市の魅力を明確にして効果的・戦略的に情報を市内外に広く周知することで、相模原市をブランディングし、選ばれるまちを創造します。

(1) 72万人シティセールスマン化計画

このまちの魅力をどれだけの人々が語ることが出来るでしょうか。まちの魅力とは決して名所旧跡や地域イベントだけではなく、そこに住まう人の魅力も大きな要素となってきます。一人ひとりがこのまちの魅力を語ることが出来れば、人が集まり、産業が集まり必ずこのまちは活性化していきます。このまちに関わるすべての人々が、まちへの誇りや愛着を持つ「シビグプライド（郷土愛）」を醸成し、市内外の人に相模原市の魅力を自慢したくなる、このまちに関わる人びとの期待感がふくらんでいくようなシティセールス・プロモーションを展開します。

(2) 新たな魅力開発による交流人口の増加

相模原市は、東京都心から電車で約40分。2014年に圏央道の市内区間全線が開通し、東名道・中央道・関越道の3大動脈と直結しました。また、リニア中央新幹

線駅の設置や相模総合補給廠の一部返還地の再開発、小田急多摩線の延伸構想など、広域交流拠点として発展を続けています。人が集まるところに産業が生まれ、産業が生まれるところに人が集まります。相模原市は交通インフラというハード面は発達しても、人を集めるためのソフト面はまだまだ脆弱です。海外からも集客できる相模原市の魅力を新たに開発することで、交流人口の大幅な増加を目指します。

【結びに】

現代社会には世界に紛争と貧困、国内には政局とモラルハザードが蔓延し混沌たる社会が目の前に広がっています。『理想は理想でしかない』、そんな諦観漂う社会を切り拓き理想を現実のものへと変革させようの推進力となるものは、情熱を有し、志を掲げ、果敢な行動力を有した青年であり、その英知を集結した私達JCであります。そしてまた私達に必要とされることは「どれだけたくさんのかをしたのか」であったり、「どれだけ偉大なことをしたか」ということではなく、何を目的とし、またその本質やその先のビジョンを忘れず丁寧に一つ一つに心を込め運動を展開していくかです。

今までと同じ発想や同じ行動では新しいことは生み出されません。目まぐるしく変容する社会において変化を恐れていては、組織としての輝きを失い衰退の道を歩むこととなるでしょう。しかし、『明るい豊かな社会』という遠大な理想の実現へ向け、己を律し、互いを刺激し合い成長し、かつJCという組織を卒業してもなお、この理想の実現へ向け各所で社会貢献を続ける人材を輩出することができる組織は私達JCだけなのです。

JCに輝きがなければ地域が輝くことは決してありません。自らの持つ可能性、JCが有す革新性を信じ共に行動し続けましょう。

外部監事

飯田 恭史 (株)時創空間 (建設業)
〒 252-0226 ☎ 042-851-3474
相模原市中央区陽光台 4-13-7

川島 敏徳 川田屋(株) (業務用酒類・米・食材卸)
〒 194-0037 ☎ 042-793-1230
町田市木曾西 4-32-1

飯塚 侑 飯塚塗研(株) (塗装・防水業)
〒 252-0135 ☎ 042-794-6731
相模原市緑区大島 1 1

正会員名簿

【あ】

池田 弘城 S K Y A Z U L (理美容業)
〒 252-0143 ☎ 042-771-0025
相模原市緑区橋本 2-2-18 コフォートII 2F

五十君 暁 I L F A V O R E (飲食業)
〒 252-0303 ☎ 042-744-2204
相模原市南区相模大野 8-3-3 センチュリー KI ビル B101

青木 亮 A K I R A ~ budo schoo ~ (格闘技道場)
〒 252-0231 ☎ 042-704-8461
相模原市中央区相模原 1-7-8 関口ビル

石井 孝治 (有)石井青果店
〒 252-0243 ☎ 042-762-3675
相模原市中央区上溝 3-20-20

青木 英臣 (有)コーキ 御殿山パベルブルク (飲食業)
〒 192-0375 ☎ 042-677-5511
八王子市鎌水 530-1

石川 将誠 (医)直源会相模原南病院 (医療)
〒 252-0331 ☎ 042-730-5277
相模原市南区大野台 7-10-7

秋野 真吾 (株)ユーブラン (広告代理店)
〒 252-0232 ☎ 042-704-3483
相模原市中央区矢部 3-21-15 1F

磯崎 拓郎 大和証券(株) (証券業)
〒 252-0231 ☎ 042-730-7007
相模原市中央区相模原 1-2-17

秋森 誠一 (株)秋森鉄筋 (鉄筋工事業)
〒 252-0243 ☎ 042-778-4737
相模原市中央区上溝 56

板垣 夏樹 板垣行政書士事務所 (法人設立、建設業許可、相続手続、自動車・物流に関する許認可申請)
〒 252-0244 ☎ 042-714-0050
相模原市中央区田名 6803-3

朝見 賢光 (株)光建構造設計事務所 (設計業)
〒 252-0225 ☎ 042-755-8888
相模原市中央区緑が丘 1-17-10

市川 圭 医療法人社団 永研会
〒 157-0062 ☎ 03-6909-0386
世田谷区南烏山 4-9-14 南烏山 3F

安達 裕也 (株)ダイアグラム (電気通信工事業・電気工事業)
〒 252-0131 ☎ 042-703-4841
相模原市緑区西橋本 1-7-11-1F

市川 稔 (株)ボンズコミュニケーション (通信端末販売・コールセンター)
〒 222-0033 ☎ 045-472-0765
横浜市港北区新横浜 2-15-12 共立ビル 8 F

阿部 正樹 司法書士植木事務所 (司法書士業務)
〒 252-0231 ☎ 042-711-7626
相模原市中央区相模原 6-22-9 朝日相模原ビル 605 号

市川 雄士 (株)市川電設
〒 252-0216 ☎ 042-713-3109
相模原市中央区清新 4-8-11

安藤 大地 (株)I P ・テクノ (システム開発)
〒 252-0301 ☎ 042-711-6091
相模原市南区鶴野森 2-25-33 ロワール町田

市村 道子 (有)市村塗装 (塗装業)
〒 252-0135 ☎ 042-761-6494
相模原市緑区大島 1744-6

安藤 将之 代行 一番 (運転代行業)
〒 252-0239 ☎ 042-755-0017
相模原市中央区中央 4-10-5-3F

伊藤 英明 C E N T L L A G E (株)
〒 252-0231 ☎ 042-750-0038
相模原市中央区相模原 2 丁目 2 番 15 号 プレジデントビル 3 階

安藤 佑弥 安藤経営労務管理事務所 (社会保険労務士)
〒 252-0235 ☎ 042-755-9196
相模原市中央区相生 1-11-7MBC ビル 3F

伊藤 征洋 (株)アイロード不動産 (不動産業)
〒 252-0334 ☎ 042-705-6385
相模原市南区若松 3-9-1

飯田 美津雄 (株)明輝社 (電気工事業)
〒 252-0306 ☎ 042-712-1120
相模原市南区栄町 4-23

伊藤 学 D. ホーム(株) (リフォーム営業)
〒 252-0313 ☎ 046-259-5755
相模原市南区松が枝町 4-10

稲場 純 〒 252-0331 相模原市南区大野台 1-9-49	(株)リガルジョイント (流体機器、熱交換器製造) ☎ 042-756-7567	大塚 規之 〒 252-0238 相模原市中央区星が丘 1-1-22-103	(有)サクラリビング (建設業) ☎ 042-704-2560
今岡 俊二 〒 252-0225 相模原市中央区緑が丘 2-41-1	(株)IMARISE (空調設備業) ☎ 042-851-4586	岡野 智博 〒 252-0235 相模原市中央区相生 4-9-20	(株)ケイ・アース (太陽光発電システム企画・販売) ☎ 042-707-9007
今西 隆彦 〒 252-0303 相模原市南区相模大野 8-4-2 ラ・メールビル 2F I-1	今西法律事務所 (弁護士) ☎ 042-705-9781	岡田 聡 〒 170-0013 東京都豊島区東池袋 1-32-7 三井生命ビル 3F	三井生命保険(株) (保険業) ☎ 03-3987-1065
井山 裕文 〒 194-0215 町田市小山ヶ丘 4-6-8	サレジオ工業専門学校 ☎ 042-775-3020	小川 大朗 〒 252-0244 相模原市中央区田名 7460	小川和男養鶏場 (小売業) ☎ 042-762-2915
入内島 弾 〒 243-0123 厚木市森の里青山 14-1	(株)エコ・コンパス ☎ 046-250-1040	長田 憲一 〒 252-0328 相模原市南区麻溝台 7-8-15	(株)ファースト (仮設足場工事業) ☎ 042-705-4357
岩崎 恵子 〒 252-0231 相模原市中央区相模原 6-15-15-201	プライベートサロン ヴィナカ ☎ 090-4941-5078	小田 貴久 〒 252-0143 相模原市緑区東橋本 1-17-1-311	相模原市議会議員 ☎ 042-712-4983
岩田 淳 〒 252-0236 相模原市中央区富士見 1-5-2 三愛ビル相模原 2F	ふじみ合同法律事務所 (行政書士業) ☎ 042-755-9269	落合 大輔 〒 252-0313 相模原市南区松が枝町 4-5	株式会社中島建設 (総合建設業) ☎ 042-733-7050
植野 大輝 〒 223-0058 横浜市港北区新吉田東 8-29-36	(株)D. P. アシスト (設備) ☎ 045-541-5270	恩田 勇生 〒 252-0221 相模原市中央区高根 2-2-18	喰処 (飲食店) ☎ 042-756-0963
宇田川 隼 〒 252-0231 相模原市中央区相模原 2-1-5 サトウビル 5 階	相模原中央総合法律事務所 (弁護士・共同代表) ☎ 042-704-6577		【か】
梅澤 壮太 〒 252-0131 相模原市緑区西橋本 2-26-1	(株)住栄木材センター (一般建築、リフォーム一式) ☎ 042-772-3281	勝田 威氏 〒 252-0312 相模原市南区相南 4-8-3	東京ユーキ(株) (通販事業、サイト運営) ☎ 042-701-4461
梅津 賢一 〒 252-0237 相模原市中央区千代田 1-6-12	(有)梅津測量設計事務所 (登記申請・測量・開発許可) ☎ 042-753-0341	樫見 文枝 〒 252-0375 相模原市南区北里 1-15-1	北里大学医学部 (医学など) ☎ 042-778-8128
浦上 裕生 〒 252-0231 相模原市中央区相模原 6-26-7	菊屋浦上商事(株) (事務用品販売) ☎ 042-754-9211	梶山 純 〒 252-0232 相模原市中央区矢部 3-18-17-201	astro ☆ works ☎ 042-712-1141
海老澤 庸祐 〒 252-0244 相模原市中央区田名 3425-18	(有)海老澤鉄工 ☎ 042-762-5336	片倉 亮介 〒 252-0143 相模原市緑区橋本 3-19-17-702	弁護士法人相模原法律事務所 (弁護士業務) ☎ 042-756-0971
大久保 貴章 〒 252-0328 南区麻溝台 8-25-19	(株)カナコー (建築、土木、埋蔵文化調査、イベント) ☎ 042-746-1221	金澤 文雄 〒 252-0243 相模原市中央区上溝 393-5	金澤表具店 ☎ 042-778-3114
大谷 寛一 〒 252-0243 相模原市中央区上溝 4-3-27	(有)磐城興業 (建材販売業他) ☎ 042-703-9758	金子 正隆 〒 252-0243 相模原市中央区上溝 598-1	(株)相模家庭電気 (電気工事・家電製品販売・取付) ☎ 042-759-2015

金子 雄介 照天神社 〒 252-0135 ☎ 042-751-1043 相模原市緑区大島 563-2	九嶋 俊彦 (株)アジアントレーディング (産業廃棄物収集運搬業及び解体業) 〒 252-0334 ☎ 042-701-2522 相模原市南区若松 2-24-30
金子 裕介 (株) UNITEE (保険代理店) 〒 220-8111 ☎ 045-683-3551 横浜市西区みなとみらい 2-2-1 11F 横浜 MEGA オフィス内	熊谷 直樹 (有)第一タイヤセンター (タイヤ販売業) 〒 252-0243 ☎ 042-762-9266 相模原市中央区上溝 2289
蒲生 慎治 (株)白井商事 (プロパンガス販売) 〒 252-0336 ☎ 042-778-1515 相模原市南区当麻 847-4	久米 理士 株式会社ビルドアート (建築工事業・不動産業) 〒 252-0321 ☎ 042-705-8011 相模原市南区相模台 1-8-16
唐橋 二之 (株)サーティーフォー (建築・建設・不動産・賃貸・飲食業) 〒 252-0143 ☎ 042-779-7766 相模原市緑区橋本 1-14-3 サーティーフォービル	黒澤 恒一 東京海上日動あんしん生命保険 〒 220-0004 ☎ 045-311-1023 横浜市西区北幸 1-4-1 横浜天理ビル 17 F
神里 大志 (株)ラトルススネイク (中古2輪、4輪整備販売) 〒 330-0817 ☎ 048-298-4447 埼玉県川口市戸塚南 4-13-2	小池 義和 前市議会議員 〒 252-5277 ☎ 042-754-1111 相模原市中央区中央 2-11-15
神谷 清香 (株)ラ・サーヤ (不動産業) 〒 252-0303 ☎ 042-743-2652 相模原市南区相模大野 3-12-9 LS ビル 1F	河野 隆之 大谷豊法律事務所 (弁護士業務) 〒 252-0239 ☎ 042-750-0858 相模原市中央区中央 2-12-15 相模中央ビル 302
川井 起彦 相模ひまわり幼稚園 (幼稚園) 〒 252-0333 ☎ 042-744-0220 相模原市南区東大沼 2-7-6	廣本 頼一 Amusement Bar GAPS(飲食業) 〒 252-0231 ☎ 042-810-0567 相模原市中央区相模原 2-10-1 GAPS ビル 1F
河内 一泰 (有)河内経師店 (建設業) 〒 252-0243 ☎ 042-756-7153 相模原市中央区上溝 1353-4	腰越 大二 腰越建設 (建設業) 〒 252-0316 ☎ 042-860-6751 相模原市南区双葉 1-12
川口 敏男 (株)多田エンタープライズ 〒 252-0001 ☎ 042-765-5520 座間市相模が丘 1-32-6	此田 義男 PeaceInterior (内装仕上業) 〒 192-0919 ☎ 042-683-1814 東京都八王子市七国 3-43-10
川島 淳 県相模原法律事務所 (弁護士事務所) 〒 252-0237 ☎ 042-776-5300 相模原市中央区千代田 1-6-9 共立千代田ビル 2F	小林 晶乃 レゴイック エステサロン (美容業) 〒 252-0231 ☎ 042(707)7705 相模原市中央区相模原 1-5-10Artdevivre103
神田 幸一 居酒屋天城 (飲食業) 〒 252-0231 ☎ 042-855-5959 相模原市中央区相模原 3-11-3 カーサ TTY 1F	小林 俊介 小林総合保険事務所 〒 252-0325 ☎ 042-767-2247 相模原市南区新磯野 2-26-13-204
神田 隆吾 (有)式典さがみの (葬祭業) 〒 252-0331 ☎ 042-751-0404 相模原市南区大野台 6-3-40	小林 大介 神奈川県議会議員 〒 231-8588 ☎ 045-210-7882 横浜市中区日本大通 1
岸 徹 岸公認会計士事務所 〒 252-0303 ☎ 042-742-2282 相模原市南区相模大野 5-29-11	小山 龍次 スワ運輸(株) (物流) 〒 252-0243 ☎ 042-778-2671 相模原市中央区上溝 895
木村 俊樹 朝日火災海上保険(株) (損害保険) 〒 190-0022 ☎ 042-524-8205 東京都立川市錦町 1-7-18 立川エビル	小山 智竹 (株)シパーズ 〒 252-0242 ☎ 042-815-0177 相模原市中央区横山 4-24-6 ベルクメント 203
木下 雅久 雅建美装 (塗装業) 〒 252-0235 ☎ 042-707-0007 相模原市中央区相生 3-11-13 ペルテ 101	【さ】

西元寺 将大 エス・デザイン(株) (不動産業)
〒 252-0239 ☎ 042-704-3131
相模原市中央区中央 1-4-1es ビル

島影 裕司 島影行政書士事務所
〒 252-0321 ☎ 042-741-4663
相模原市南区相模台 2-13-7

斎藤 雅博 (株)studio HiGH (写真、WE B、海外品輸出入)
〒 252-0335 ☎ 080-9170-7101
相模原市南区下溝 303-6

嶋崎 史浩 花工房しまざき (花・農業)
〒 252-0116 ☎ 042-782-8744
相模原市緑区城山 4-7-53

齋藤 麻里亜 Pleiades Music Office(音楽イベント企画・制作演奏<音楽を含まない事も有>・音楽教室運営)
〒 252-0232 ☎ 042-707-4230
相模原市中央区矢部 2-4-6

清水 淳一郎 ひよこ第3保育園
〒 252-0305 ☎ 042-767-5565
相模原市南区豊町 1-29

酒井 基広 (株)T R I B E (仮設足場)
〒 252-0224 ☎ 042-711-6731
相模原市中央区青葉 1-2-18- B 202

清水 利諭 (有)レポート企画 (総合広告業・印刷業)
〒 252-0232 ☎ 042-754-8929
相模原市中央区矢部 3-21-15

鷺直 剛司 (有)アルカディア
〒 228-0001 ☎ 042-748-3181
座間市相模が丘 1-20-48 3F

杉岡 沙樹 相模ガス(株) (プロパンガス販売)
〒 252-0206 ☎ 042-753-1231
相模原市中央区淵野辺 3-1-2

櫻井 秀雄 (株)ジャスパー (野立てソーラー・CATV施工・販売)
〒 252-0231 ☎ 042-768-0097
相模原市中央区相模原 6-22-9 朝日相模原 4F

杉本 光洋 Dining Bar Bond (飲食店)
〒 252-0206 ☎ 042-705-7676
相模原市中央区淵野辺 3-4-16-2F

佐々木 江美 (株)メディカルラボ (臨床検査、健診サービス)
〒 252-0131 ☎ 042-775-6101
相模原市緑区西橋本 1-4-26

鈴木 晃地 相模原市議会議員
〒 252-5277 ☎ 042-754-1111
相模原市中央区中央 2-11-15

佐々木 茂綱 ライズ工業 (有) (外壁・防水事業)
〒 243-0206 ☎ 046-245-5450
厚木市下川入 338-2

鈴木 秀成 鈴木秀成後援会事務所
〒 252-0311 ☎ 042-705-3346
相模原市南区東林間 6-15-8

佐々木 亮一 (株)ライト (家庭電化製品販売・修理)
〒 252-0239 ☎ 042-755-5555
相模原市中央区中央 5-9-10

鈴木 崇之 ジュベール・スズキ(株) (宝飾品小売業)
〒 252-0243 ☎ 042-761-1500
相模原市中央区上溝 6-1-5

佐藤 匠 (有)レポート企画 (総合広告業・印刷業)
〒 252-0232 ☎ 042-754-8929
相模原市中央区矢部 3-21-15

鈴木 正樹 (株)湘興ハウジング (不動産・建設業)
〒 252-0314 ☎ 042-744-1603
相模原市南区南台 3-20-1

佐藤 優司 (有)アスリート (不動産・産業一般廃棄物収集運搬)
〒 252-0242 ☎ 042-730-5662
相模原市中央区横山 4-24-1

鈴木 優二 横山台保育園
〒 252-0241 ☎ 042-756-2102
相模原市中央区横山台 2-24-16

佐貫 恵一 (株)栄文舎印刷所 (印刷業)
〒 252-0157 ☎ 042-784-1185
相模原市緑区中野 545

瀬野 陽仁 相模原中央総合法律事務所
〒 252-0231 ☎ 042-741-8788
相模原市中央区相模原 2-1-5 サトウビル 5 階

柴田 卓 柴田広告社 (看板制作業)
〒 252-0244 ☎ 042-763-0790
相模原市中央区田名 4392-7

【た】

柴田 大樹 (有)柴田塗装 (塗装・サイディング・防水・左官・リフォーム工事一式)
〒 252-0101 ☎ 042-775-0670
相模原市緑区町屋 3-10-13

高田 雅将 t-ways コンサルティング(株) (人材派遣業、コンサルティング業)
〒 150-0043 ☎ 03-6416-0782
渋谷区道玄坂 1-15-3-810

渋谷 涉 (株)アヤノ塗装 (塗装業)
〒 194-0212 ☎ 042-794-8341
東京都町田市小山町 804-4

高橋 和也 (株)ホロスプランニング (生命保険販売)
〒 107-0052 ☎ 090-2254-2195
港区赤坂 2-19-4 FORUM 赤坂 8F

高宮 剛 (株)アレック (人材派遣業) 〒 252-0144 ☎ 042-771-1120 相模原市緑区東橋本 2-2-6-103	富田 恵 トリミングサロン biahca(犬・猫のトリミング、一時預かり) 〒 252-0324 ☎ 046-283-1115 相模原市南区相武台 1-12-5
武政 祐 (株)さがみはら産業創造センター(サガツクナビプロジェクト) 〒 252-0131 ☎ 042-703-6321 相模原市緑区西橋本 5-4-21	堂垣 駿介 (株)ワーキングスタイル (総合建設業) 〒 193-0802 ☎ 042-655-8377 八王子市犬目町 288-2
竹田 望穂 バルーンアート SORA (イベント業) 〒 252-0336 ☎ 090-8377-1065 相模原市南区当麻 886-6	【な】
田中 克征 Ririan (美容業) 〒 252-0143 ☎ 042-703-6197 相模原市緑区橋本 3-29-6 橋本センタービル 1F	中島 俊和 やきとり煙人 (飲食業<やきとり>) 〒 252-0303 ☎ 042-744-3988 相模原市南区相模大野 3-14-9 B 1F
田中 大輔 セレモニーホール 永田屋 (葬祭業) 〒 252-0143 ☎ 042-772-2554 相模原市緑区橋本 8-1-1	永田 貴嗣 (株)VISION (不動産業) 〒 252-0205 ☎ 042-703-7394 相模原市中央区小山 1-2-5-2F,3F
田中 徹 (株)藤デンキ (電気工事) 〒 246-0005 ☎ 045-303-1247 横浜市瀬谷区竹村町 13-1	長沼 良平 Girls&Darts Bar Le.Leve (サービス業) 〒 252-0231 ☎ 042-797-1519 相模原市相模原 2-2-12 田中ビル 1F
田中 真 田中左官工業(株) (左官工事業・タイル工事業) 〒 252-0328 ☎ 042-745-2334 相模原市南区麻溝台 8-15-10	長野 彰 (株)東邦測量 (測量・設計) 〒 252-0235 ☎ 042-758-2011 相模原市中央区相生 4-3-16
谷川 洋 もとむら賢太郎事務所 (議員秘書) 〒 252-0203 ☎ 042-768-9055 相模原市中央区東淵野辺 4-15-1 E - 7号	中橋 竜義 (株)松尾商行 (エレクトロニクス総合商社) 〒 252-0237 ☎ 042-759-1231 相模原市中央区千代田 2-10-17
田原 雅裕 (株)トータス (建築リフォーム・管理) 〒 252-0206 ☎ 042-707-7115 相模原市中央区淵野辺 4-15-21 大谷ビル 102	中村 拓央 (有)中村工務店 (建設業) 〒 194-0211 ☎ 042-744-1126 町田市相原町 2764-13
田畑 大 (有)タバタ室内装飾 (内装業) 〒 252-0244 ☎ 042-760-7550 相模原市中央区田名 8568-1	中村 太郎 (株)中村書店 (書籍、雑誌) 〒 252-0242 ☎ 042-750-1911 相模原市中央区横山 6-8-21
土田 厚 (株)アキタ (消防設備業) 〒 252-0321 ☎ 042-744-4968 相模原市南区相模台 6-17-20	中山 正太郎 (株)翔工務店 (建設・不動産業) 〒 252-0316 ☎ 042-860-6751 相模原市南区双葉 1-12-24
土屋 和樹 (株)カズテクニカ (電気通信業) 〒 252-0239 ☎ 042-711-7741 相模原市中央区中央 1-9-18	野村 勇次 つけ麺 中華そば 清勝丸 (ラーメン屋) 〒 252-0303 ☎ 042-705-5993 相模原市南区相模大野 3-3-1 bono 相模大野南棟 サウスモール 2F
徳永 祐哉 立谷通信(株) (通信機器の販売・取付工事・保守メンテナンス・修理業務等) 〒 252-0328 ☎ 042-747-0420 相模原市南区麻溝台 4-10-5	【は】
豊島 雄介 (株)エヌ・エー・ディー (シール・各種グッズ製作・Web制作・外構業務) 〒 252-0311 ☎ 042-749-7177 相模原市南区東林間 5-13-1-201	羽田野 龍丈 (株)H S G (接骨院) 〒 252-0143 ☎ 042-705-9622 相模原市緑区橋本 2-11-10
富岡 真一 西武信用金庫 矢部支店 (金融業) 〒 252-0232 ☎ 042-786-1011 相模原市中央区矢部 2-29-5	畠山 龍 (株)フラワーハウスK (生花店) 〒 252-0328 ☎ 042-741-6590 相模原市南区麻溝台 3-1-40

原 守 (株)マモル工務店(リフォーム全般)
〒 252-0239 ☎ 042-704-6544
相模原市中央区中央 3-11-19-101

堀内 亮子 R. N A I L (ネイルサロン)
〒 252-0143 ☎ 042-703-5541
相模原市緑区橋本 3-31-6

坂内 太一 (有)天野商会(銅鉄産廃業)
〒 252-0244 ☎ 042-761-3007
相模原市中央区田名 3300-1

堀元 信剛 石橋ホーム資材(株)(建築資材販売・リフォーム業)
〒 252-0141 ☎ 042-773-0100
相模原市緑区相原 5-12-1

比嘉 祐太郎 横浜金属(株)(貴金属精錬)
〒 252-0133 ☎ 042-773-4411
相模原市緑区橋本台 3-5-3

【ま】

樋口 陽平 (株)樋口総合研究所(システム・ソフトウェア開発・運用・保守など)
〒 252-0303 ☎ 042-702-9780
相模原市南区相模大野 8-4-2 ラ・メールビル 2F

前田 哲郎 (株)前田工務店(建設業)
〒 243-0410 ☎ 046-206-4722
海老名市杉久保北 1-11 金子工場 2F

日野 卓哉 (株)スポーツクラブ相模原(サッカークラブの経営)
〒 252-0231 ☎ 042-810-7777
相模原市中央区相模原 5-1-19

丸山 隆司 (株)サージュントフーズ(飲食店)
〒 252-0333 ☎ 042-746-6204
相模原市南区東大沼 4-4-22

平沙 隆 (有)東西(電気工事業)
〒 252-0134 ☎ 042-762-88445
相模原市緑区下九沢 2347-3

松浦 孝之 (株)松浦工務店(型枠大工)
〒 252-0136 ☎ 042-713-3355
相模原市緑区上九沢 114-1

平田 徹 (株)ユニックス
〒 252-0328 ☎ 042-748-9836
相模原市南区麻溝台 6-17-6

松下 龍太 (株)FORT
〒 252-0327 ☎ 046-256-9394
相模原市南区磯部 1176

平野 晋哉 合資会社ブーズネット(web制作)
〒 252-0237 ☎ 042-704-0237
相模原市中央区千代田 3-4-4

的場 菜月 プライベートサロンBroom(ネイルサロン)
〒 252-0231 ☎ 042-851-3078
相模原市中央区相模原 2-3-7 MARIES WEB 101

廣川 知典 (株)ライフクト(iPhone修理・買取・パーツ販売)
〒 252-0303 ☎ 042-767-5776
相模原市南区相模大野 5-27-22

三澤 崇典 焼肉・ホルモン・ぼなべてい(飲食店)
〒 252-0303 ☎ 042-748-8670
相模原市南区相模大野 3-3-2-217 ボーノ相模大野

福島 純平 (有)双葉建設(土木業)
〒 195-0063 ☎ 042-860-7236
町田市野津田町 2754-2

水野 匡 ミズノ ブルーフ プロデュース(総合防水工事業)
〒 195-0063 ☎ 042-708-9620
町田市野津田町 2858-10

藤原 智春 (株)智美装(左官・タイル工事業)
〒 242-0003 ☎ 042-747-2222
大和市林間 2-8-7

溝口 揚三 (株)サンライズ(IT事業)
〒 252-0239 ☎ 042-759-5551
相模原市中央区中央 3-14-12 山久第一ビル 8 F

藤田 寛之 相模原中央総合法律事務所(弁護士・共同代表)
〒 252-0231 ☎ 042-704-6577
相模原市中央区相模原 2-1-5 サトウビル 5 階

三井 康弘 (株)三井製作所(工業用パッキン材加工・販売)
〒 194-0035 ☎ 042-794-6766
東京都町田市忠生 2-27-67

古木 哲郎 (株)古木重機運輸(運送業)
〒 252-0244 ☎ 042-762-8181
相模原市中央区田名 1347

宮川 竜弥 宮川通信(通信工事業)
〒 252-0243 ☎ 042-763-4160
相模原市中央区上溝 4508-8

星野 勇武 ハイサイキッチン(飲食店)
〒 252-0231 ☎ 042-707-9943
相模原市中央区相模原 4-1-21 寿司儀ビル 2 階

宮崎 秀哲 三井住友トラスト不動産(株)
〒 252-0303 ☎ 042-765-4911
相模原市南区相模大野 3-13-7

細野 耀平 NPO法人相模原ライズアスリートクラブ(総合型地域スポーツクラブ)
〒 252-0206 ☎ 042-815-3094
相模原市中央区淵野辺 5-5-1

宮崎 裕樹 (株)エルビーネクスト(ダスキンレンタル・販売)
〒 252-0244 ☎ 042-764-2611
相模原市中央区田名 6342-1

本橋 幸玄 HARUエンタテインメント(有) (編集プロダクション)
〒 252-0237 ☎ 042-754-6888
相模原市中央区千代田 1-6-8

山本 寿徳 (有)スリーエル
〒 252-0231 ☎ 042-756-6555
相模原市中央区相模原 3-8-22

森 徳幸 森塗装 (塗装業)
〒 193-0816 ☎
東京都八王子市大楽寺町 262-11

山本 隆人 (株)オネストライフ (不動産貸付業)
〒 252-0311 ☎ 042-745-8888
相模原市南区東林間 5-1-9 第一誠ビル 2F

森 博嗣 (株)ニューテック東京 (電気通信工事業)
〒 252-0237 ☎ 042-755-5464
相模原市中央区千代田 4-1-4

山森 啓太 (株)メディカルライフケア (総合福祉事業<介護保険事業>)
〒 254-0065 ☎ 0463-37-3366
平塚市南原 2-1-12

森 道洋 (株)オフィスフォーユー (不動産業)
〒 252-0156 ☎ 042-780-8005
相模原市緑区青山 463-15

結縄 玲以 (株)ユイナワ (木製建具製造販売業)
〒 252-0237 ☎ 042-752-2109
相模原市中央区千代田 6-8-5

【や】

横山 真琴 レサルクセス (エステティックサロン・美容機器の卸販売)
〒 252-0303 ☎ 090-6926-2965
相模原市南区相模大野 8-10-4 101 セントラルビル 501

八木 健芳 (有)ヤギ・リカーズ (酒類製造・販売)
〒 252-0344 ☎ 042-756-5230
相模原市南区古淵 2-2-16

吉田 茂司 (株)グローバルホスピタリティ (飲食業)
〒 252-0231 ☎ 042-810-0567
相模原市中央区相模原 2-10-1GAPSビル

山際 諒 吉原バレエ学園
〒 252-0314 ☎ 042-748-8842
相模原市南区南台 3-12-12

吉田 朋弘 (株)APO-COMI (総合ビルメンテナンス業)
〒 252-0242 ☎ 042-769-3494
相模原市中央区横山 2-8-16

山口 和成 K・S-LINE(株) (建設業)
〒 252-0135 ☎ 042-855-9276
相模原市緑区大島 2310-2

義見 亮太 (株)正建 (総合建設業)
〒 252-0328 ☎ 042-742-2955
相模原市南区麻溝台 7-13-19

山口 和規 洋風酒 Bar 奥の掌 (飲食業)
〒 252-0143 ☎ 042-779-6119
相模原市緑区橋本 6-27-3

米川 達 ラディックス(株) (システムソリューション事業・オフィス機器の販売・保守)
〒 194-0022 ☎ 042-710-7011
町田市森野 1-7-23 三井生命町田ビル 6 F

【わ】

山崎 富美雄 セレモニー真富
〒 252-0201 ☎ 042-704-8521
相模原市中央区上矢部 5-15-6 プリマベアラ 205

山崎 正治 よっ葉電設(株) (電気工事)
〒 242-0001 ☎ 046-259-5200
大和市下鶴間 1556-7

若林 直人 (株)若翔 (輸入飲料・食品・雑貨等の輸入及び販売)
〒 252-0241 ☎ 042-707-9957
相模原市中央区横山台 1-17-19

山田 泰輝 (有)相模企画コンサルタント (保険代理店)
〒 252-0232 ☎ 042-750-0178
相模原市中央区矢部 1-14-23

若林 美佳 行政書士事務所わかば (行政書士)
〒 252-0324 ☎ 046-254-0090
相模原市南区相武台 2-7-13

山田 康博 (有)山田土建
〒 252-0321 ☎ 042-746-4613
相模原市南区相模台 6-30-19

渡邊 英治 (株)大真 (仮設トイレ・プレハブハウス・水道工事業)
〒 252-0237 ☎ 042-758-5133
相模原市中央区千代田 2-5-19-1

山内 久美子 ジブラルタ生命保険(株)
〒 252-0239 ☎ 042-758-7689
相模原市中央区中央 1-1-1 4F

渡辺 直人 (有)相都測量設計 (測量業)
〒 252-0231 ☎ 042-752-9424
相模原市中央区相模原 2-3-16-B201

山下 賢 (有)北東サッシ (金属製建具工事全般)
〒 252-0328 ☎ 042-748-3108
相模原市南区麻溝台 2-4-11

渡辺 英行 渡辺英行社会保険労務士事務所
〒 252-0303 ☎ 042-812-3741
相模原市南区相模大野 7-35-1-2206

OB 名簿

【あ】	荒井 達雄 (株)相建開発	第 28 代理事長 (1998 年卒業)	石井 文雄 石井重機(株)	(1999 年卒業)	
青木 慎一 (株)ローゼン	(1982 年卒業)	荒俣 大 東京ユーキ(株)	第 48 代理事長 (2014 年卒業)	石川 廣直 ダイトーホーム(株)	(1991 年卒業)
青島 英臣 (有)カーセールス協栄	(2013 年卒業)	安西 昌彦 丸勝梱包運輸(有)	(2001 年卒業)	石黒 公彦 (株)イーライフ	(1993 年卒業)
赤間 源太郎 社会福祉法人相模福祉村	(2006 年卒業)	安藤 功一 (有)安藤鉄工	(1993 年卒業)	石田 孝一 (有)石田ハウジング	(2011 年卒業)
赤間 二郎 衆議院議員	(2008 年卒業)	【い】	石丸 訓仁 石丸商行(有)	(2003 年卒業)	
故 秋石 圭一	第 16 代理事長 (1989 年卒業)	飯島 仁 武相新聞	(1978 年卒業)	故 磯崎 要至 (1976 年卒業)	
秋澤 俊明 (株)エコ・アシスト	(2010 年卒業)	飯田 育太郎 (株)イイダ	(2008 年卒業)	市村 努 (有)市村塗装	第 46 代理事長 (2012 年卒業)
秋本 博寿 (株)勝文堂印刷	(2010 年卒業)	飯田 亨	第 3 代理事長 (1971 年卒業)	伊藤 信吾 弁護士法人相模原法律事務所	第 37 代理事長 (2004 年卒業)
秋山 貴浩 (株)アキュアリンク	(2010 年卒業)	飯淵 雅敏 松原電気工業(株)	第 17 代理事長 (1983 年卒業)	伊藤 弘通 (株)タウンニュース社	(1996 年卒業)
秋山 直樹 新光ネームプレート(株)	(2014 年卒業)	井口 学 司法書士井口学事務所	第 40 代理事長 (2005 年卒業)	伊藤 昌弘 ㈱アイ・アンド・エー設計事務所	(1986 年卒業)
浅見 長栄 (株)寿し徳	(1971 年卒業)	井口 実紀 社会保険労務士井口実紀事務所	(2008 年卒業)	伊藤 由樹 (株)相模工業	(2011 年卒業)
足立 正 足立行政書士事務所	(2008 年卒業)	池田 国広 池田自動車工業(株)	(2014 年卒業)	稲葉 俊明 稲葉電気興業(株)	(2012 年卒業)
阿部 善博 相模原市議会議員	(2010 年卒業)	伊澤 直通 進和工業(株)	(2013 年卒業)	稲光 敬士 国土計画(株)	(1993 年卒業)
阿部 善之 コーシン企画	(2013 年卒業)	石井 隆雄 アポロ開発(株)	(2000 年卒業)	井上 栄次 井上栄次税理士事務所	(1999 年卒業)
甘利 明 甘利明事務所	(1989 年卒業)	石井 中和 石井倉庫(株)	(1993 年卒業)	井上 一良 (株)神生屋	(1971 年卒業)

井上 穰 ㈱井上穰建築デザイン研究所 (1984年卒業)	榎本 淳一 J・I・T 24サービス㈱ (2001年卒業)	岡 康史 大栄フーズ㈱ (2012年卒業)
井上 誠士 管材機器㈱ 第44代理事長 (2013年卒業)	榎本 辰男 BP相模原農園㈱ (1992年卒業)	岡崎 健 天縛山蓮乗院 (1979年卒業)
井上 徳蔵 ㈹アイトーク (1979年卒業)	遠藤 宝 ㈱タカラ (1991年卒業)	岡田 耕次郎 岡田・沼法律事務所 (2014年卒業)
井上 護 井上歯科医院 (1978年卒業)	【お】	小形 年雄 相模小形不動産㈹ 第19代理事長 (1987年卒業)
今井 英介 (株)古壇 (2011年卒業)	大隈 秀仁 ㈱アコック 第36代理事長 (2001年卒業)	尾形 秀和 インテリア 秀 (2014年卒業)
今井 邦夫 ㈱古壇 (1983年卒業)	大谷 禎亨 (1973年卒業)	岡村 洋介 ㈹スーク (2003年卒業)
今井 仁之 ㈹相模共永住宅 (1994年卒業)	大谷 真司 ㈹ミサト企画 (1999年卒業)	岡本 敬司 ㈹相模ビルテクノサービス (1998年卒業)
岩井 健二郎 ソニー生命保険㈱ (1996年卒業)	故 大塚 知雄 (1972年卒業)	小川 一夫 オーティ工業㈱ 石材事業部 (1976年卒業)
【う】	大槻 研 相模原市議会 (2014年卒業)	小川 一弘 ㈱アマギ (2008年卒業)
植木 政成 司法書士植木事務所 (2012年卒業)	大坪 征弘 エイト技工㈱ (2009年卒業)	小川 洪太 ㈱小川フェニックス (1987年卒業)
故 内田 一夫 第20代理事長 (1989年卒業)	大貫 一男 ㈹大貫米穀 第10代理事長 (1975年卒業)	小川 達也 小川工業㈱ (2003年卒業)
内田 寛 ㈱ソーワ空研 第6代理事長 (1974年卒業)	大貫 功二 大和興産㈱ (1984年卒業)	小川 泰永 ㈹小川電気商会 (1988年卒業)
梅澤 武彦 ㈹梅澤ハウジング 第26代理事長 (1995年卒業)	大貫 信正 (資)大貫洋品店 (1975年卒業)	故 奥森 清 (1973年卒業)
梅澤 豊成 ㈱住栄木材センター (2007年卒業)	大貫 弘子 ㈱おおぬぎ (2005年卒業)	小椋 克也 セフテック㈱ (2012年卒業)
浦上 裕史 菊屋浦上商事㈱ 第22代理事長 (1989年卒業)	大貫 祐一 ㈹大貫産業 (2010年卒業)	小椋 忠正 セイケンホーム㈱ (1991年卒業)
【え】	大野 桂 大野重電土木㈱ (2014年卒業)	小野 太郎 ㈹東京小野屋 (2006年卒業)
江成 二郎 ㈱江成屋 (1997年卒業)	大野 則夫 大野重電土木㈱ (1989年卒業)	小野沢 徹 ㈹アスリート (2012年卒業)
江成 雅子 江成雅子税理士事務所 (2007年卒業)	大箸 了 ㈱ツカーノ (2009年卒業)	小俣 和博 ㈹晶和ギャラリーラ・ロゼ (1993年卒業)
榎本 圭一 ㈱サン・ライフ (2011年卒業)	大嶺 秀樹 リアルデンタルクリニック (1999年卒業)	小俣 邦正 ㈱昭和真空 (1992年卒業)
榎本 秀一 エポック保育園 (2011年卒業)	大山 成男 ㈱ホンダカーズ神奈川西 (1980年卒業)	

【か】		唐橋 一男 (株)サーティーフォー (1999年卒業)	久野 孝広 久野建設(株) (2014年卒業)
香川 正勝 (有)香川タイヤ商会	第15代理事長 (1983年卒業)	川合 貞義 (株)ヘルスケア (1975年卒業)	久野 之浩 (有)久野窓建 (2000年卒業)
角尾 明皇	第30代理事長 (1999年卒業)	川井 俊幸 相模ひまわり幼稚園 (1992年卒業)	久保 徹夫 永進テクノ(株) (1986年卒業)
角尾 勲 サンホテル相模原	(1983年卒業)	川合 靖一 (株)ヘルスケア (2008年卒業)	久保田 栄一 (株)クボタスポーツ (1977年卒業)
角尾 悟	(1988年卒業)	川上 潤 (株)サン・ライフ (2014年卒業)	久保田 護 久保田塗料興業(株) (1993年卒業)
角尾 熱 (株)角尾工務店	(1988年卒業)	河本 俊二 (株)河本総合防災 (1997年卒業)	栗原 貴則 (株)相模レックス (2011年卒業)
鹿島 茂裕 (株)寿食品	(2009年卒業)	神田 益良 (有)小田原屋 (2011年卒業)	黒須 祐一 (有)黒須商事 (2000年卒業)
鹿島 敏裕 (株)寿食品	(2001年卒業)	【き】	黒沼 清治 黒沼商事(株) (1996年卒業)
勝又 淳 勝又木材(株)建築部	(1994年卒業)	菊地 潤 シャディ(株)ミキ (2009年卒業)	【こ】
勝又 博 勝又木材(株)	(1989年卒業)	菊地 太郎 ホクエー産業(株) (2004年卒業)	小池 重憲 (株)小池設備 (2012年卒業)
勝見 勇一 (有)勝見タイヤ商会	(2005年卒業)	菊地 啓之 シャディ(株)ミキ (1987年卒業)	小池 敏範 小池敏範税理士事務所 (1993年卒業)
加藤 光男 (株)井上農園	(1979年卒業)	菊永 雅 菊永建設(株) (2013年卒業)	小磯 英次 (2003年卒業) 社会福祉法人たけのうち福祉会たけのうち保育園
加藤 礼美 プライベートサロン Broom	(2014年卒業)	岸 勲 岸公認会計士事務所 (1982年卒業)	小磯 信一 学校法人小磯学園たけのうち幼稚園 (1992年卒業)
門倉 秋文	(1986年卒業)	喜多 貞夫 (株)喜多商事 (1974年卒業)	故 河野 友治 (1972年卒業)
金井 浩一 金井会計事務所	(2007年卒業)	北島 敬嗣 きもの染色補正 ときわ (2010年卒業)	木暮 隆男 木暮会計事務所 (2014年卒業)
金井 雅人	(2005年卒業)	北永 敏幸 シーサー (1996年卒業)	小嶋 正行 小嶋庭技社 (1994年卒業)
金指 幹夫 (有)つるや小間物店	(1983年卒業)	霧生 敏幸 (有)霧生工務店 (2005年卒業)	古性 敏行 (有)古性不動産 (1990年卒業)
金子 昌弘 (株)洋文堂	(1987年卒業)	霧生 房夫 (株)ユニティ設計工房 (1990年卒業)	故 古藤 友昭 第4代理事長 (1972年卒業)
金野 浩二 中央総業(株)	(2000年卒業)	【く】	小橋 雄樹 (株)小橋住宅製作所 (1990年卒業)
亀田 博之 三和トレーディング(株)	(1991年卒業)	工藤 元 ジーユニット(株) (2012年卒業)	小林 教利 (1999年卒業)

小林 信二郎 桜井運輸(株) (1987年卒業)	笹崎 智成 (株)スリーワイズ (2011年卒業)	渋谷 光昭 (株)チャーリーチェン (2000年卒業)
小峰 望 のぞみ合同事務所 (2008年卒業)	佐藤 久美子 (株)Dandy and Company (2014年卒業)	嶋津 重忠 (1996年卒業)
小山 昌彦 (1973年卒業)	佐藤 慶二 ソニー生命保険(株) (2000年卒業)	清水 昭智 (株)絆 (2012年卒業)
誉田 正和 J A相模原市旅行センター (2006年卒業)	佐藤 賢一 (有)プログレ (2009年卒業)	清水 賢次 (株)ミノル設備工業 (2001年卒業)
【さ】	佐藤 功岳 (宗)大圓寺 (1988年卒業)	清水 利成 (有)清水電機工業 (2013年卒業)
崔 悦子 焼肉 南大門 (2007年卒業)	佐藤 隆志 (有)クリーンライフサービス (2005年卒業)	清水 寿人 清水木材(株) (2002年卒業)
斉藤 勇 (有)サイトウ (1983年卒業)	佐藤 強志 (有)アート建物管理 (2011年卒業)	白井 淳 白鷹運輸(株) (2009年卒業)
齋藤 佐知子 弁護士法人相模原法律事務所 (2001年卒業)	佐藤 光秀 朝日総業(株)ASA大沼 (2000年卒業)	【す】
齋藤 敬 第34代理事長 (有)昭和建設 (1999年卒業)	座間 英樹 (株)座間印刷舎 (2003年卒業)	菅沼 山一 第14代理事長 (有)菅沼商店 (1982年卒業)
齋藤 朝宣 (株)ウイツココミュニティー (2012年卒業)	澤田 真司 喰心房つかさ (2013年卒業)	杉岡 芳樹 第21代理事長 相模ガス(株) (1990年卒業)
齋藤 秀雄 (株)ときわホーム (1988年卒業)	【し】	鋤柄 和弘 中央町田法律事務所 (2011年卒業)
斉藤 道夫 (有)フーズ斉藤 (1977年卒業)	篠崎 栄治 日栄建設(株) (2005年卒業)	杉田 竜一 越路屋(コシジヤ) (2004年卒業)
坂下 昌之 坂下行政書士事務所 (2008年卒業)	篠崎 教夫 神奈川中央交通(株)町田営業所 (1990年卒業)	故 鈴木 英次 (1971年卒業)
坂間 果智雄 (株)石久開発 (1987年卒業)	篠崎 幸良 医療法人社団明和会中村病院 (1992年卒業)	鈴木 一満 お茶の山根園相模原本店 (1996年卒業)
坂本 喜一郎 立正保育園 (2007年卒業)	柴田 輝隆 (株)APO-COMI (2012年卒業)	鈴木 高広 第41代理事長 (有)湘興不動産 (2009年卒業)
坂本 重正 (株)坂本商事 (1988年卒業)	柴田 裕美 (有)ビーコム (2010年卒業)	鈴木 誠 ミヤコバス(株) (2012年卒業)
坂元 剛 (2011年卒業)	柴田 正隆 第39代理事長 (株)ウイツココミュニティー (2008年卒業)	鈴木 正晃 (1987年卒業)
櫻内 國富 (1980年卒業)	澁谷 伸一 (株)鍛冶屋 (1996年卒業)	鈴木 正彦 相模原土地開発(株) (2000年卒業)
笹木 信宏 相模原遊技場組合 (2014年卒業)	澁谷 武男 学校法人心宝学園谷口幼稚園 (1990年卒業)	【せ】
佐々木 佳美 (株)ヴィコム (1997年卒業)	澁谷 憲明 プルデンシャル生命保険(株) (2008年卒業)	関 英夫 第31代理事長 関歯科医院 (1997年卒業)

関根 正司 BESPAR(株) (2006年卒業)	田島 浩 (2005年卒業)	中川 正治 中川矯正歯科クリニック (1991年卒業)
関根 雅吾郎 相模原市議会議員 (2011年卒業)	田所 靖浩 (株)田所工業 (2013年卒業)	中川 敏行 (有)ベアーズ・ホーム (2005年卒業)
故 関山 昇 (1999年卒業)	田中 喜一郎 (株)タナカインテリア (1997年卒業)	中川 秀樹 朝日建設(株) (2005年卒業)
【た】	田中 誠一郎 (2010年卒業)	中島 荘三 (有)中島商会 (1975年卒業)
高木 明 (1987年卒業)	田中 尚 (1996年卒業)	故 永瀬 泰敏 第32代理事長 (2000年卒業)
故 高木 史郎 (1975年卒業)	田中 康晴 (2006年卒業)	長友 よしひろ 神奈川県議会議員 (2010年卒業)
高城 秀之 (有)高城建材工業 (2007年卒業)	田辺 徳雄 (有)田辺化成 (2010年卒業)	中野 精二 (1977年卒業)
高木 博 極東損害保険商社 (2001年卒業)	谷 順一 相模総業(株) (2013年卒業)	中村 宣勝 第11代理事長 (株)中村書店 (1984年卒業)
高木 幸夫 高木土地(株) (1986年卒業)	谷合 孝雄 (株)タニアイハウジング (1987年卒業)	中本 太衛 (2005年卒業)
高田 仁 (1971年卒業)	田原 光太郎 (株)シティハウス (2004年卒業)	中吉 一秋 (1986年卒業)
高橋 一昭 (有)高橋嘉一商店 (1998年卒業)	【つ】	那須 隆仁 三恵エンジニアリング(株) (2009年卒業)
高橋 珠美 (有)相都測量設計 (2011年卒業)	塚原 祐太 司法書士塚原事務所 (2013年卒業)	夏目 邦夫 (1973年卒業)
高橋 英樹 サガミ急送(株) (2011年卒業)	土屋 定 第2代理事長 (1967年卒業)	奈良 克美 佐藤石油(株) (1988年卒業)
高橋 良典 (有)建光商事 (1993年卒業)	【て】	成瀬 秀一 neoプラウド(株) (2014年卒業)
高屋敷 依里子 Lounge May PIXIE (2014年卒業)	寺崎 雄介 神奈川県議会議員 (2011年卒業)	【に】
田口 直樹 (株)樹一級建築士事務所 (2005年卒業)	【と】	故 新倉 謙治 (1976年卒業)
竹内 秀男 (1987年卒業)	徳久 京子 (2008年卒業) 弁護士法人相模原法律事務所相模大野事務所	新倉 裕 (有)ユタカ企業 (1993年卒業)
故 武政 参徳 (1978年卒業)	豊田 啓吾 スペースクリエイター(2005年卒業)	西 智巳 (有)スマイル (2007年卒業)
田崎 浩司 田崎浩司司法書士事務所 (2002年卒業)	豊永 浩 (1992年卒業)	西野 逸郎 西野建設(株) (2002年卒業)
田島 一孝 (株)田島商店 (2011年卒業)	【な】	西野 清一 (株)西野工務店 (1997年卒業)

	【ぬ】	林 義彦 (株)祥和工務店 (1999年卒業)	藤森 重夫 (1989年卒業)
沼尾 一喜 (有)沼尾硝子 (2008年卒業)		原 章 (株)丸大商興(カ)グループ本部 (1976年卒業)	藤由 幸史 (株)スバル精密 (1984年卒業)
沼尾 広喜 HIROEX (2010年卒業)		原 正幸 ハラ・グループ本部 (2007年卒業)	古木 賢治 古木建設(株) (2001年卒業)
	【ね】	坂野 孝信 (有)エスエフ開発 (2006年卒業)	古木 敏夫 (有)古木不動産管理 (1984年卒業)
根岸 喜美夫 (有)相部製作所 (1986年卒業)		【ひ】	古橋 功順 相陽建設(株) (1986年卒業)
故 根本 忠幸 第18代理事長 (1989年卒業)		比嘉 賢太郎 横浜金属商事(株) (2012年卒業)	古橋 裕一 第43代理事長 相陽建設(株) (2013年卒業)
	【の】	樋口 慎一 樋口歯科医院 (1989年卒業)	【ほ】
野崎 徹 第33代理事長 (株)野崎工業所 (2000年卒業)		久野 和教 長松寺 (2013年卒業)	細野 正明 (株)細野測量 (1993年卒業)
故 野田 克人 (1991年卒業)		菱山 雄美 (1989年卒業)	細谷 晃一 相模原食品衛生協会 (1973年卒業)
野田 英樹 北相トラベル(株) (2008年卒業)		日野 武彦 日野行政法務事務所 (2003年卒業)	細谷 政幸 第27代理事長 (有)マサハ (1998年卒業)
	【は】	平賀 周一 (株)平賀 (2011年卒業)	本多 宏明 第29代理事長 (有)ダイリン (1996年卒業)
芳賀 善捷 芳賀建設工業(株) (1986年卒業)		平賀 友子 (株)平賀 (2004年卒業)	【ま】
萩原 明人 萩原造園土木(株) (2006年卒業)		広部 徹也 (有)広部ハウジング (1999年卒業)	前嶋 洋 (有)成洋商事 (2014年卒業)
長谷川 太一 (株)相模ダイワ (2005年卒業)		【ふ】	増田 健海 (有)増田表具店 (2011年卒業)
長谷川 登 長谷川建材土木(株) (1988年卒業)		福永 憲一 (有)福永建築設計事務所 (1992年卒業)	松井 利夫 (株)アルプス技研 (1983年卒業)
長谷川 正夫 (株)長伸 (1990年卒業)		福原 信明 (有)福原建設 (2009年卒業)	松井 耀右 (株)山路フードシステム (2013年卒業)
畠山 三隆 (有)ボンネット (1993年卒業)		福山 茂 フクヤマ画廊 (2000年卒業)	松倉 吉則 (株)松倉建材店 (1992年卒業)
旗手 和誠 (株)ダストソリューション (2012年卒業)		藤岡 康雄 (株)共栄 (2003年卒業)	松下 貴幾 (有)やまと総合保険サービス (2013年卒業)
花形 義一 (1971年卒業)		藤田 勇一 ホワイト急便 (株)モトムラCL (2008年卒業)	松田 壯吾 松田・豊島法律事務所 (1987年卒業)
林 大介 (有)ハヤシ美掃 (2013年卒業)		藤本 昌訓 (1994年卒業)	松並木 潔 松栄自動車(株) (1993年卒業)

松本 賢次 (株)日光通信機 (2013年卒業)	森 義治 (有)モリケン (2009年卒業)	山田 博 (有)タウンホーム (2007年卒業)
【み】	森岡 功樹 (株)アイワ (2009年卒業)	山田 雅弘 (有)山田石油 (1996年卒業)
水谷 好佐 第13代理事長 (1981年卒業)	森下 新一 (株)BMS (2011年卒業)	山根 栄子 (有)町田タイムズ社武相新聞 (1980年卒業)
水谷 典男 水谷商事(株) (1994年卒業)	森光 雄一郎 (有)光屋金物店 (2010年卒業)	山本 茂昭 ライフビズ(有) (2010年卒業)
水谷 好男 谷津建設(株) (2011年卒業)	【や】	山本 正司 山本司法書士事務所 (1988年卒業)
水野 隆弘 第24代理事長 (有)グッドホーム (1992年卒業)	八木 茂 (有)八木生コン (2011年卒業)	山本 浩将 社会保険労務士山本浩将事務所 (2005年卒業)
三ツ木 圭三 (有)メガネ・サンライズ (1995年卒業)	八木 正樹 八木木工(株) (2000年卒業)	山本 博之 (株)相模プリント (2008年卒業)
故 宮崎 直道 第5代理事長 (1975年卒業)	八木 美左男 日本郵便(株)大沢郵便局 (2008年卒業)	【ゆ】
故 宮崎 昇 第7代理事長 (1973年卒業)	矢越 孝裕 (株)アクタス (2003年卒業)	第38代理事長 結繩 公機 (株)ユイナワ (1985年卒業)
宮崎 誠生 (有)宮崎園芸 (2012年卒業)	故 矢島 治 初代理事長 (1966年卒業)	【よ】
宮崎 雄一郎 市議会議員 (2006年卒業)	故 山内 大 第8代理事長 (1974年卒業)	横江 利夫 旭フォークリフト(株) (2014年卒業)
宮田 奈美 office mina (2013年卒業)	山際 華代子 (有)吉原バレエ学園 (1998年卒業)	横山 智久 ラクサニー(株) (2013年卒業)
三輪 かほる 三輪行政書士事務所 (2009年卒業)	山口 昭洋 (有)ワイエムエイ企画 (1985年卒業)	横山 泰夫 横山泰夫税理士事務所 (1991年卒業)
【む】	山口 章 第35代理事長 (2001年卒業)	吉井 邦光 吉井測量(株) (2013年卒業)
村井 康一 村井写真館 (1997年卒業)	山口 豊 (有)ワイエムエイ企画 (2014年卒業)	吉葉 忠雄 吉葉シャフト(株) (1981年卒業)
村越 巧 (株)ローヤル・サービス (1991年卒業)	山崎 章 第23代理事長 (株)スルガホールディングス (1990年卒業)	【ら】
村山 史明 (1988年卒業)	山下 晶弘 (株)タウンニュース社 (2000年卒業)	李 爽 (有)スリーエル (2010年卒業)
【も】	山下 智也 (有)山下鋼業 (2014年卒業)	【わ】
本村 賢太郎 もとむら賢太郎事務所 (2010年卒業)	山田 真也 ヤマダ企画 (1985年卒業)	渡辺 章 第25代理事長 (有)渡辺製作所 (1990年卒業)
森 正雄 第47代理事長 森会計事務所 (2012年卒業)	故 山田 毅 (1982年卒業)	

50周年会務渉外担当理事 岩田 淳

本年、公益社団法人相模原青年会議所は、多くの行政、関係団体の皆様、各地会員会議所の同志達、そして創立から相模原市の発展に寄与なされた先輩諸氏の皆様に支えられ、創立50周年を迎えることが出来ました。ここに改めて御礼を申し上げます。

この度は、50周年会務渉外担当理事という立場で50周年の集大成たる記念誌を作成する担いを頂きましたが、取材・調査を重ねていくうちに、この50年間には、未だ触れられていない多くの財産が眠っていることが分かりました。この記念誌一冊では到底取り上げられないほどに、笑顔と汗と涙、そして学びに満ちた数多のエピソードがあります。

この50周年記念誌ではそんな先輩諸氏の足跡を辿ることにより、改めて歴史を体感して頂きたいと思えます。歴史を知ることは誇りに繋がり、誇りを持つことは自己肯定、ひいては郷土愛に繋がります。そして最終的により良い運動へと繋がると確信しています。そんな思いを込めて、50周年特別室一同編集をさせて頂きました。

また、関係各位の皆様にはより相模原JCを深く理解して頂き、これからの協働に一層のご協力を願えたらと思えます。

この創立50年という大きな節目の年に、50周年会務渉外担当理事の大役を務めさせて頂き、多くのメンバーと共に、この1年間運動ができましたこと、またご指導ご鞭撻頂きました関係各位の皆様には改めて御礼申し上げます。

追伸 60周年にはまた再び記念誌を作成すると思えます。その際には、50周年特別室メンバー一同、いつでもご支援致しますので、お気軽にご連絡下さい。

副理事長 兼 50周年実行委員会実行委員長 宇田川 隼

50周年特別室

室長兼副実行委員長 清水 淳一郎

50周年式典委員会

委員長 高橋 和也

50周年会務・渉外

担当理事 岩田 淳

副委員長 今西 隆彦

副委員長 岡野 智博

総括幹事 伊藤 征洋

運営幹事 伊藤 学

委員 小田 貴久

委員 大谷 寛一

委員 宮崎 裕樹

委員 宮川 竜弥

委員 秋森 誠一

50周年交流委員会

委員長 岩崎 恵子

副委員長 池田 弘城

副委員長 金子 裕介

総括幹事 秋野 真吾

運営幹事 西元寺 将大

委員 石川 将誠

委員 熊谷 直樹

委員 伊藤 英明

委員 山本 寿徳

委員 黒澤 恒一

委員 川口 敏男

THE 50th ANNIVERSARY

公益社団法人相模原青年会議所 創立50周年記念誌

JCI® Junior Chamber International Sagamihara

